

福井県埋蔵文化財調査報告 第121集

府中石田遺跡

— 舞鶴若狭自動車道建設事業に伴う調査 —

第1分冊

— 本文編 —

2 0 1 1

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

序 文

本書は、舞鶴若狭自動車道建設に伴い、小浜市府中において平成17年度から19年度にかけて発掘調査を実施した府中石田遺跡の発掘調査の成果をとりまとめたものです。

府中石田遺跡は北川下流左岸の沖積平野に位置しており、若狭地方で初めて方形周溝墓群を発見しました。弥生時代中期後半から後期にかけてのもので、総検出数は約60基にもおよびます。埋葬施設では組合式木棺を県内で初めて検出することができました。また、方形周溝墓群とは区域を違えて建物跡を多数検出したほか、これも県内で初めてのことで、分銅形土製品や巴形銅器が出土し、地域の拠点的な集落であったと考えられます。今回の調査により、小浜平野の中央部がすでに弥生時代には墓域や居住域として開発されていたこと、方形周溝墓という近畿およびその周辺地域で一般的な墓制が若狭地方へも波及していたことが明らかとなりました。当地域における弥生時代研究の画期となる成果といえるでしょう。

本書が今後地域の歴史研究に寄与すると共に、各方面で多くの方々に活用される一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施から報告書の刊行に至るまで、関係諸機関をはじめ、多くの皆様方から多大なご支援とご協力を賜りましたことに、厚くお礼申し上げます。

平成23年3月

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
所 長 南 洋 一 郎

例 言

- 1 本書は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが舞鶴若狭自動車道建設事業に伴い、平成17年度から19年度にかけて実施した府中石田遺跡(福井県小浜市府中所在)の発掘調査報告書である。なお、本書は、本文編および写真図版編の計2分冊で構成される。
- 2 府中石田遺跡の調査は、西日本高速道路株式会社関西支社福知山高速道路事務所の依頼を受けて福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが実施した。
- 3 発掘調査は、平成17年(2005)6月1日から平成19年(2007)7月31日までと、平成20年(2008)1月4日から1月31日まで実施した。調査担当者は以下のとおりである。なお、担当者の役職は調査当時のものである。
平成17年度：主任青木隆佳、文化財調査員白川綾・坪田聡子・田中祐二、嘱託職員今林信祐・北野薫・藤井久美子・沓岐一哉
平成18年度：主任青木隆佳、主査白川綾、文化財調査員田中祐二、嘱託職員今林信祐・藤井久美子・池原悠貴・島山真証
平成19年度：主任青木隆佳、主査坪田聡子・田中祐二、嘱託職員今林信祐・池原悠貴・森下智恵
- 4 府中石田遺跡の出土遺物の整理作業は平成18年(2006)4月2日から平成23年(2011)3月31日まで、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターにて実施した。
- 5 本書の編集は田中があたり、青木、白川、田中、主任富山正明、文化財調査員杉山拓己、嘱託職員井之口茂、堀口悟史が分担して執筆した。また、第5章については、光谷拓実氏(総合地球環境学研究所・奈良文化財研究所)、今村峯雄氏(国立歴史民俗博物館研究部 現名誉教授)、坂本稔氏(国立歴史民俗博物館研究部)、小林謙一氏(中央大学文学部)、松崎浩之氏(東京大学大学院工学系研究科)より原稿を頂いた。さらに第6・7章については、各分析を委託した株式会社古環境研究所、株式会社パレオ・ラボおよび財団法人元興寺文化財研究所から提出された成果報告に田中が加筆、編集して掲載した。なお、青銅製品の鉛同位体比分析の成果報告については元興寺文化財研究所を通じて西田京平氏・山口将史氏・平尾良光氏(別府大学大学院文学研究科)より頂いている。執筆の分担は以下のとおりである。
第1章 青木 田中
第2章 田中
第3章 田中
第4章 第1節 1～3・5～7 田中 4 田中 堀口
第2節 1・3 杉山 2 田中 4 富山 5 井之口
第5章 第1節 白川
第2節 光谷
第3節 今村 坂本 白川
第4節 小林 坂本 松崎 白川
第6章 第1節 田中
第2節 古環境研究所
第3節 1・2 鈴木茂(パレオ・ラボ) 3 藤根久(パレオ・ラボ)
第7章 第1節 田中
第2節 1～3 川本耕三(元興寺文化財研究所) 4 西田 山口 平尾
第8章 第1節 杉山
第2節 田中
第3節 井之口
第4節 杉山 田中
- 6 府中石田遺跡に関する成果のこれまでの発表のうち、本書と齟齬がある場合は、本書をもって訂正したものと了解されたい。
- 7 遺構のトレース図化および、出土土器の実測・トレース図化は株式会社イビソクに委託して主に実施し、一部

改変して使用した。そのほかは福井県教育庁埋蔵文化財調査センターにて実施した。写真撮影は、遺構は各年度の調査担当者が、遺物は土器を青木、石器・石製品・玉類を富山、金属製品を田中・富山、木製品を田中・井之口がそれぞれ主体となって行った。

- 8 本書に掲載した地形図および遺構図は国際航業株式会社(平成17年度：Ⅰ・Ⅱ区)、株式会社かんこう(平成18年度：Ⅲ～Ⅴ・Ⅶ区)、株式会社ソクタント(平成19年度：Ⅵ・Ⅷ区)、富士測量設計株式会社(平成19年度：Ⅸ区)に委託して作成したものを一部改変して使用した。上空からの写真は、航空測量時に各社が撮影したものである。
- 9 出土した青銅製品については、元興寺文化財研究所に保存処理および化学分析を委託した。木製品については保存処理と樹種鑑定を株式会社吉田生物研究所に委託し、その再鑑定および柱根・礎板類の樹種鑑定を森林総合研究所の能城修一氏に依頼した。また、年輪年代測定を奈良文化財研究所(当時)の光谷拓実氏に、¹⁴C年代測定を国立歴史民俗博物館(当時)の今村峯雄氏・小林謙一氏に依頼した。
- 10 本書に掲載した遺物と調査に際して作成した図面・写真は、一括して福井県教育庁埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 11 発掘調査ならびに本書の作成にあたり、次の方々および機関のご協力・ご教示を得た(五十音順・敬称略)。
今村峯雄 伊藤淳史 伊庭功 扇崎由 恩田朋美 川越光洋 川崎志乃 楠正勝 小林謙一 坂本稔
佐々木由香 笹沢正史 佐野晋一 下仲隆浩 田尻義了 中川律子 西島伸彦 能城修一 馬場伸一郎
久田正弘 深澤芳樹 福海貴子 藤井整 藤田英博 堀大介 松川雅弘 松崎浩之 的場茂晃 光谷拓実
望月由佳子 桃井宏和 安田啓介 山田昌久 吉岡泰英
小浜市世界遺産推進室 京丹後市教育委員会 国立歴史民俗博物館 出土木器研究会 森林総合研究所 奈良文化財研究所 西日本高速道路株式会社 福井県立一乗朝倉氏遺跡資料館 福井県立恐竜博物館 福井県立若狭歴史民俗資料館 福知山市教育委員会 与謝野町教育委員会 若狭湾エネルギー研究センター
- 12 発掘調査には、地元の方々の参加・ご協力を得た。また、遺物整理作業は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの整理作業員があたった。

凡 例

- 1 本書における水平レベルの表示は海拔高(m)を示し、方位はすべて座標北を用いた。また、X・Y座標値は国土方眼座標系第Ⅵ系にもとづく。
- 2 本書で用いた遺構記号は、方形周溝墓：ST、土坑(木棺)墓：SX、掘立柱建物：SB、周溝建物：SH、井戸：SE、土坑：SK、ピット(柱穴など)：SP、溝・旧河道：SDである。ただし、これらは現地調査時に使用した記号であり、報告にあたって一部については遺構種別との間に齟齬が生じている。
- 3 土器の器種名は、一部を除いて「～形土器」を省略し、単に壺・甕・高杯などと記載した。
- 4 色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を基準とする。
- 5 土層断面図および遺物出土状況図では、黒塗りが土器、断面斜線トーンが自然木・木製品、断面白抜きが礫・石器の各断面を示す。なお、遺物出土状況図に掲載した土器実測図の縮尺は1/12である。
- 6 遺物実測図と写真図版などの遺物番号は符号する。写真の縮尺は不同である。
- 7 遺構一覧表に示した計測値はすべて遺構検出面を基準として測量図上で測定・算出した概測値である。なお、面積の計測にはTAMAYA PLANIX 7(タマヤ計測システム株式会社製)を用いた。
- 8 各遺物観察表における()内の計測値は残存値を示す。

目 次

第1章	調査の経緯	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の経過	1
第2章	遺跡の地理的・歴史的環境	5
第1節	地理的環境	5
第2節	歴史的環境	6
第3章	遺跡の概要	9
第1節	遺跡の概要	9
第2節	グリッド設定と標準土層	9
第4章	遺構と遺物	31
第1節	遺構	31
第2節	遺物	266
第5章	年代測定	401
第1節	分析に至る経緯	401
第2節	府中石田遺跡出土木材の年輪年代	402
第3節	府中石田遺跡出土木棺・掘立柱建物柱根の ¹⁴ C年代測定	407
第4節	府中石田遺跡出土土器付着物試料の ¹⁴ C年代測定	414
第6章	古環境の復元	425
第1節	分析に至る経緯	425
第2節	平成19年度の分析結果	426
第3節	平成20年度の分析結果	435
第7章	青銅製品の自然科学的分析	449
第1節	分析に至る経緯	449
第2節	分析の経過と結果	449
第8章	総括	457
第1節	遺物—主に弥生時代の土器様相について—	457
第2節	遺構について	462
第3節	掘立柱建物について	466
第4節	遺跡の変遷と位置付け	470

写真図版目次

- 卷首図版 1 (1) 方形周溝墓 (2) 木棺検出状況 (3) 周溝遺物出土状況
 2 (1) 弥生前期壺出土状況 (2) 土器棺墓検出状況 (3) 井戸内浄水施設検出状況
 (4) 指物出土状況 (5) 軸受け出土状況
 3 (1) 赤彩土器 (2) 管玉・勾玉 (3) ガラス小玉 (4) 分銅形土製品
 (5) 巴形銅器 (6) 銅鏃 (7) 儀仗

[第2分冊]

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 図版第 1 遺跡 (1) 調査地遠景(東上空より) | 図版第 17 遺構 (1) ST9 第1埋葬施設 |
| (2) 調査地遠景(北上空より) | (2) ST11[Ⅱ区側]全景(南より) |
| 図版第 2 遺跡 (1) 調査地遠景(西上空より) | 図版第 18 遺構 (1) ST12全景(西より) |
| (2) 調査地遠景(南上空より) | (2) ST13[Ⅱ区側]全景 |
| 図版第 3 遺跡 I区全景(上空より) | 図版第 19 遺構 (1) ST14・15全景(西より) |
| 図版第 4 遺跡 Ⅱ区全景(上空より) | (2) ST16全景(西より) |
| 図版第 5 遺跡 (1) Ⅲ区全景(東上空より) | 図版第 20 遺構 (1) ST17[Ⅱ区側]全景 |
| (2) Ⅳ区西半(上空より) | (2) ST17東溝 遺物出土状況 |
| 図版第 6 遺跡 Ⅳ区全景(東上空より) | (3) ST17東溝 遺物出土状況 |
| 図版第 7 遺跡 (1) Ⅵ区全景(南上空より) | (4) ST17東溝 遺物出土状況 |
| (2) Ⅷ区全景(上空より) | 図版第 21 遺構 (1) ST17北溝 遺物出土状況 |
| 図版第 8 遺構 (1) ST1 全景(西より) | (2) ST18全景(西より) |
| (2) ST1 東溝 遺物出土状況 | 図版第 22 遺構 (1) ST18東溝 遺物出土状況 |
| (3) ST1 南溝 遺物出土状況 | (2) ST18南溝 遺物出土状況 |
| 図版第 9 遺構 (1) ST2 全景(西より) | 図版第 23 遺構 (1) ST19[Ⅱ区側]全景(南より) |
| (2) ST2 木棺出土状況 | (2) ST20全景(南より) |
| 図版第 10 遺構 (1) ST3 全景(西より) | 図版第 24 遺構 (1) ST21全景(西より) |
| (2) ST3 南溝 遺物出土状況 | (2) ST21東溝 礫出土状況 |
| 図版第 11 遺構 (1) ST3 西溝 遺物出土状況 | 図版第 25 遺構 (1) ST22全景(西より) |
| (2) ST4 全景(南より) | (2) ST22第1・2埋葬施設 |
| 図版第 12 遺構 (1) ST5 全景(西より) | 図版第 26 遺構 (1) ST23全景(西より) |
| (2) ST5 西溝 遺物出土状況 | (2) ST23南溝 礫出土状況 |
| 図版第 13 遺構 (1) ST5 北溝 遺物出土状況 | 図版第 27 遺構 (1) ST26全景(南より) |
| (2) ST5 西溝 遺物出土状況 | (2) ST26西溝 遺物出土状況 |
| (3) ST5 西溝 遺物出土状況 | 図版第 28 遺構 (1) ST27全景(南より) |
| (4) ST5 西溝 遺物出土状況 | (2) ST28全景(西より) |
| (5) ST5 木棺出土状況 | 図版第 29 遺構 (1) ST29[Ⅳ区側]全景(南より) |
| 図版第 14 遺構 (1) ST6 全景(南より) | (2) SD321遺物出土状況 |
| (2) ST7 全景(南より) | (3) SD321遺物出土状況 |
| 図版第 15 遺構 (1) ST8 全景(南より) | 図版第 30 遺構 (1) ST30全景(西より) |
| (2) ST8 東溝 遺物出土状況 | (2) ST31全景(東より) |
| 図版第 16 遺構 (1) ST9 全景(西より) | 図版第 31 遺構 (1) ST32全景(北より) |
| (2) ST9 北溝 遺物出土状況 | (2) ST32東溝 遺物出土状況 |
| (3) ST9 東溝 遺物出土状況 | 図版第 32 遺構 (1) ST32東溝 遺物出土状況 |
| (4) ST9 南溝 遺物出土状況 | (2) ST32西溝 遺物出土状況 |
| (5) ST9 南溝 遺物出土状況 | (3) ST33全景(北より) |

- | | | | |
|-----------|--|-----------|--|
| 図版第 33 遺構 | (1) ST33北溝 遺物出土状況
(2) ST32北溝・ST33東溝 土層断面 | 図版第 53 遺構 | (1) SK112・113検出状況
(2) SK112半截状況(西より)
(3) SK113半截状況(東より)
(4) SK116検出状況(北より) |
| 図版第 34 遺構 | (1) ST33西溝 遺物出土状況
(2) ST33西溝 遺物出土状況 | 図版第 54 遺構 | (1) SB1 全景(南より)
(2) SB2 全景(南より) |
| 図版第 35 遺構 | (1) ST35全景(西より)
(2) ST36全景(南より) | 図版第 55 遺構 | (1) SB1・3 全景(南より)
(2) SB5 全景(南より) |
| 図版第 36 遺構 | (1) ST37全景(南より)
(2) ST38全景(南より) | 図版第 56 遺構 | (1) SB6 全景(東より)
(2) SB7 全景(西より) |
| 図版第 37 遺構 | (1) ST38西溝 遺物出土状況
(2) ST39・43全景(西より) | 図版第 57 遺構 | (1) SB4・8 全景(南より)
(2) SB8 [SP30]礎板
(3) SB8 [SP63]礎板
(4) SB8 [SP68]礎板
(5) SB4 [SP62]礎板 |
| 図版第 38 遺構 | (1) ST39西溝 遺物出土状況
(2) ST43西溝 遺物出土状況 | 図版第 58 遺構 | (1) SB9 全景(南より)
(2) SB10全景(東より) |
| 図版第 39 遺構 | (1) ST40・41全景(南より)
(2) ST44全景(南より) | 図版第 59 遺構 | (1) SB12全景(南より)
(2) SB14全景(北より) |
| 図版第 40 遺構 | (1) ST45全景(南より)
(2) ST45西溝 遺物出土状況 | 図版第 60 遺構 | (1) SB15全景(西より)
(2) SB17全景(東より) |
| 図版第 41 遺構 | (1) ST46全景(北より)
(2) ST47全景(西より) | 図版第 61 遺構 | (1) SB18検出状況(北より)
(2) SB18完掘状況(北より) |
| 図版第 42 遺構 | (1) ST47北溝 遺物出土状況
(2) ST47西溝 遺物出土状況 | 図版第 62 遺構 | (1) SB18[SP661]柱根
(2) SB18[SP662]柱根
(3) SB18[SP664]柱根
(4) SB18[SP665]柱根
(5) SB18[SP666]柱根
(6) SB19[SP719]柱根
(7) SB19[SP720]柱根
(8) SB19[SP722]柱根 |
| 図版第 43 遺構 | (1) ST48全景(北より)
(2) ST49・50・52・53・57全景 | 図版第 63 遺構 | (1) SB19全景(北より)
(2) SB27全景(西より) |
| 図版第 44 遺構 | (1) ST50北溝 遺物出土状況
(2) ST50木棺出土状況 | 図版第 64 遺構 | (1) SB23・24検出状況(南より)
(2) SB23・24完掘状況(南より) |
| 図版第 45 遺構 | (1) ST54全景(西より)
(2) ST54南溝 遺物出土状況 | 図版第 65 遺構 | (1) SB23[SP695]柱根
(2) SB23[SP700]柱根
(3) SB23[SP702]柱根
(4) SB23[SP704]柱根
(5) SB23[SP703]柱根
(6) SB24[SP707]柱根
(7) SB24[SP712]柱根
(8) SB24[SP713]柱根 |
| 図版第 46 遺構 | (1) ST54北溝 遺物出土状況
(2) ST54西溝 遺物出土状況
(3) ST55全景(南より) | 図版第 66 遺構 | (1) SB25検出状況(南より)
(2) SB25完掘状況(南より) |
| 図版第 47 遺構 | (1) ST58西溝 遺物出土状況
(2) ST61北溝 遺物出土状況 | 図版第 67 遺構 | (1) SB25[SP559]柱根
(2) SB25[SP562]柱根
(3) SB25[SP564]柱根
(4) SB25[SP565]柱根 |
| 図版第 48 遺構 | (1) ST24・60全景(南より)
(2) ST60北溝 遺物出土状況 | | |
| 図版第 49 遺構 | (1) ST62全景(東より)
(2) ST62東溝 遺物出土状況 | | |
| 図版第 50 遺構 | (1) ST62北溝 遺物出土状況
(2) ST62北東隅 遺物出土状況
(3) ST62東溝 遺物出土状況
(4) ST62南東隅 遺物出土状況
(5) ST62西溝 遺物出土状況 | | |
| 図版第 51 遺構 | (1) SX3 検出状況(南より)
(2) SX3 木棺内完掘状況
(3) SX8 検出状況(北より)
(4) SX8 木棺内完掘状況 | | |
| 図版第 52 遺構 | (1) SX4 全景(西より)
(2) SX6 全景(南より)
(3) SX7 遺物出土状況
(4) SX35木棺出土状況
(5) SK83遺物出土状況
(6) SX27遺物出土状況 | | |

	(5) SB25[SP566]柱根	(3) SH11遺物出土状況
	(6) SB25[SP568]柱根	(4) SH12礎板(SP618)
	(7) SB25[SP569]柱根	図版第 81 遺構 (1) SE 1 検出状況(西より)
	(8) SB25[SP570]柱根	(2) SE 2 検出状況(東より)
図版第 68 遺構	(1) SB28・29全景(南より)	図版第 82 遺構 (1) SE 2 遺物出土状況
	(2) SB28[SP592]柱根	(2) SE 2 井戸側完掘状況
	(3) SB28[SP593]柱根	図版第 83 遺構 (1) SK 3 木製品出土状況
	(4) SB28[SP594]柱根	(2) SK 3 礫層上面検出状況
	(5) SB28[SP601]柱根	図版第 84 遺構 (1) SK 3 礫層半截状況
図版第 69 遺構	(1) SB30全景(西より)	(2) SK 3 完掘状況
	(2) SB32全景(南より)	図版第 85 遺構 (1) SK40遺物出土状況
図版第 70 遺構	(1) SB34全景(南より)	(2) SK101遺物出土状況
	(2) SB34[SP1092]柱根	(3) SK109遺物出土状況
	(3) SB34[SP1094]柱根	(4) SK107遺物出土状況
	(4) SB34[SP1098]柱根	図版第 86 遺構 (1) SK110遺物出土状況
	(5) SB34[SP1100]柱根	(2) SK140遺物出土状況
図版第 71 遺構	(1) SB35全景(南より)	図版第 87 遺構 (1) SK111半截状況
	(2) SB39全景(南より)	(2) SK155遺物出土状況
図版第 72 遺構	(1) SB20[SP723]柱根	(3) SK165遺物出土状況
	(2) SB22[SP691]柱根	(4) SK197遺物出土状況
	(3) SB26[SP576]礎板	(5) SP583遺物出土状況
	(4) SB37[SP1159]礎板	(6) SP584遺物出土状況
	(5) SB56[SP615]礎板	(7) SP620遺物出土状況
	(6) SB64[SP1036]柱根	(8) SP880遺物出土状況
	(7) SP668柱根・礎板	図版第 88 遺構 (1) SD 7 杭列(東より)
	(8) SP787柱根	(2) SD10杭列(東より)
図版第 73 遺構	(1) SH 1 全景(南より)	(3) SD11杭列(南より)
	(2) SH 2 全景(西より)	(4) SD19杭列(東より)
図版第 74 遺構	(1) SH 3 全景(西より)	(5) SD21杭列(南より)
	(2) SH 4 全景(北より)	図版第 89 遺構 (1) SD11遺物出土状況
図版第 75 遺構	(1) SH 5・6・7・8 全景(西より)	(2) SD86遺物出土状況
	(2) SH 7・8 全景(北より)	(3) SD164遺物出土状況
図版第 76 遺構	(1) SH 5・6・7・8 遺物出土状況	図版第 90 遺構 (1) SD166遺物出土状況
	(2) SH 8 [SP924]琴柱出土状況	(2) SD168遺物出土状況
図版第 77 遺構	(1) SH 7 ? [SP927]礎板	(3) SD186遺物出土状況
	(2) SH 8 [SP914]礎板	図版第 91 遺構 (1) SD191遺物出土状況
	(3) SH 8 [SP928・929]礎板	(2) SD213遺物出土状況
	(4) SH 8 [SP931・932]礎板	(3) SD216遺物出土状況
	(5) SH 8 [SP933・934]礎板	(4) SD253遺物出土状況
	(6) SH 8 [SP937]礎板	(5) SD253遺物出土状況
	(7) SH 8 [SP942]礎板	図版第 92 遺構 (1) SD324西側 遺物出土状況
	(8) SH 8 [SP1021・1022]礎板	(2) SD324護岸板出土状況
図版第 78 遺構	(1) SH 9 [VI区側]全景(東より)	図版第 93 遺構 (1) SD324東側 遺物出土状況
	(2) SH 9 遺物出土状況	(2) SD363遺物出土状況
	(3) SH 9 礎板(SP974)	(3) SD356遺物出土状況
	(4) SH 9 礎板(SP1199)	図版第 94 遺物 方形周溝墓出土土器
図版第 79 遺構	(1) SH10全景(東より)	図版第 95 遺物 方形周溝墓出土土器
	(2) SH10遺物出土状況	図版第 96 遺物 方形周溝墓出土土器
図版第 80 遺構	(1) SH10屋根材?(SP1108)	図版第 97 遺物 方形周溝墓出土土器
	(2) SH10礎板(SP1122)	図版第 98 遺物 方形周溝墓出土土器

- 図版第 99 遺物 方形周溝墓出土土器
 図版第100 遺物 方形周溝墓出土土器
 図版第101 遺物 方形周溝墓出土土器
 図版第102 遺物 土坑(木棺)墓・周溝建物・井戸
 出土土器
 図版第103 遺物 土坑出土土器
 図版第104 遺物 土器棺
 図版第105 遺物 土坑・ピット・溝
 出土土器
 図版第106 遺物 溝出土土器
 図版第107 遺物 溝出土土器
 図版第108 遺物 溝出土土器
 図版第109 遺物 旧河道SD324出土土器
 図版第110 遺物 (1) 溝・旧河道出土土器
 (2) 包含層ほか出土土器
 図版第111 遺物 包含層ほか出土土器
 図版第112 遺物 (1) 尖頭器・石鏃
 (2) 楔形石器・剥片ほか
 (3) スクレイパー・石包丁
 (4) 大型石包丁
 図版第113 遺物 (1) 打製石斧・磨製石斧・楔形石器
 (2) 磨製石斧・楔形石器・石錘
 (3) 磨石・敲石
 (4) 凹石
 図版第114 遺物 (1) 石皿・台石・凹石
 (2) 砥石
 図版第115 遺物 (1) 砥石
 (2) 紡錘車・石棒ほか
 (3) 管玉・勾玉・玉関係遺物
 (4) 銭貨・鉄鍋
 図版第116 遺物 木製品[農具・指物・祭祀具ほか]
 図版第117 遺物 木製品[鎌柄・櫂・棒状具ほか]
 図版第118 遺物 柱材[SB6・18~20・22~25・30]
 図版第119 遺物 柱材[SB28・34]
 図版第120 遺物 (1) 柱材[SB64]
 (2) 礎板
 (3) 井戸側[SE2]
 図版第121 遺物 木棺[ST2]
 図版第122 遺物 木棺[ST5・50]

挿 図 目 次

第 1 図 道路計画路線と調査位置	2	第20図 調査平面図⑮	25
第 2 図 調査区配置図	4	第21図 調査平面図⑯	26
第 3 図 周辺の地形	5	第22図 調査平面図⑰	27
第 4 図 周辺の遺跡分布図	7	第23図 調査平面図⑱	28
第 5 図 標準土層模式図	10	第24図 調査平面図⑲	29
第 6 図 調査平面図①	11	第25図 調査平面図⑳	30
第 7 図 調査平面図②	12	第26図 ST1 全体・土層断面図	33-34
第 8 図 調査平面図③	13	第27図 ST1 遺物出土状況図	35
第 9 図 調査平面図④	14	第28図 ST1 遺物出土状況図	36
第10図 調査平面図⑤	15	第29図 ST1 遺物出土状況図	37-38
第11図 調査平面図⑥	16	第30図 ST1 埋葬施設実測図	39
第12図 調査平面図⑦	17	第31図 ST1 埋葬施設実測図	40
第13図 調査平面図⑧	18	第32図 ST1 埋葬施設実測図	41
第14図 調査平面図⑨	19	第33図 ST2 全体図	42
第15図 調査平面図⑩	20	第34図 ST2 土層断面・埋葬施設実測図	43
第16図 調査平面図⑪	21	第35図 ST2 埋葬施設実測図	44
第17図 調査平面図⑫	22	第36図 ST3 全体・遺物出土状況図	45-46
第18図 調査平面図⑬	23	第37図 ST3 遺物出土状況図	47
第19図 調査平面図⑭	24	第38図 ST3 埋葬施設実測図	48

第39図	ST 4 実測図	50	第76図	ST22埋葬施設実測図	88
第40図	ST 5 全体・土層断面図	51	第77図	ST22埋葬施設実測図	89
第41図	ST 5 土層断面・遺物出土状況図	52	第78図	ST23全体・土層断面図	90
第42図	ST 5 遺物出土状況図	53	第79図	ST23礎・遺物出土状況図	91
第43図	ST 5 埋葬施設実測図	54	第80図	ST24全体・土層断面図	92
第44図	ST 6 全体・土層断面図	55	第81図	ST24礎出土状況図	93
第45図	ST 6 埋葬施設実測図	56	第82図	ST25実測図	94
第46図	ST 7 埋葬施設実測図	56	第83図	ST26全体・土層断面図	95
第47図	ST 7 全体・土層断面図	57	第84図	ST26遺物出土状況・埋葬施設実測図	96
第48図	ST 8 全体・土層断面図	58	第85図	ST27実測図	97
第49図	ST 8 遺物出土状況図	59	第86図	ST28全体・土層断面図	98
第50図	ST 8 埋葬施設実測図	60	第87図	ST28土層断面・遺物出土状況図	99
第51図	ST 9 全体・土層断面図	61	第88図	ST29全体・土層断面図	101
第52図	ST 9 遺物出土状況図	62	第89図	SD321遺物出土状況図	102
第53図	ST 9 埋葬施設実測図	63	第90図	SD321遺物出土状況・埋葬施設実測図	103
第54図	ST11全体・土層断面図	64	第91図	ST30実測図	104
第55図	ST11土層断面図	65	第92図	ST31実測図	105
第56図	ST12実測図	66	第93図	ST32全体・土層断面図	106
第57図	ST13全体・土層断面図	67	第94図	ST32土層断面・遺物出土状況図	107
第58図	ST13土層断面図	68	第95図	ST33全体・土層断面図	108
第59図	ST13遺物出土状況・埋葬施設実測図	69	第96図	ST33土層断面・遺物出土状況図	109
第60図	ST14実測図	70	第97図	ST33遺物出土状況図	110
第61図	ST15実測図	71	第98図	ST33埋葬施設実測図	111
第62図	ST16実測図	72	第99図	ST34実測図	112
第63図	ST17全体図	73	第100図	ST35全体・土層断面図	113
第64図	ST17土層断面図	74	第101図	ST35土層断面図	114
第65図	ST17遺物出土状況図	75	第102図	ST36実測図	115
第66図	ST17埋葬施設実測図	76	第103図	ST37全体図	116
第67図	ST18全体・土層断面・遺物出土状況図	77	第104図	ST37土層断面図	117
第68図	ST18遺物出土状況図	78	第105図	ST38実測図	118
第69図	ST19全体図	79	第106図	ST39実測図	119
第70図	ST19土層断面図	80	第107図	ST40実測図	121 - 122
第71図	ST20実測図	81	第108図	ST41実測図	123
第72図	ST21全体・土層断面図	82	第109図	ST42実測図	124
第73図	ST21礎出土状況・埋葬施設実測図	83	第110図	ST43実測図	125
第74図	ST22全体・土層断面図	85 - 86	第111図	ST44実測図	126
第75図	ST22礎出土状況図	87	第112図	ST45全体・土層断面図	127

第113図	ST45遺物出土状況図	128	第150図	SB 4・8・9実測図	171-172
第114図	ST46全体・土層断面図	129	第151図	SB 7・10実測図	173
第115図	ST46土層断面・埋葬施設実測図	130	第152図	SB11・13実測図	174
第116図	ST47全体図	131	第153図	SB12・14実測図	175
第117図	ST47土層断面・遺物出土状況図	132	第154図	SB15・16実測図	177
第118図	ST48実測図	133	第155図	SB17・20実測図	178
第119図	ST49・50・53・57全体・土層断面図	135-136	第156図	SB18・19実測図	179
第120図	ST49・50・53・57土層断面図	137	第157図	SB21・22実測図	180
第121図	ST50遺物出土状況・埋葬施設実測図	138	第158図	SB23実測図	181
第122図	ST52実測図	139	第159図	SB24実測図	182
第123図	ST54全体・土層断面図	140	第160図	SB25実測図	184
第124図	ST54遺物出土状況図	141	第161図	SB26・30実測図	185
第125図	ST54遺物出土状況図	142	第162図	SB27・29実測図	186
第126図	ST55実測図	143	第163図	SB28実測図	187
第127図	ST58全体・土層断面図	144	第164図	SB31・32実測図	188
第128図	ST58遺物出土状況図	145	第165図	SB33・34実測図	189
第129図	ST59実測図	146	第166図	SB35・36実測図	191
第130図	ST60全体・土層断面図	148	第167図	SB37・38実測図	192
第131図	ST60土層断面・遺物出土状況図	149	第168図	SB39・40実測図	193
第132図	ST60埋葬施設実測図	150	第169図	SB41・42実測図	194
第133図	ST61実測図	151	第170図	SB43・44実測図	195
第134図	ST62全体・土層断面図	152	第171図	SB45・46実測図	196
第135図	ST62土層断面・遺物出土状況図	153	第172図	SB47・48実測図	198
第136図	ST62遺物出土状況図	154	第173図	SB49・50実測図	199
第137図	ST62遺物出土状況図	155	第174図	SB51・52実測図	200
第138図	ST62遺物出土状況図	156	第175図	SB53・54実測図	201
第139図	SX 1・2・3実測図	157	第176図	SB55・56実測図	202
第140図	SX 4・6・7実測図	159	第177図	SB57・58実測図	203
第141図	SX 5・8実測図	160	第178図	SB60・62実測図	205
第142図	SX 9・10・11・28・29実測図	161	第179図	SB61・63・64実測図	206
第143図	SX27・30・34・35実測図	162	第180図	SB65・66実測図	207
第144図	SX37・38・39・50・SK83実測図	164	第181図	SB67・68実測図	208
第145図	SK105・112・113実測図	165	第182図	SB69・柱列1実測図	162
第146図	SK116実測図	166	第183図	柱列2・3・4実測図	210
第147図	SB 1・2実測図	167	第184図	SH 1実測図	212
第148図	SB 3・6実測図	168	第185図	SH 2・3実測図	213
第149図	SB 5実測図	170	第186図	SH 4実測図	214

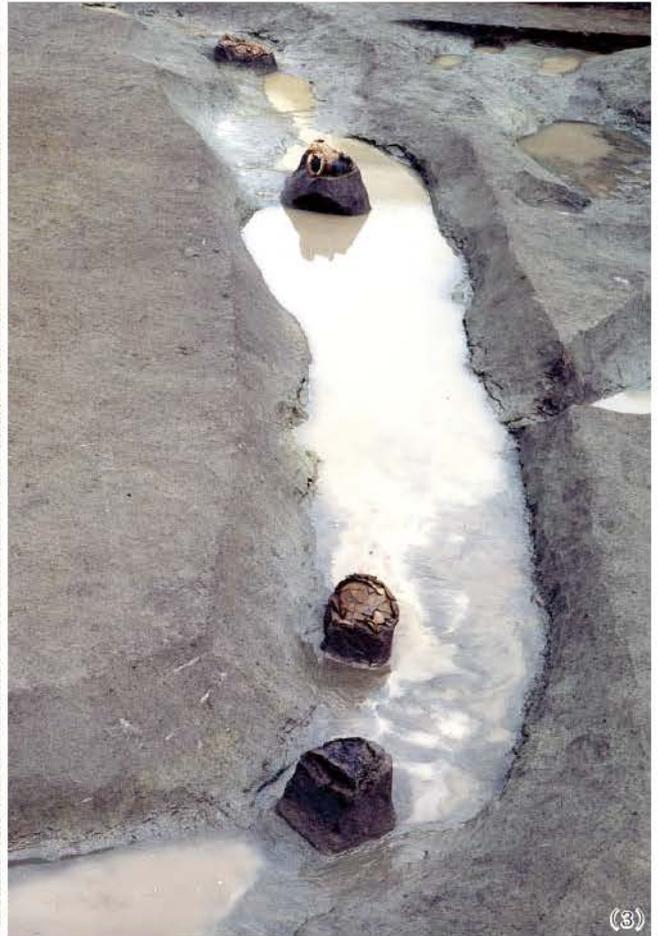
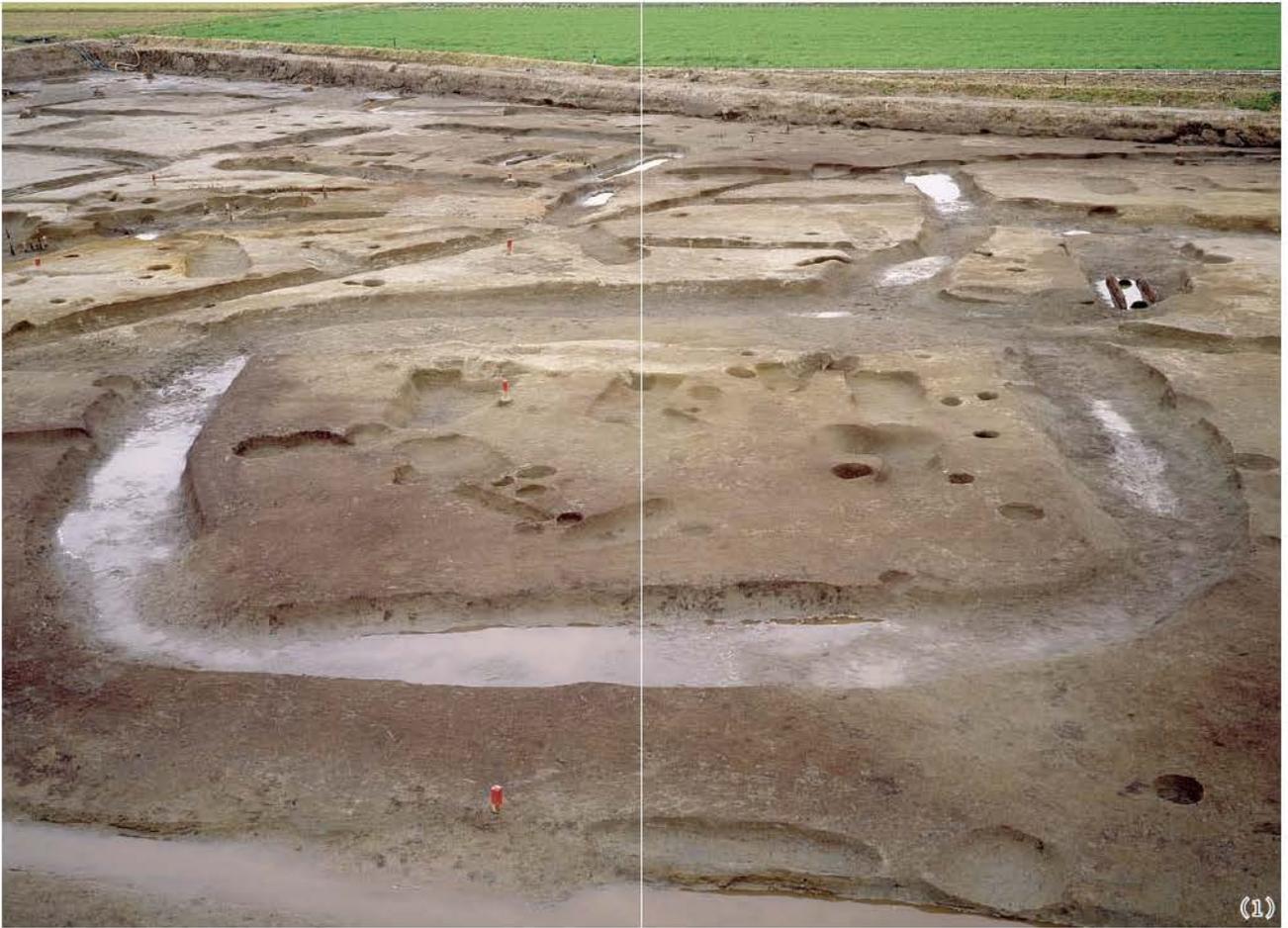
第187図	SH 5・6 実測図	215-216	第224図	ST14・15・16・17出土土器実測図	277
第188図	SH 7・8 全体・土層断面図	217-218	第225図	ST18・20・21出土土器実測図	278
第189図	SH 7・8 柱穴実測図	219	第226図	ST22・23・24出土土器実測図	278
第190図	SH 7・8 柱穴実測図	220	第227図	ST26・27・28・29・31出土土器実測図	280
第191図	SH 7・8 柱穴実測図	221	第228図	ST32出土土器実測図	281
第192図	SH 7・8 柱穴実測図	222	第229図	ST33出土土器実測図	282
第193図	SH 7・8 柱穴実測図	223	第230図	ST34・35出土土器実測図	283
第194図	SH 7・8 柱穴実測図	224	第231図	ST37・38・39・40・43・44・45 出土土器実測図	284
第195図	SH 9 全体・土層断面図	225	第232図	ST46・47・50・52出土土器実測図	285
第196図	SH 9 柱穴・遺物出土状況実測図	226	第233図	ST54・58・60・61出土土器実測図	286
第197図	SH10全体・土層断面図	227	第234図	ST62出土土器実測図	287
第198図	SH10柱穴実測図	228	第235図	SX 7・27・29出土土器実測図	288
第199図	SH11実測図	228	第236図	SH 1・5・6・7 出土土器実測図	289
第200図	SH12実測図	229	第237図	SH 8・9・11出土土器実測図	290
第201図	SE 1・2 実測図	231	第238図	SE 1・2 出土土器実測図	291
第202図	SK 3 実測図	232	第239図	土坑(SK)出土土器実測図	292
第203図	SK107実測図	233	第240図	土坑(SK)出土土器実測図	293
第204図	SK110・155・197実測図	234	第241図	SK108・109・110出土土器実測図	294
第205図	SD 7・10・11杭列実測図	236	第242図	SK112土器棺実測図	295
第206図	SD19・21杭列実測図	237	第243図	SK113土器棺実測図	296
第207図	SD43・86・125遺物出土状況図	238	第244図	SK116土器棺実測図	297
第208図	SD186遺物出土状況図	240	第245図	土坑(SK)出土土器実測図	298
第209図	SD191・213遺物出土状況図	241	第246図	SK207・214・228出土土器実測図	299
第210図	SD364遺物出土状況図	242	第247図	土坑(SK)出土土器実測図	300
第211図	SD324平面・土層断面図	243	第248図	ピット(SP)出土土器実測図	301
第212図	SD324護岸板・遺物出土状況実測図	244	第249図	ピット(SP)出土土器実測図	302
第213図	SD324遺物出土状況図	245	第250図	SD 1・5・7・8 出土土器実測図	303
第214図	ST 1 出土土器実測図	267	第251図	SD10出土土器実測図	304
第215図	ST 1 出土土器実測図	268	第252図	SD11・14・18出土土器実測図	305
第216図	ST 1・2 出土土器実測図	269	第253図	SD19出土土器実測図	306
第217図	ST 3 出土土器実測図	270	第254図	溝(SD)出土土器実測図	307
第218図	ST 3 出土土器実測図	271	第255図	溝(SD)出土土器実測図	308
第219図	ST 3 出土土器実測図	272	第256図	溝(SD)出土土器実測図	309
第220図	ST 3・4 出土土器実測図	273	第257図	溝(SD)出土土器実測図	310
第221図	ST 5 出土土器実測図	274	第258図	溝(SD)出土土器実測図	311
第222図	ST 5・6・7・8 出土土器実測図	275	第259図	SD282・288・311・321出土土器実測図	312
第223図	ST 9・11・13出土土器実測図	276			

第260図	SD324出土土器実測図	313	第296図	木製品実測図	円・楕円板	382
第261図	SD324出土土器実測図	314	第297図	木製品実測図	棒状具	383
第262図	SD324出土土器実測図	315	第298図	木製品実測図	棒状具	384
第263図	SD324出土土器実測図	316	第299図	木製品実測図	板状具	385
第264図	SD324出土土器実測図	317	第300図	木製品実測図	その他	386
第265図	SD324出土土器実測図	318	第301図	木製品実測図	建築部材	387
第266図	溝(SD)出土土器実測図	319	第302図	木製品実測図	柱材	389
第267図	包含層ほか出土土器実測図	320	第303図	木製品実測図	柱材	390
第268図	包含層ほか出土土器実測図	321	第304図	木製品実測図	柱材	391
第269図	包含層ほか出土土器実測図	322	第305図	木製品実測図	柱材	392
第270図	包含層ほか出土土器実測図	323	第306図	木製品実測図	柱材	393
第271図	包含層ほか出土土器実測図	324	第307図	木製品実測図	礎板	393
第272図	包含層ほか出土土器実測図	325	第308図	木製品実測図	中世以降の木製品	394
第273図	包含層ほか出土土器実測図	326	第309図	木製品実測図	木棺	395
第274図	包含層ほか出土土器実測図	327	第310図	木製品実測図	木棺	396
第275図	包含層ほか出土土器実測図	328	第311図	木製品実測図	井戸側	397
第276図	包含層ほか出土土器実測図	329	第312図	年代測定対象資料出土位置図		401
第277図	包含層ほか出土土器実測図	330	第313図	年輪年代測定結果		403
第278図	土製品実測図	331	第314図	建物別の年輪年代		404
第279図	尖頭器・石鏃ほか実測図	356	第315図	ウィグルマッチによる年代解析結果		412
第280図	スクレイパー・石包丁実測図	357	第316図	¹⁴ C年代測定試料採取状況		413
第281図	大型石包丁・打製石斧ほか実測図	359	第317図	土器炭化物付着状態		421
第282図	磨製石斧ほか実測図	360	第318図	土器炭化物付着状態		422
第283図	石錘・磨石・敲石実測図	361	第319図	土器炭化物付着状態		423
第284図	凹石・台石実測図	363	第320図	¹⁴ C年代測定土器実測図		424
第285図	石皿・台石実測図	364	第321図	土壌試料採取地点		425
第286図	石皿・台石実測図	365	第322図	プラント・オパール分布図		428
第287図	砥石実測図	367	第323図	プラント・オパールの顕微鏡写真		429
第288図	砥石ほか石製品実測図	369	第324図	西壁M33杭南地点の花粉ダイアグラム		432
第289図	金属製品実測図	372	第325図	花粉・胞子の顕微鏡写真		434
第290図	玉関係遺物実測図	374	第326図	プラント・オパール分布図		436
第291図	木製品実測図	工具・農具	第327図	プラント・オパールの顕微鏡写真		437
第292図	木製品実測図	漁撈具・雑具・食事具 ・紡織具	第328図	ST50試料の主要花粉化石分布図		440
第293図	木製品実測図	容器	第329図	IX区⑥地点の主要花粉化石分布図		442
第294図	木製品実測図	指物	第330図	花粉化石の顕微鏡写真		443
第295図	木製品実測図	祭祀具	第331図	珪藻化石の顕微鏡写真		447
			第332図	分析対象と試料採取箇所		449

第333図	採取試料の蛍光X線スペクトル	……	450	第339図	巴形銅器と既に測定された巴形銅器の		
第334図	銅鏃と巴形銅器の鉛同位体比(A式図)		454			鉛同位体比(B式図)	……456
第335図	銅鏃と巴形銅器の鉛同位体比(B式図)		454	第340図	掘立柱建物平面規模分布図	……	466
第336図	銅鏃と既に測定された銅鏃の鉛同位体比			第341図	掘立柱建物分布図	……	467
	(A式図)	……	455	第342図	柱根分類属性模式図	……	467
第337図	銅鏃と既に測定された銅鏃の鉛同位体比			第343図	弥生時代における主要遺構の変遷	……	471
	(B式図)	……	455				
第338図	巴形銅器と既に測定された巴形銅器の						
	鉛同位体比(A式図)	……	456				
付図	府中石田遺跡 主要遺構配置図	……					卷末別添

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧	7
第2表	方形周溝墓一覧	246
第3表	埋葬施設一覧	248
第4表	掘立柱建物一覧	249
第5表	周溝建物一覧	251
第6表	井戸一覧	251
第7表	土坑一覧	252
第8表	柱穴ほか一覧	254
第9表	溝・旧河道一覧	264
第10表	土器観察表	332
第11表	土製品観察表	354
第12表	石器・石製品観察表	370
第13表	ガラス小玉計測表	375
第14表	管玉計測表	375
第15表	勾玉計測表	375
第16表	その他玉関係遺物計測表	375
第17表	木製品観察表	399
第18表	平均年輪数を年輪年代に加算した場合の推定伐採年代	406
第19表	測定試料一覧	411
第20表	¹⁴ C測定結果	411
第21表	年代較正結果のまとめ	412
第22表	土器付着試料一覧	417
第23表	試料の状態と炭素含有率	418
第24表	測定結果および較正年代	419
第25表	土器付着物試料の安定同位体比(%)・炭素量・窒素量(%)	419
第26表	測定結果および較正年代[参考：IntCal04による]	420
第27表	プラント・オパール検出密度	427
第28表	産出花粉化石一覧	431
第29表	プラント・オパール検出密度	435
第30表	産出花粉化石一覧	439
第31表	堆積物中の珪藻化石産出表	446
第32表	銅鏃・巴形銅器の化学組成	453
第33表	銅鏃・巴形銅器の鉛同位体比	453
第34表	遺構出土土器の帰属時期	458
付表	試料の処理量および状態	410



(1) 方形周溝墓(ST1 西より) (2) 木棺検出状況(ST2 西より) (3) 周溝遺物出土状況(ST62東溝 南より)



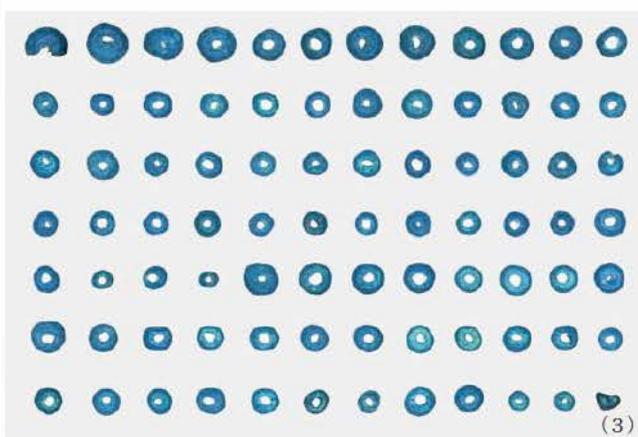
(1) 弥生前期壺出土状況(SD216 南より) (2) 土器棺検出状況(SK113 東より)
(3) 井戸内浄水施設検出状況(SK 3 北より) (4) 指物出土状況(SK155 南より)
(5) 軸受け出土状況(SP620 東より)



(1)



(2)



(3)



(5)



(4)



(6)



(7)

(1) 赤彩土器(232-3) (2) 管玉・勾玉(290-85~99) (3) ガラス小玉(290-1~84) (4) 分銅形土製品(278-1)
(5) 巴形銅器(289-1) (6) 銅鏃(289-2) (7) 儀杖(295-1)

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

舞鶴若狭自動車道¹⁾は、中国自動車道吉川ジャンクション（以下、JCT）から京都府北部・福井県若狭湾岸を通り北陸自動車道敦賀JCTまでの延長162kmの自動車専用道路として計画された。県内においては平成元年（1989）に舞鶴東インターチェンジ（以下、IC）から敦賀JCT間の路線の基本計画が決定された。県内の路線は、若狭湾国定公園を避ける形で山間部を貫くように設計された。

舞鶴若狭自動車道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、平成9年（1997）より大飯郡おおい町（当時大飯町）から着手した。おおい町内では、佐分利川流域で平成9年（1997）に滝見古墳群、平成10・11年（1998・1999）に大飯神社・山田古墳群、山田中世墓群、平成11・12年（1999・2000）に石山城跡を発掘調査している。また、そのほかに工事用道路の整備事業に伴って小浜市鯉川の森谷古墳群の調査を実施している。この区間を含む舞鶴東ICから小浜市岡津の小浜西ICまでが平成15年（2003）3月9日に開通し、その後、舞鶴若狭自動車道に係る埋蔵文化財の本格的な調査は小浜市域へと移っていく。平成15～17年（2003～2005）に稲葉山城跡、平成17年（2005）に黒駒遺跡の発掘調査を実施した後、小浜市街地周辺に位置する木崎山城跡（平成17・18年調査）、木崎遺跡（平成18年調査）、そして本書で報告する府中石田遺跡の発掘調査を相次いで実施した。

舞鶴若狭自動車道は、小浜市西部の山間を抜けた後、北川下流域に広がる平野部を南北に縦断する。この平野中央部に小浜IC（仮称）が計画され、周知の遺跡である府中石田遺跡の西部がその計画範囲に含まれることとなった（第1図）。この一帯は府中という地名から、古代あるいは中世におよぶ長期間若狭国国府が所在したと考えられ、また、昭和60年代に始まる圃場整備以前は条里区画を良く残す地域としても注目されてきた。その圃場整備に先立って小浜市教育委員会が行った発掘調査では、平安時代を主とする遺物と共に掘立柱建物が検出されている²⁾。

府中石田遺跡の試掘調査は、日本道路公団北陸支社（当時）の依頼を受け、平成16年（2004）に木崎遺跡とあわせて実施した。試掘坑は20m間隔で設定し、府中石田遺跡の範囲では218箇所を重機で掘削した。試掘調査の結果、対象範囲の東側で基盤をなす砂層に高まりがみられ、この部分や周辺で弥生時代後期の土器を主とする遺物や溝・土坑などの遺構を確認した。これを受け、日本道路公団北陸支社と協議を行い、開通時期が平成23年（2011）の予定であったため、翌平成17年（2005）から同19年（2007）までの3箇年で発掘調査を実施することが決まった。調査面積は当初26,700㎡で計画されたが、調査の進行に伴い、調査必要範囲に変更が生じ、最終的な調査面積は27,500㎡となった。

なお、平成17年10月から、日本道路公団は分割・民営化され小浜ICまでは西日本高速道路株式会社（NEXCO西日本）関西支社の管轄になっている。

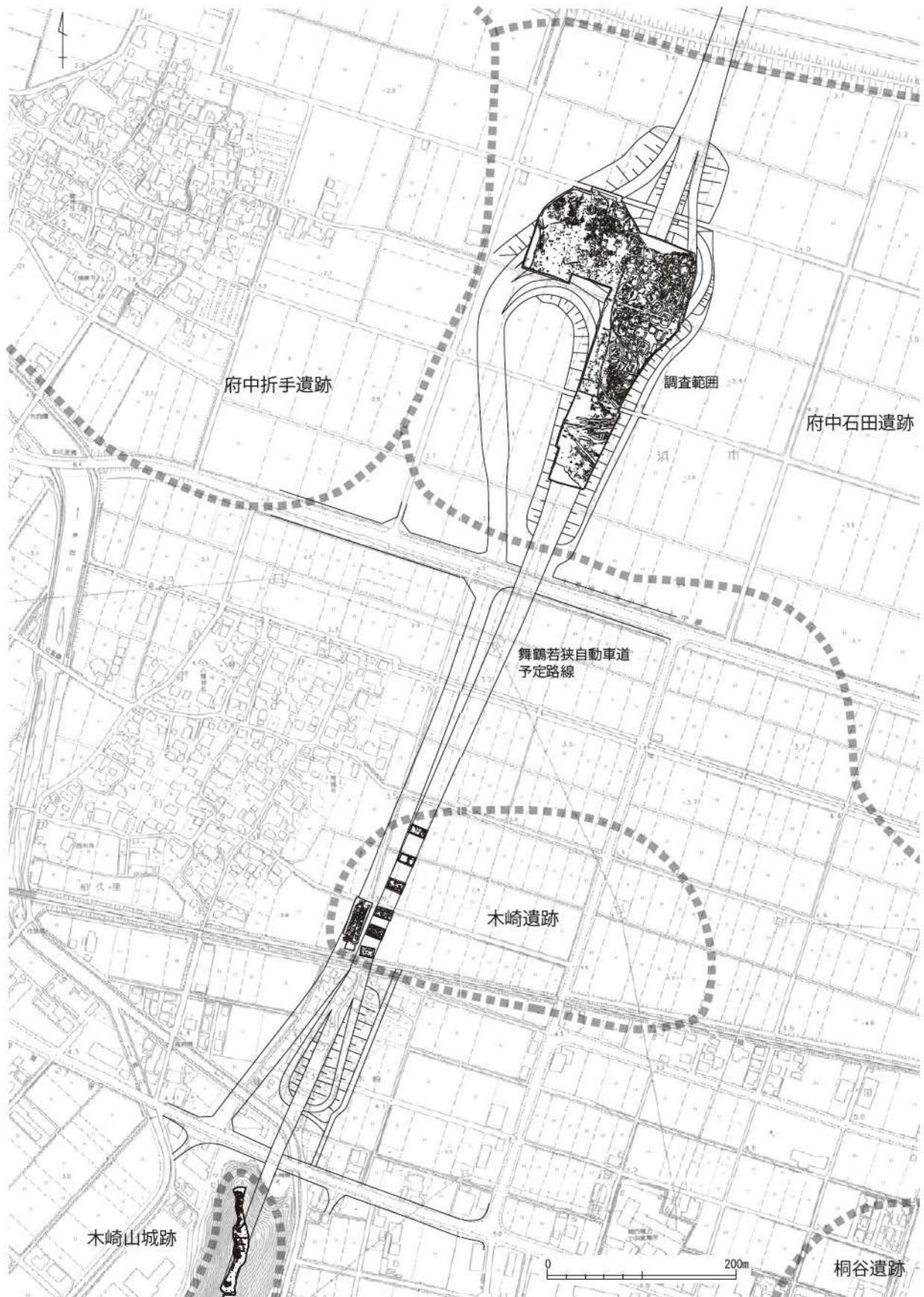
註

1 当初「近畿自動車道敦賀線」と呼称したが、小浜西ICまでの開通に伴い改称された。

2 小浜市教育委員会 1986 「府中遺跡調査概報」

第2節 調査の経過

3箇年にわたる発掘調査は、工事の関係上、おおむね南側から順次Ⅰ～Ⅸ区の調査区を設定して実施した（第2図）。なお、調査区を横切る市道・農道および用水路部分（Ⅴ・Ⅶ区）は仮設工事が完了次第、



第1図 道路計画路線と調査位置(縮尺1/6,000)

実施している。以下、調査の経過を年度ごとに概説する。

平成17年度 調査範囲はⅠ・Ⅱ区の計11,000㎡である。そのほか、Ⅰ区北西に位置した高圧電線の鉄塔をⅡ区南東の隣接地に移設するため、先行して移設先の約110㎡を調査している（鉄塔移設区）。

6月3日より表土掘削を開始。表土掘削終了後、まず、鉄塔移設区の調査に着手したが、様々な制約により実質7月の数日間しか作業を行い得ず、十分な調査であったとはいえない。さらに農繁期も重なり湧水が激しく、遺物は多く出土したものの、遺構の検出は困難であった。

Ⅰ区の調査は8月9日に開始した。Ⅰ区では調査区を横断する東西方向の溝を10条近く検出し、その埋土からは多くの弥生土器が出土した。また、溝の間をぬって10棟以上の掘立柱建物や井戸をはじめとする多数の遺構を確認した。なかでも、井戸SK3は礫と炭を利用した浄水施設を有し、さらに木製品や脆弱な蔓製品が出土したため、完掘までに多くの時間と手間を要した。Ⅰ区は11月17日に航空測量や全景撮影を終え、調査はⅡ区へ移った。年内は12月22日まで、Ⅱ区の包含層掘削を進めた。

翌年は2月14日から調査を再開した。遺構精査を始めたところ、方形周溝墓の存在が明らかとなり、しかも20基近く群在している様子が確認された。予想していなかった方形周溝墓の検出に加え、埋葬施設の一部に木棺が良好に遺存していたことなどから、3月の期限までに調査を終了できるかは予断を許さない状況になった。急ピッチで作業を進めた結果、かろうじて主たる作業の完了にこぎつけたが、方形周溝墓の調査に主力を注いだため、掘立柱建物など、ほかの遺構の調査精度に影響をおよぼしたことは否めない。Ⅱ区の航空測量および全景撮影は3月28日に実施している。

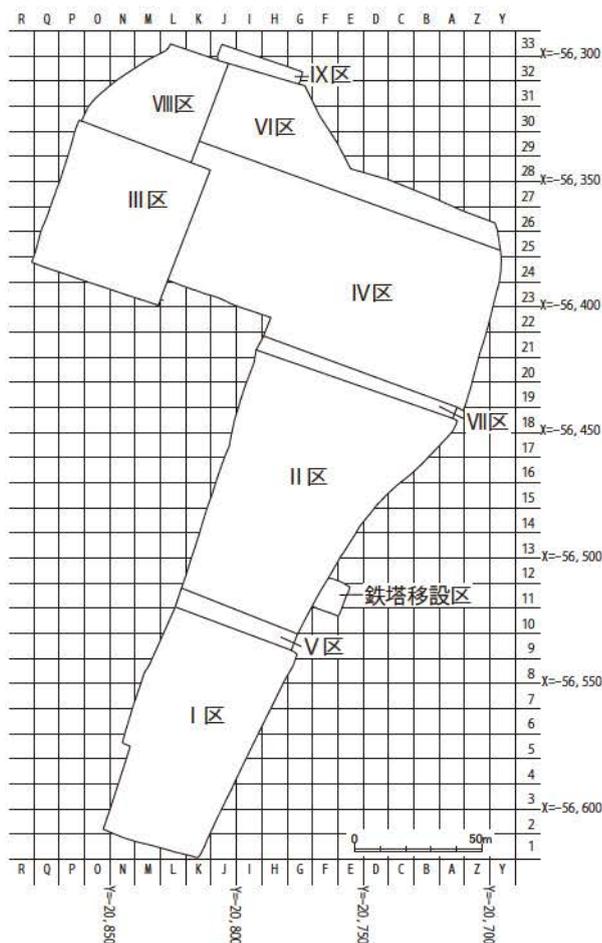
なお、翌月22日にⅡ区の現地説明会を実施したところ、県内外から200名近くの参加者があり、関心の高さがうかがえた。

平成18年度 調査範囲はⅢ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ区の計11,480㎡である。最初に着手したⅢ区では、掘立柱建物や溝などを検出したが、遺構密度は低く、5月19日に航空測量を終了し、Ⅳ区の調査に移った。なお、Ⅳ区の調査中、工事施工上の理由から、Ⅳ区東半を先行して引き渡して欲しいとの要望があり、西半の包含層掘削を残したまま、東半の遺構掘削を実施することとなった。

Ⅳ区東半ではⅡ区から続く方形周溝墓群を検出し、検出総数は約60基に達した。なお、その作業中の7月中旬、梅雨の大雨により調査区内が完全に水没し、排水のため1週間調査を中断せざるを得ない事態となった。また、調査区北端において、工事予定地内で当初調査区外とした範囲に遺構が延びる様子を確認したため、重機でトレンチ2本を掘削した結果、北方へ約10mの幅で遺構の広がることが判明した。この結果をもとにNEXCO西日本と協議を行い、調査範囲を広げることになった。Ⅳ区東半の航空測量・撮影を9月8日に実施し、西半の調査へ移行した。また、Ⅳ区西半の調査と並行して、10月1日からⅠ・Ⅱ区間にあたる市道部分（Ⅴ区）の調査を実施している。Ⅴ区については同月12日に全景写真撮影、13日に電子平板測量を行い、調査を終了した。

Ⅳ区西半では、Ⅲ区から続く掘立柱建物群を検出した。その数は後に確認したものも含め20数棟におよぶ。その柱穴には柱根が遺存しているものが多く、その一部は年輪年代測定が実施された。また、遺構密度は北側に行くほど高くなり、遺物も集中的に出土する様子がうかがえた。包含層中からは多数の弥生時代後期の土器と共に銅鏃が出土した。Ⅳ区西半の航空測量および撮影は10月20日に実施し、同日、追加された調査範囲であるⅥ区東半の調査に着手した。この範囲では、Ⅳ区東半からわずかに広がる方形周溝墓の一部のほか、方形周溝墓群を切る落ち込み（旧河道）を検出している。

11月20日からはⅡ区とⅢ・Ⅳ区間にある用水路部分（Ⅶ区）の調査を開始した。Ⅱ・Ⅳ区の方形周



第2図 調査区配置図(縮尺1/1,600)

溝墓群をつなぐ調査区であったが、中央を水路埋設に伴う攪乱が走り、遺構の遺存状況はあまり良いとはいえなかった。12月7日に全景写真撮影、8日に電子平板測量を行い、VII区の調査を終了した。その後、年内の作業を21日に終了した。

翌年は3月6日から作業を再開し、次年度の計画であったVI区西半の調査に先行して着手した。東側から遺構確認を進めたところ、方形周溝墓を1基単独で検出し、また、その南側では円形に巡る溝や多数の柱穴、北側で遺物を多量に包含する旧河道の存在を確認した。前者は年度内におおよそその調査を終えたが、後者の詳細な調査については次年度にもち越しとなった。当年度の作業は22日に終了している。なお、VI区北端で検出した旧河道では、調査予定になかった農道下へ遺物が広がっている様子を確認したため、NEXCO西日本との協議により、その部分に限って調査を実施することになった。

平成19年度 調査範囲はVI・VIII・IX区の計5,020㎡である。まず、前年度に引き続きVI区の調査に着手した。VI区にはIV区西半から一連の建物群が広がっており、掘立柱建物のほかに周溝をもつ建物跡(以下、周溝建物)を5棟確認した。前年度検出していた円形に巡る溝はその一部である。また、多くの柱穴には礎板が遺存しており、その一つからは琴柱が出土した。一方、調査区北辺で確認していた旧河道からは、多量の弥生時代後期の土器に混じって巴形銅器が出土した。これは県下のみならず北陸地方でも初の事例である。VI区の調査は4月25日に航空測量を実施し、補足調査の後、翌月10日に完了した。

5月11日からはVIII区の表土掘削を開始した。29日から遺構精査に入り、引き続き遺構掘削を行った。当区でも掘立柱建物や周溝建物を複数検出している。6月20日にVIII区の航空測量・撮影を実施した。また、その後の補足調査の期間中、自然科学分析用に調査区壁面などから土壌試料を採取している。7月20日に器材を撤収し、3箇年継続した調査を一端終了した。

農道部分(IX区)に関しては、工事の工程上、発掘調査可能な期間が翌年1月の1箇月間のみであった。平成20年1月10日にIX区の表土掘削を開始し、翌11日から人力による掘削に着手した。VI区から続く旧河道からは多くの弥生土器や木製品が出土した。なお、当区の北壁などでも分析用の土壌試料を採取している。28日に電子平板測量、29日に写真撮影を行った。翌30日に器材を撤収し、府中石田遺跡の全調査工程を終了した。

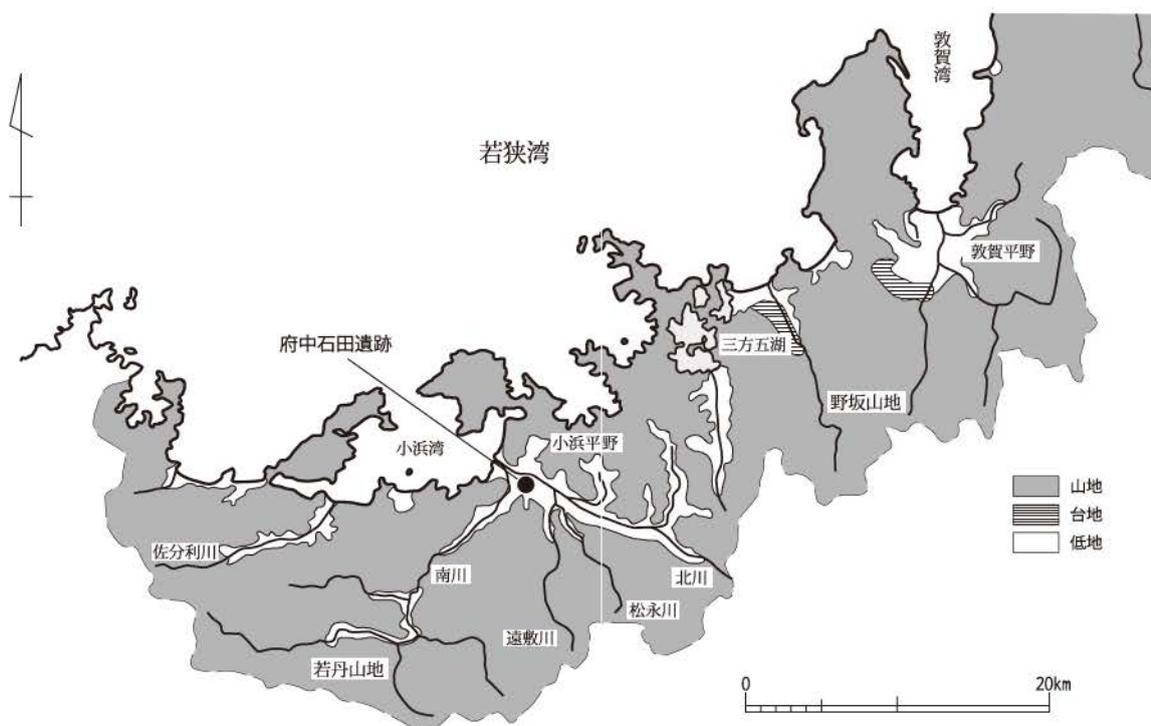
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

福井県は本州中央付近の日本海に面した凹部に位置し、東西約130km、南北約100km、面積約4,189km²を測る。敦賀市の北東部にある木ノ芽山嶺を境として、北方を嶺北地方、南方を嶺南地方と呼称している。府中石田遺跡は、県南西部の嶺南地方に所在する。

嶺南地方は若狭湾に面した狭小な地域であり、令制国の若狭国の範囲に、越前国の一部であった敦賀市を加えたものとはほぼ一致する(第3図)。背後は丹波高原北縁にあたる若丹山地の山稜を境に京都府および滋賀県と接している。若狭湾一帯は著しく沈降した地形で、山地は海岸部に迫り、沿岸部は典型的なリアス式海岸となっている。鋸の歯のように複雑に入り組んだ入り江は、水深が深く波が低いため、古くから天然の良港として利用されてきた。一方、陸地は起伏が多く、平地に乏しい。

小浜市は嶺南地方の西寄りに位置し、東方に突出する内外海半島と西部に突出する大島半島に挟まれた袋状の海岸線を有する小浜湾に面している。市域は東で三方上中郡若狭町と、西から南西にかけて大飯郡おおい町と接し、南東は滋賀県高島市と接する。市域には、若丹山地から発する南川と野坂山地を発する北川の二大河川が流れている。北川の中・下流域に形成された小浜平野は、敦賀平野を除けば嶺南地方最大の沖積平野で、東西方向に細長く延びている。平野西部の南側には、遠敷川や松永川が扇状地を形成し、北川の流路を平野北側に押し上げている。また、その下流域では南川が氾濫原平野を伴って合流する。そのため、この一帯では平野が南北にも広がり、市域有数の穀倉地帯を形成している。そのほぼ中央、河口から約3km遡った北川の左岸に位置するのが府中石田遺跡である。



第3図 周辺の地形(縮尺1/25,000)

第2節 歴史的環境

小浜市域では約200箇所¹⁾の遺跡・遺物散布地が確認されており、小浜平野とその周辺山麓部に分布が集中する。ここでは府中石田遺跡と同じく平野西部域にあり、内容が把握できる遺跡を中心に概説する(第4図)。

弥生時代 平野に沿った山際縁辺において多くの遺跡が確認されており、近年、高塚遺跡(28)、中辻堂遺跡(13)、下松塚遺跡(39)、平野遺跡、加茂遺跡などが相次いで調査された。時期は中辻堂遺跡が中期後半にかかる以外はいずれも後期に属す。小規模な調査が多く、遺跡の全容把握には至らないが、高塚遺跡と加茂遺跡では平地式住居が検出されている。これらの遺跡は平野に面する谷の出口に形成された扇状地上に立地しており、該期における集落立地の傾向と考えられている。

一方、小浜平野の中央部では前期の遺物を多く出土した丸山河床遺跡(9)が知られるものの、自然堤防が発達せず、居住には適さないとの認識が一般的であった。しかし、舞鶴若狭自動車道建設に伴う府中石田遺跡(1)や木崎遺跡(3)の調査成果によって、平野中央部が居住域や墓域として開発されていたことが明らかとなった。木崎遺跡では、若狭地方で初例となる後期後半の縦板組の井戸2基が確認された。なお、その南方の丘陵上にある木崎山城跡(4)で後期後半から末にかけての台状墓2基が調査されており、木崎遺跡に居住した集団が造営に関わったと推測されている。本書で報告する府中石田遺跡については詳細を後章に譲るが、中期から後期を中心とする方形周溝墓群を確認したことが特筆される。これらの調査成果は、小浜市域のみならず、若狭湾岸における弥生時代の集落・墓制研究の画期となりうる。

古墳時代 小浜平野および周辺山麓部における古墳分布は、若狭地方でも有数の大型前方後円墳が集中する北川中流域と、小型古墳や横穴墓が山麓部を中心に群在する下流域とに分けて考えることができる。小浜平野西部域にあたる後者においては、北川の支流である多田川、遠敷川、松永川沿いが中心域となる。まず、多田川と遠敷川に挟まれた丘陵の北東端には多田古墳群(19)、同じ丘陵の北西方に検見坂古墳群(22)が展開し、あわせて100基以上が確認されている。その主体を占めるのは円墳あるいは方墳、および横穴墓である。また、多田古墳群では多田山上古墳、検見坂古墳群では九花峰古墳と呼ばれる全長40m前後の小型前方後円墳がそれぞれ確認されている。両古墳群とも埋葬設備や外部設備については不明なものがほとんどで、円墳数基に横穴式石室が確認されるにとどまる。なお、横穴式石室をもつ円墳は、多田川左岸の山裾でも3基が認められ、池町古墳群(16)と呼ばれている。次に遠敷川と松永川に挟まれた丘陵には金屋マンドイ山古墳群(46)・小浴神社裏山古墳群(47)が展開し、方墳あるいは円墳が計26基確認されている。また、その北西方の平地に円墳3基からなる松塚古墳群(44)が、北方に国分古墳(41)および国分寺古墳(43)が所在している。国分古墳は前方後円墳と推測され、江戸時代の出土と伝えられる中国製画文帯四仏四獣鏡1面が現存するほか、埴輪も採集されている。国分寺古墳は国指定史跡「若狭国分寺跡旧境内」内に所在する。径約50mの円墳とされるが、詳細は不明であり、古墳とはみなさない説も提起されている。

これらの古墳を造営した人々の居住域については未だに不明な点が多いが、木崎遺跡の発掘調査で、居館とも想定される後期の大型掘立柱建物などが検出され、その一端が明らかとなった。

古代 奈良・平安時代の遺跡は多田川、遠敷川、松永川が流れる各谷の出口付近に多数分布し、この一帯が若狭国における政治的な中心地であったと推測されている。近年の発掘調査で、下見定遺跡(26)は10世紀初頭から11世紀中頃、下松塚遺跡は9世紀後半から10世紀前半、国分遺跡(40)は8世紀から10世紀にそれぞれ位置付けられ、施釉陶器や輸入陶磁器、墨書土器を含む遺物が出土している。さらに、松永川の東岸に位置する西縄手下遺跡では8世紀中頃から中世前期にわたる多数の遺構・遺物が検出され、



第4図 周辺の遺跡分布図(縮尺1/25,000)

第1表 周辺の遺跡一覧 ※[福井県遺跡地図]をもとに最新の調査成果を加えて作成

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	府中石田遺跡	集落跡	弥生・古墳・平安	25	西傘久遺跡	散布地	弥生・古墳・奈良
2	府中折手遺跡	散布地	縄文・中世	26	下見定遺跡	集落跡	弥生・古墳・平安
3	木崎遺跡	散布地	弥生・古墳・平安	27	金屋上蘭原遺跡	散布地	弥生・古墳・奈良
4	木崎山城跡	墳墓・経塚・城跡	弥生・平安・中世	28	高塚遺跡	集落跡	弥生・古墳・奈良
5	湯岡城跡	城跡	中世	29	栗田古墳群	古墳	古墳
6	野寺遺跡	散布地		30	岸の上下遺跡	散布地	平安
7	野代遺跡	散布地	平安	31	高塚古墳群	古墳	古墳
8	生守・妙楽寺	寺院跡		32	流れ谷古墳	古墳	古墳
9	丸山河床遺跡	散布地	弥生	33	マンダイ山古墳群	古墳	古墳
10	政広遺跡	散布地	中世	34	薬師谷古墳群	古墳	古墳
11	丸山古墳群	古墳	古墳	35	畦崎遺跡	散布地	奈良
12	老町田遺跡	散布地	古墳・中世	36	若狭彦神社・下社	神社	
13	中辻堂遺跡	散布地	弥生	37	滝村遺跡	散布地	弥生
14	中川原遺跡	散布地		38	馬場遺跡	散布地	奈良・平安
15	多田神社遺跡	包含地	古墳・近世	39	下松塚遺跡	散布地	弥生・古墳・平安
16	池町古墳群	古墳	古墳	40	国分遺跡	散布地	弥生・古墳・奈良・平安
17	多田遺跡	散布地	奈良・中世	41	国分古墳	古墳	古墳
18	多田寺	寺院跡		42	若狭国分寺跡	国史	
19	多田古墳群	古墳	古墳	43	国分寺古墳	古墳	古墳
20	多田山城跡	城跡	中世	44	松塚古墳群	古墳	古墳
21	桐谷遺跡	散布地	弥生	45	上松塚遺跡	散布地	奈良・平安
22	検見坂古墳群	古墳	古墳	46	金屋マンダイ山古墳群	古墳	古墳
23	湯谷山城跡	城跡	中世	47	小浴神社裏山古墳群	古墳	古墳
24	遠敷堂ヶ谷遺跡	散布地		48	古屋敷遺跡	散布地	弥生・古墳

注目を集めた。遺構の規模や配置は段階的に変遷するが、特に9世紀には大規模な盛土が造成され、その上に大型礎石建物や築地塀が構築される。出土土器は須恵器を主体とし、墨書土器が多数認められる。また、硯、石帯・帯金具、皇朝十二銭といった遺物も出土しており、公的施設の存在を色濃くうかがわせる。

北川右岸の高塚遺跡では、庇付建物などの遺構と共に木簡や人形、多量の船岡式製塩土器が検出されている。北川と松永川の合流点付近という立地から8世紀の国府津と想定され、若狭湾岸各地で生産された調塩が集積していたものと考えられている。その対岸下流側にある府中石田遺跡では、今回とは異なる地点の調査で掘立柱建物と共に9世紀後半から10世紀前半の施釉陶器が検出されている。さらにその南西方にある木崎遺跡では10世紀を中心とする時期の遺物が出土しており、多数の施釉陶器や土師器の椀皿類のほか付札木簡などを確認している。特に遠敷郡において初めて出土した、若狭国濃飯駅家に関連するとみられる「乃井村」と墨書された灰釉陶器は注目に値する。これらの遺跡でも、公的な施設の存在を想定することが可能であろう。また、北川下流域を見渡せる尾根上にある木崎山城跡では、集石の下に方形石組をもつ12世紀後葉の経塚1基を検出しており、刀子・鉄鎌・火打金といった鉄製品や青銅製鏡、青磁など豊富な副納品が出土した。

中世 主な遺跡としては、要衝に築かれた山城が挙げられる。主要幹道である丹後街道を見下ろす位置にあるのが、湯岡城(5)と木崎山城跡である。湯岡城は小規模で単純な構造から、1522年に若狭守護武田氏の一国守城として築城された後瀬山城の出城や見張所として利用されたと推測されている。城の成立は南北朝期に求められ、若狭地方で最も古い年代を示している。湯岡城と南川を挟んで対峙する木崎山城跡は大規模な堀切を中心とする城で、文献資料は皆無だが、曲輪や土橋などが良く遺存している。また、立地する丘陵の尾根北端付近では経筒に外容器を被せる形態の経塚1基を検出した。台石を組む際に多数の銭貨を入れており、13世紀前半の所産と考えられる。木崎山城跡と多田川を挟んで対峙する湯谷山城(23)は永正・大永・享禄年中の築城と考えられ、城主は武田氏の被官、内藤下総守と伝えられる。広範囲に遺構が認められ、ふもとには内藤下総守館跡と伝えられる平場も存在する。なお、城域の尾根北端付近で12世紀末～13世紀に位置付けられる甕や青白磁合子の蓋片、銅銭が検出されており、かつて経塚が存在したと考えられている。

参考文献

- 小浜市教育委員会 1979 『若狭の中世城館』
 小浜市教育委員会 1986 『府中遺跡調査概報』
 小浜市教育委員会 1992 『小浜市史 通史編 上巻』
 小浜市教育委員会 2001 『小浜市重要遺跡確認調査報告書』
 小浜市教育委員会 2006 『小浜市重要遺跡確認調査報告書Ⅱ』
 小浜市教育委員会 2009 『西縄手下遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
 杉山大晋 2009 「若狭国遠敷郡における官衙・集落遺跡—西縄手下遺跡の解釈をめぐって—」『条里制・古代都市研究』第24号
 中司照世 1994 「遠敷古墳群分布調査報告」『紀要』第5号 福井県立若狭歴史民俗資料館
 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2006 『年報—21—平成17年度』
 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2007 『年報—22—平成18年度』
 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2008 『年報—23—平成19年度』
 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2010 『木崎山城跡・木崎遺跡』

第3章 遺跡の概要

第1節 遺跡の概要

府中石田遺跡では弥生時代中～終末期の遺構・遺物を主体的に検出した。加えて弥生時代前期および古墳時代の遺構・遺物が少量認められる。また、遺物に限れば、縄文時代や平安時代～中近世のものも出土している。以下、時代順に概要を述べる。

1 縄文時代

後期前葉に比定される土器片が数点出土したのみで、遺構は認められない。いずれも包含層や遺構から多数の弥生土器に混じって出土した。

2 弥生時代

前期に比定される遺構として土坑や溝を少数検出した。土坑のなかには土坑墓と考えられるものが数基あり、A～C19・18グリッドにまとまって分布する。そのほかの遺構はⅣ区東半に散漫に分布する。土器は以上の遺構から出土した以外に、Ⅱ区北半からⅣ区東半にかけて位置する方形周溝墓の溝からも出土しているが、小破片が多く、混入の様相を呈している。本来、該期の遺構がその一帯に展開しており、後に方形周溝墓の造営などによって破壊されたとみられる。本遺跡の北方に隣接する丸山河床遺跡との関連が注意されよう。

中～終末期は本遺跡の中心となる時期である。主に方形周溝墓からなる墓域と掘立柱建物や「周溝建物」などが分布する建物域を認めた。墓域はⅡ区からⅥ区にかけて、おおよそ南北方向の帯状に展開する。一方、建物域はⅠ区からⅡ区南半にかけての一帯と、Ⅲ区・Ⅳ区西半・Ⅵ区西半・Ⅷ区一帯の、大きく2つの地区に分かれている。また、墓域と建物域では主体になる時期を違えており、墓域には中期に帰属する遺構が多く、建物域では後期に帰属する遺構が多数を占める。

3 古墳時代

前期に位置付けられる土器棺や溝および後期～終末期の土坑・ピットなどを少数検出した。分布はⅠ区からⅣ区東半にかけて散漫に分布する。

4 平安時代～中近世

少量の遺物が出土したにとどまる。中世以降に位置付けられる遺物はⅣ区東半の北端からⅥ区東半にかけての灰色粘質土から集中的に出土している。

第2節 グリッド設定と標準土層

1 グリッド設定

国土方眼座標系第Ⅵ系の座標を基準に10mメッシュでグリッドを設定した(第2図)。グリッド名については、調査区がおおよそ南から北へ順次移動することを踏まえ、南側から1～33区、東側からA～R区とした。また、後にⅣ区の東端がその範囲に収まらないことが判明し、東側へZ・Y区を追加した。

2 標準土層

調査範囲全体において層位を厳密に対比させることは困難であるが、層相の比較によりⅠ～Ⅴ層に大別できる(第5図)。

Ⅰ層は耕作土および客土である。

Ⅱ層は淡い灰色系の粘質土である。色調や砂の多少により細別される層群を一括しており、調査区全

体を広く、厚く覆っている。D26区およびF26・29区では中世以降とみられる陶磁器や木製品が少量出土している。この調査区東北端では本層直下にSD256とした落ち込み（旧河道）を検出しており、その埋土が同様の層相を呈していることから、それに関連する遺物と考えられる。

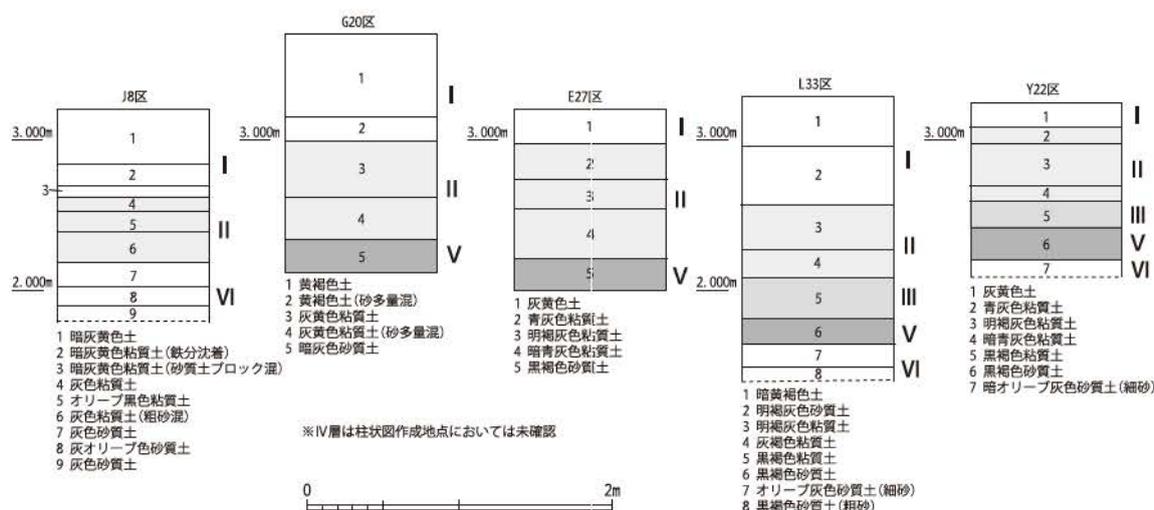
Ⅲ層は黒褐色や暗灰色を呈する粘質土である。古墳時代後期および平安時代後半の遺物を含むが、二次堆積によるものと考えられる。

Ⅳ層は砂礫・混粘質土砂である。試掘調査で確認された土層であるが、本調査において土層柱状図を作成した地点では確認できなかった。試掘の所見によれば、Ⅳ区東半の限られた範囲に広がり、地山の砂層が削平され堆積した層である。河川の氾濫によるものと考えられ、旧河道SD256との関連が想定される。

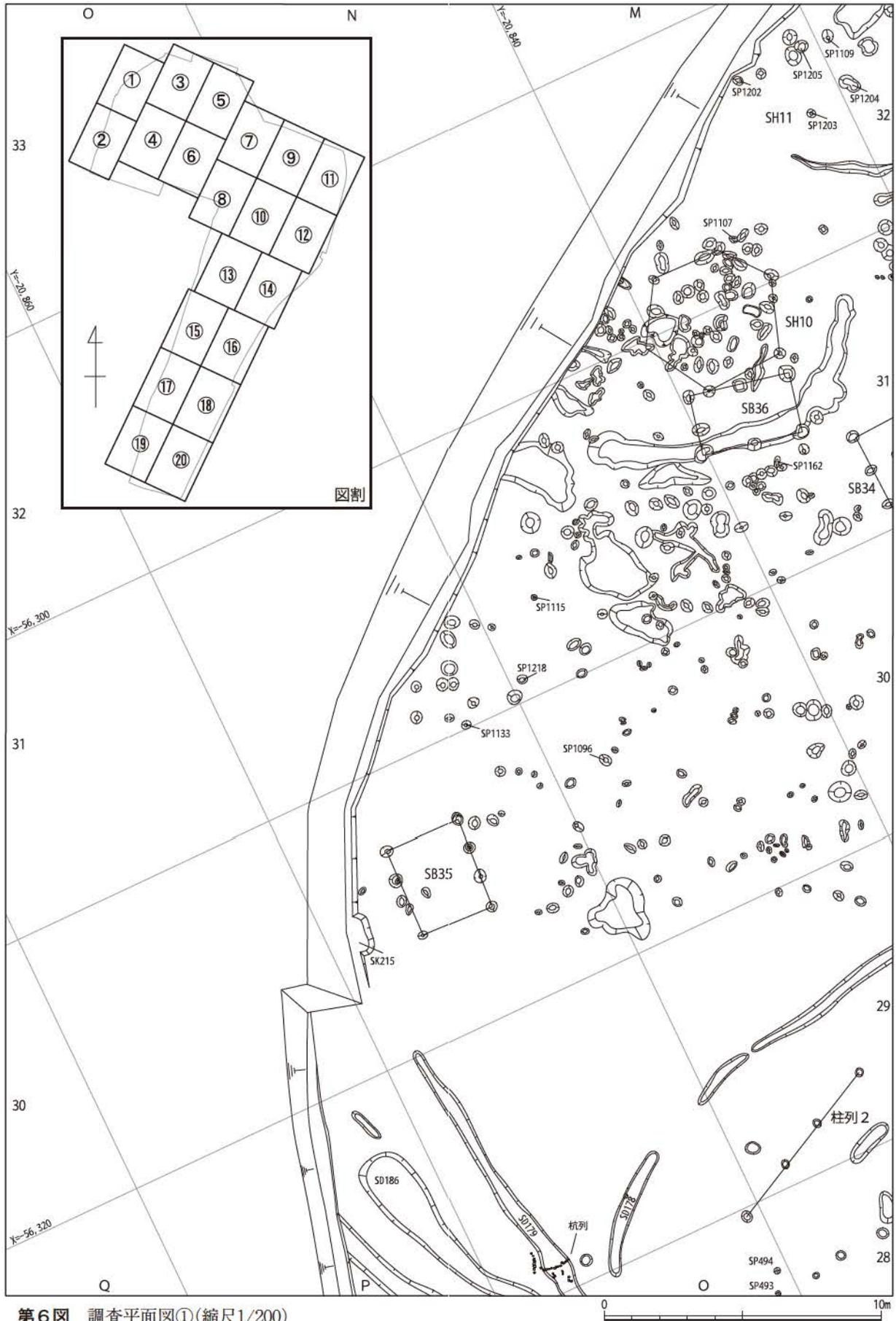
Ⅴ層は黒褐色や暗灰色を呈する砂質土である。弥生時代の遺物包含層と捉えた土層であるが、遺構の多くはこの層中から掘り込まれているとみられ、遺構埋土の上部に包含された遺物も包含層出土として取り上げている場合が多々あると思われる。

Ⅵ層は地山を形成する層群を一括するが、地形に応じて堆積状況が異なる。Ⅰ・Ⅴ・Ⅱ・Ⅶ区およびⅣ区東半・Ⅵ区西半・Ⅷ区の帯状の範囲では、細砂が標高2～2.5mで露出し、微高地を形成している。一方、Ⅲ区およびⅣ区西半は標高が1.5～2mと低く、土層面は安定しない。Ⅲ区西端を走るSD180以西では砂礫が細砂層上に堆積するが、Ⅲ区中央付近の遺構が希薄な範囲では粘土が露出する。Ⅳ区西半は細砂を基調とし所々シルトとなる。このような地形・基盤層の変化と遺構との関係を見ると、方形周溝墓は微高地上のみに分布し、建物は微高地・低地の両方に分布することがわかる。

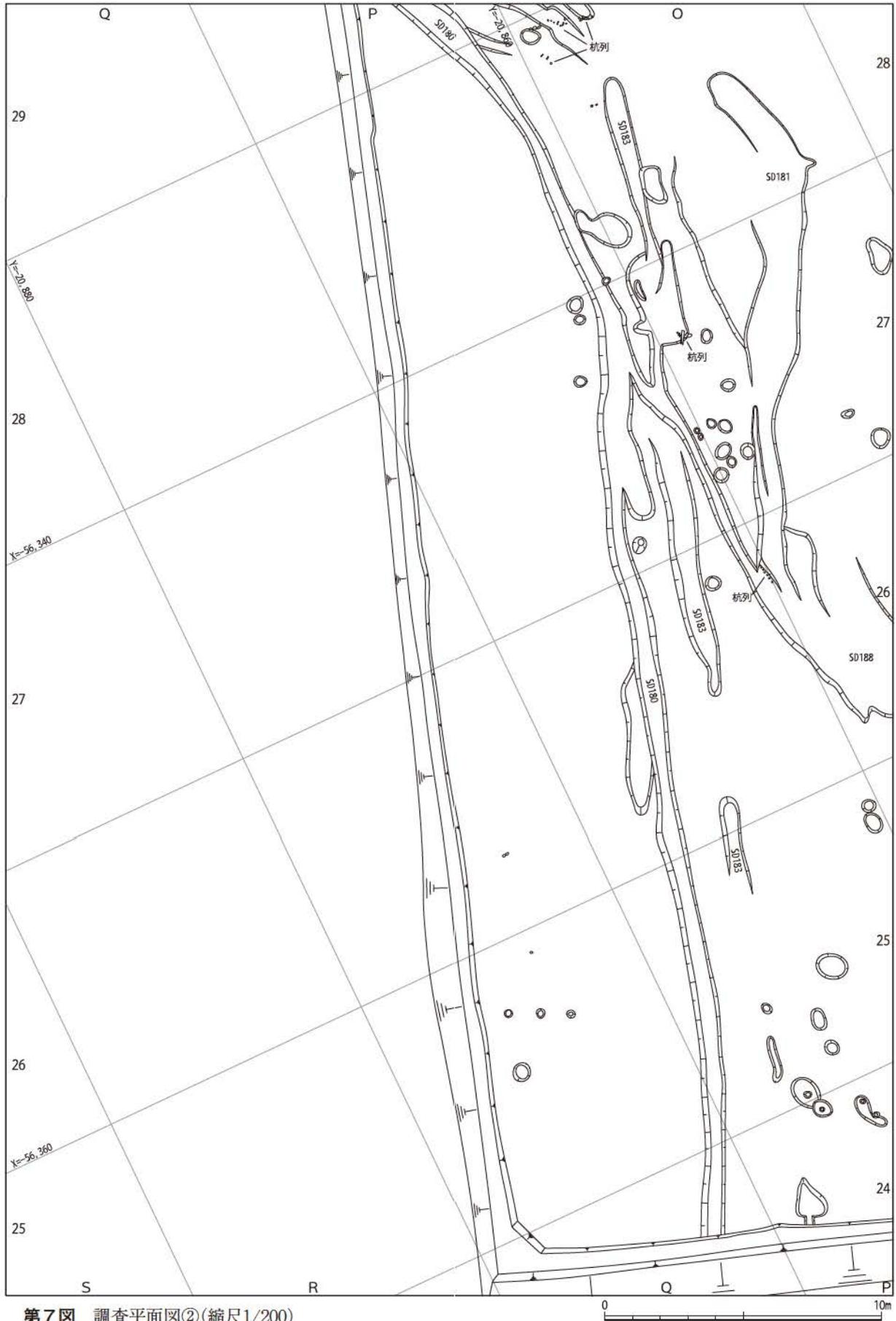
遺構はⅥ層上面で確認したが、前述したとおり、弥生時代の生活面はⅤ層中あるいはすでに削平された層中にあつたと考えられる。また、少数検出した古墳時代の遺構についても、さらに上層から掘り込まれていると考えられるが、本調査においてその面を明らかにすることはできなかった。



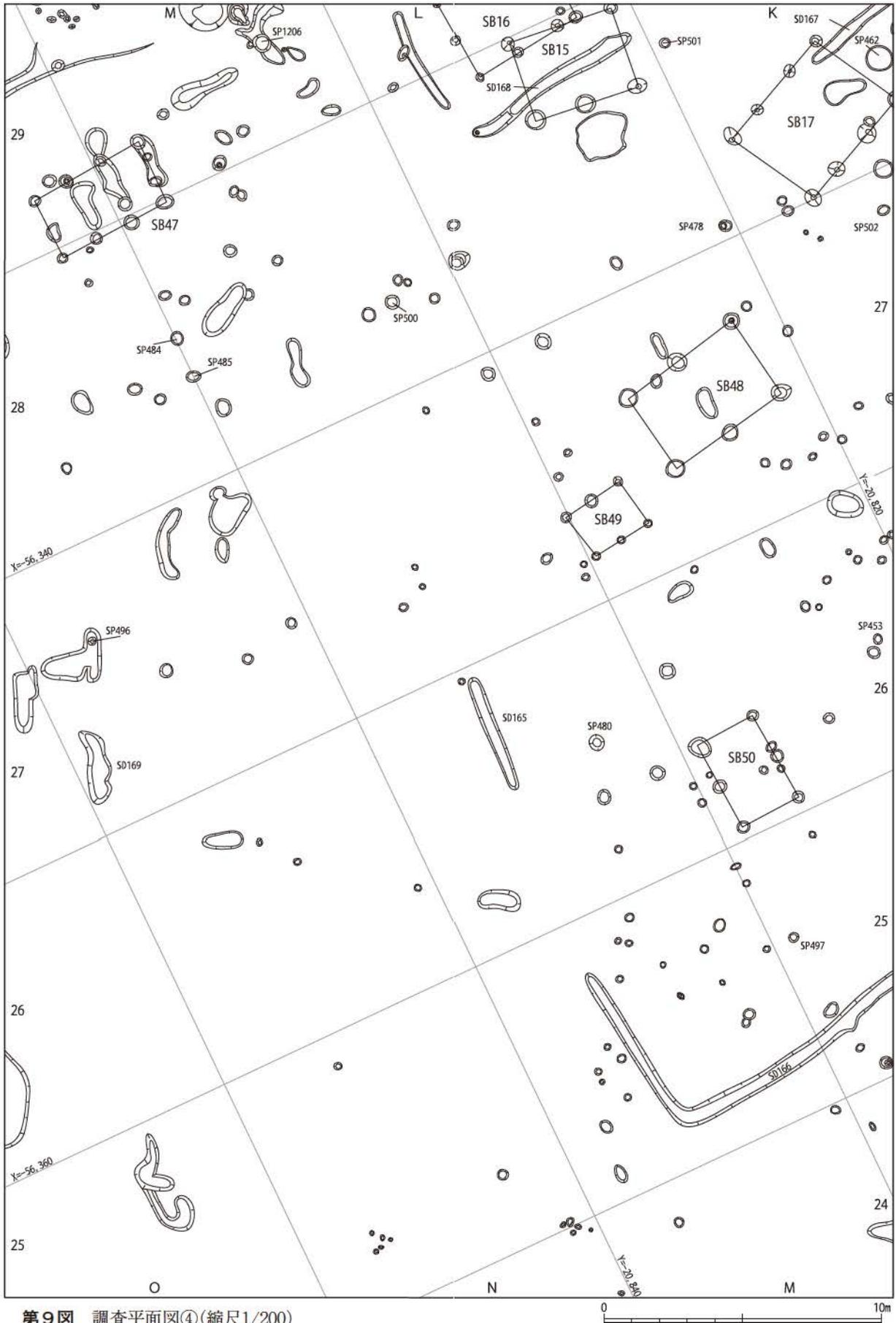
第5図 標準土層模式図(縮尺1/50)



第6図 調査平面図①(縮尺1/200)



第7図 調査平面図②(縮尺1/200)



第9図 調査平面図④(縮尺1/200)



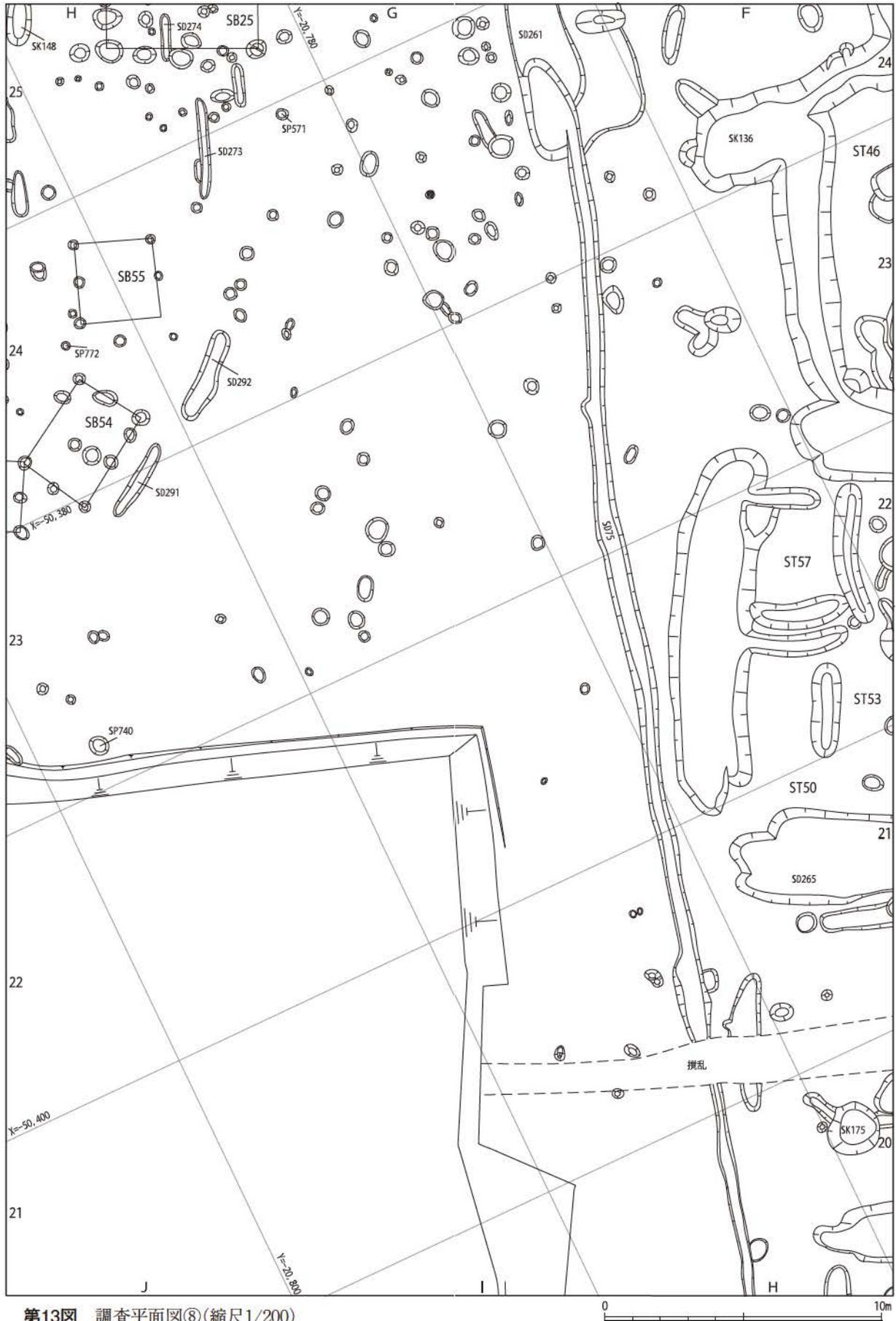
第10図 調査平面図⑤(縮尺1/200)



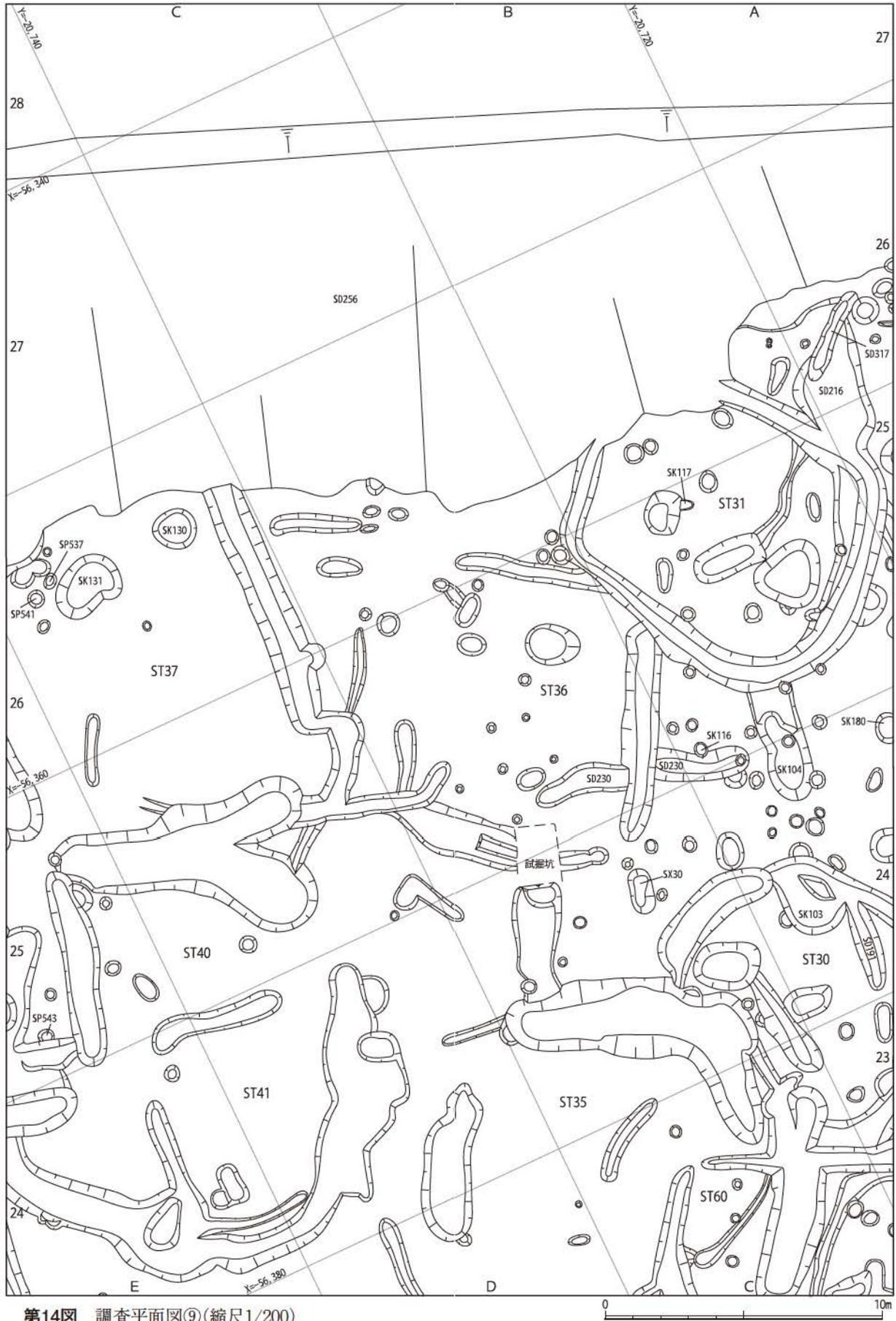
第11図 調査平面図⑥(縮尺1/200)



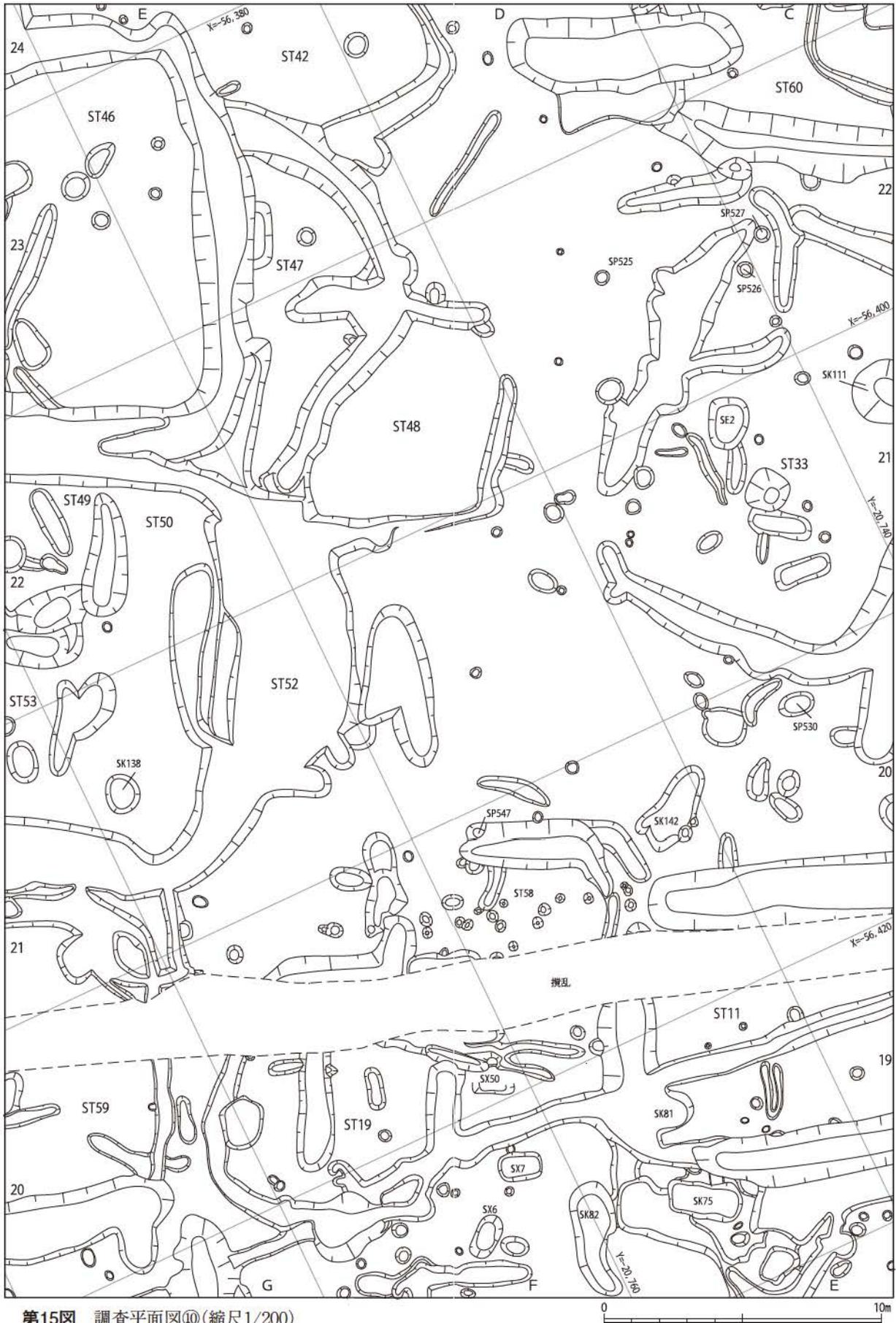
第12図 調査平面図⑦(縮尺1/200)



第13図 調査平面図⑧(縮尺1/200)



第14図 調査平面図⑨(縮尺1/200)



第15図 調査平面図⑩(縮尺1/200)



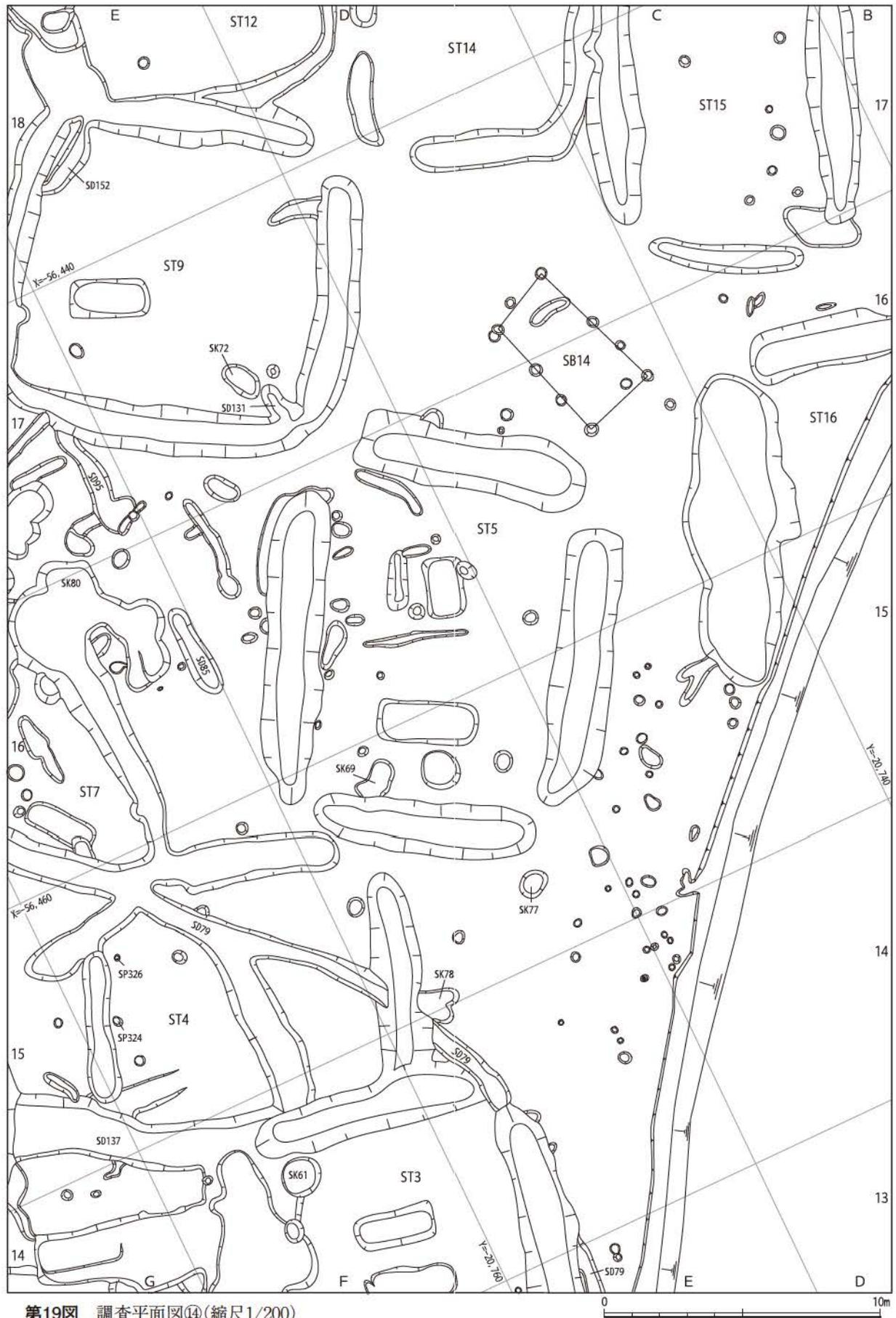
第16図 調査平面図①(縮尺1/200)



第17図 調査平面図⑫(縮尺1/200)



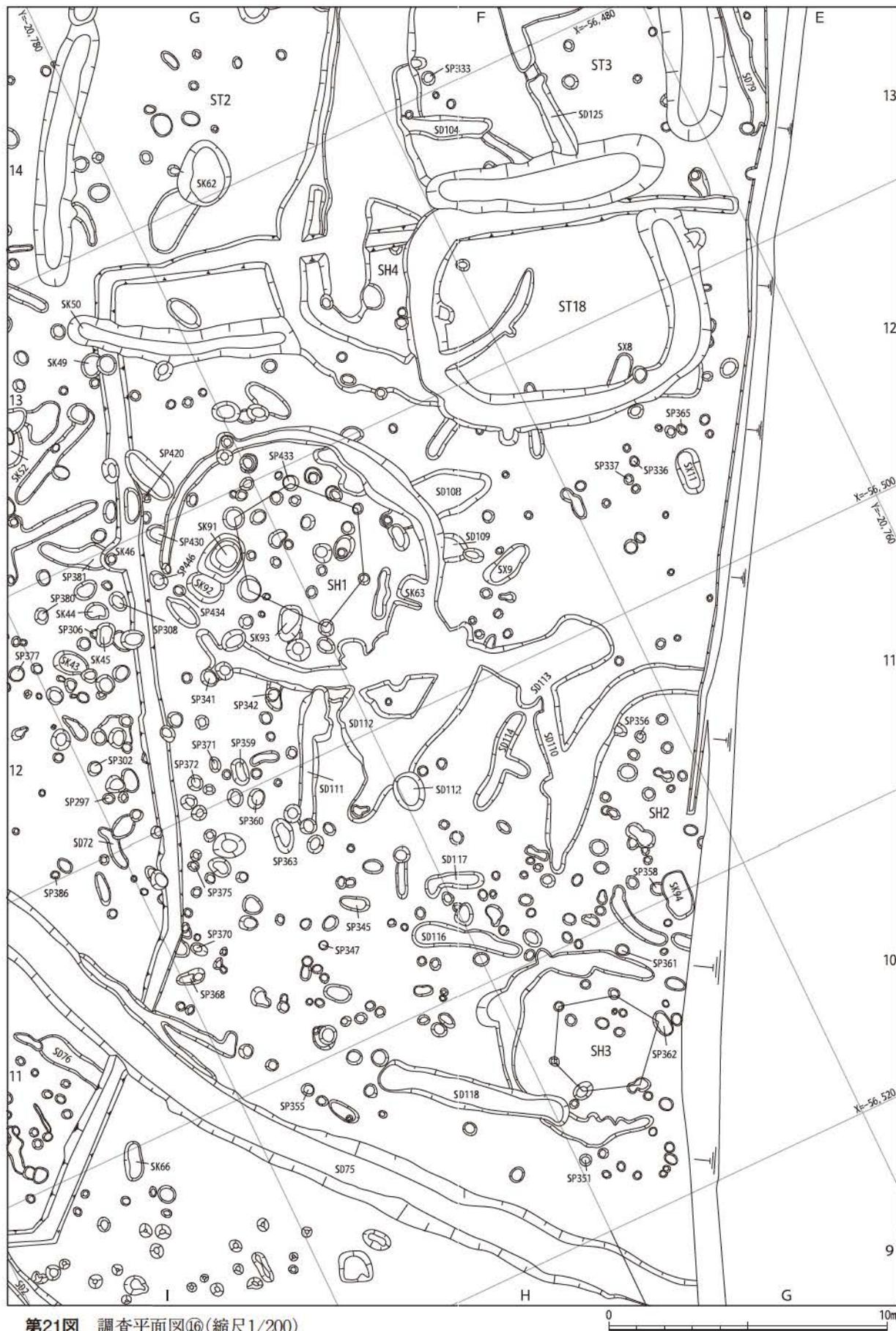
第18図 調査平面図⑬(縮尺1/200)



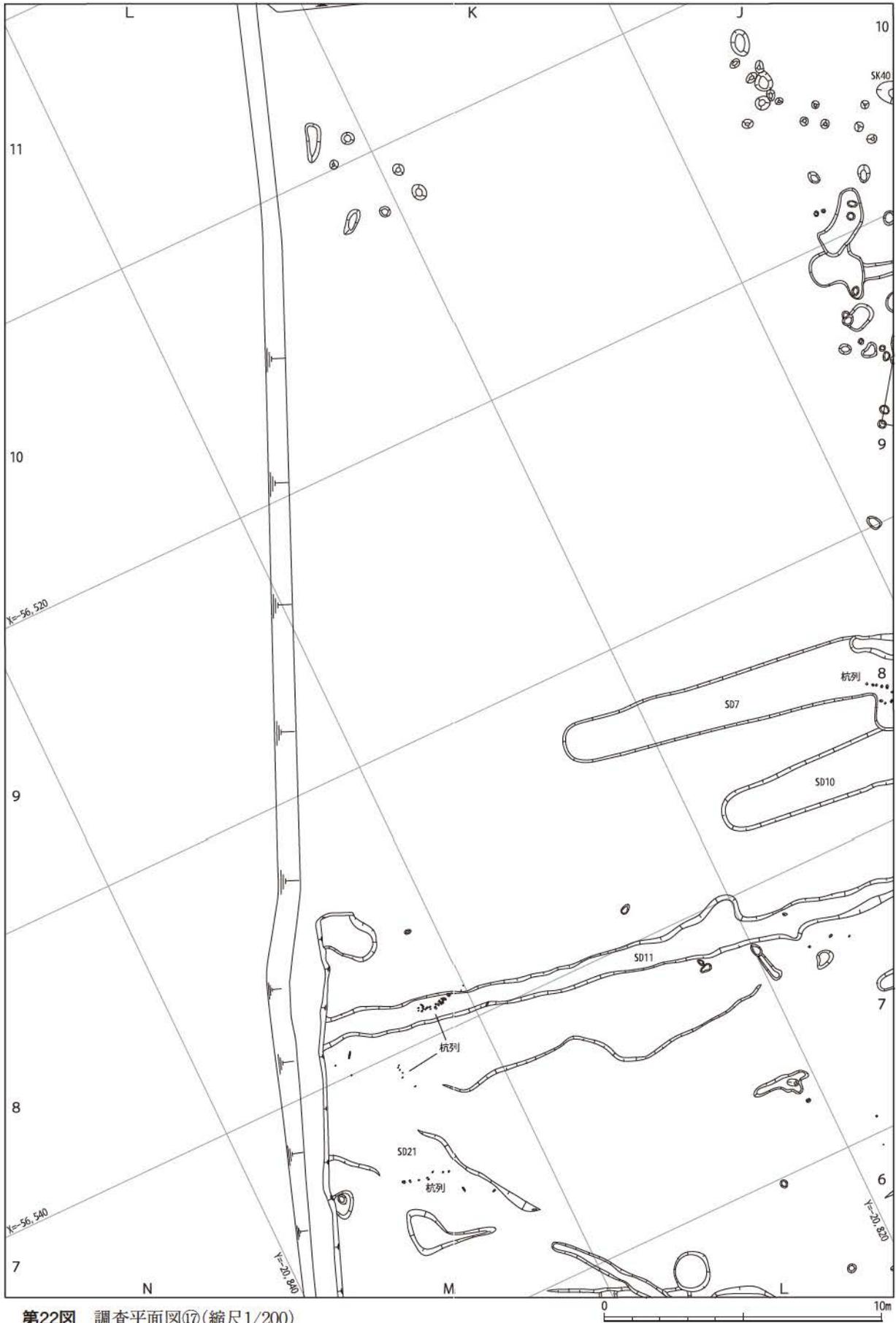
第19図 調査平面図⑭(縮尺1/200)



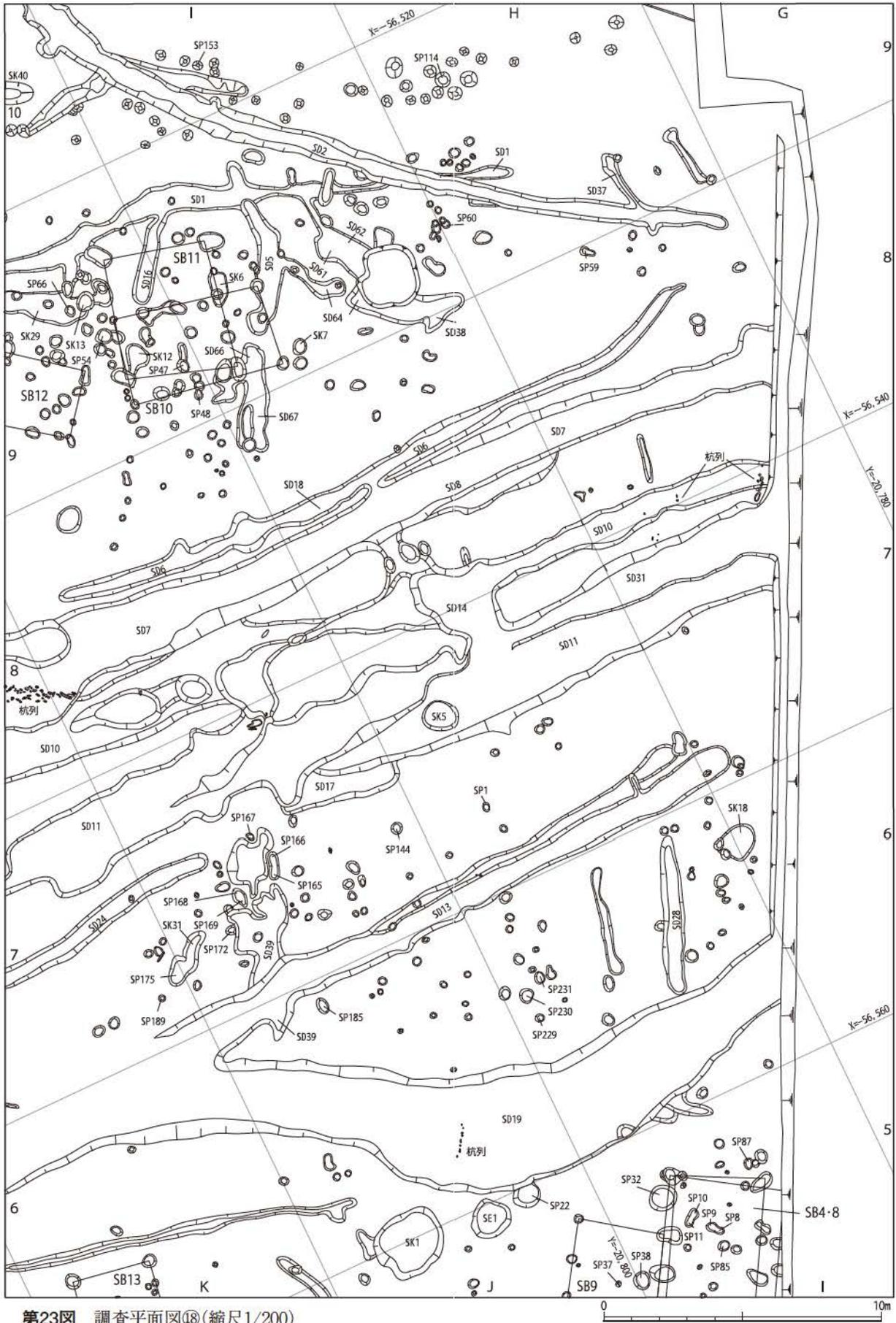
第20図 調査平面図⑮(縮尺1/200)



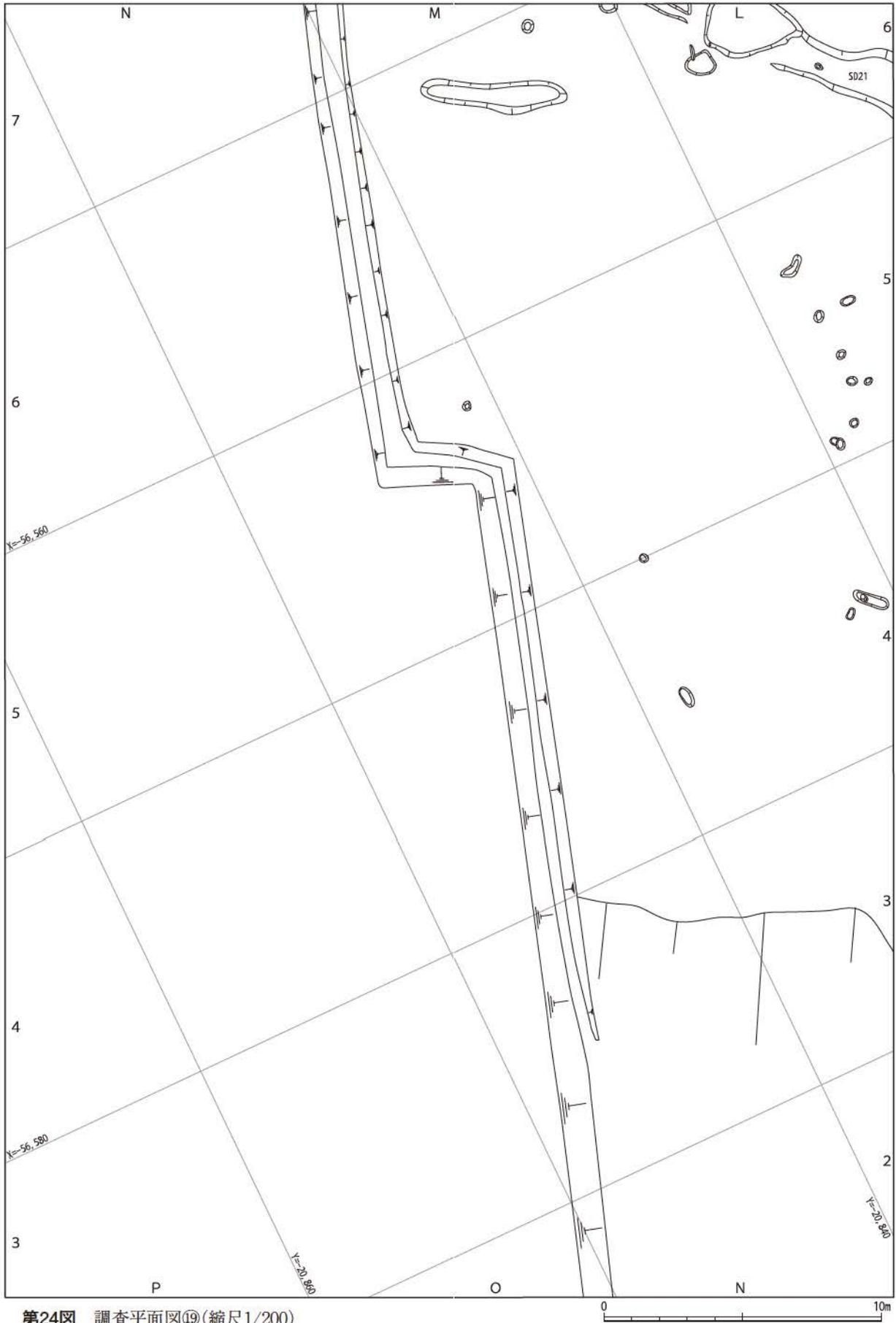
第21図 調査平面図⑩(縮尺1/200)



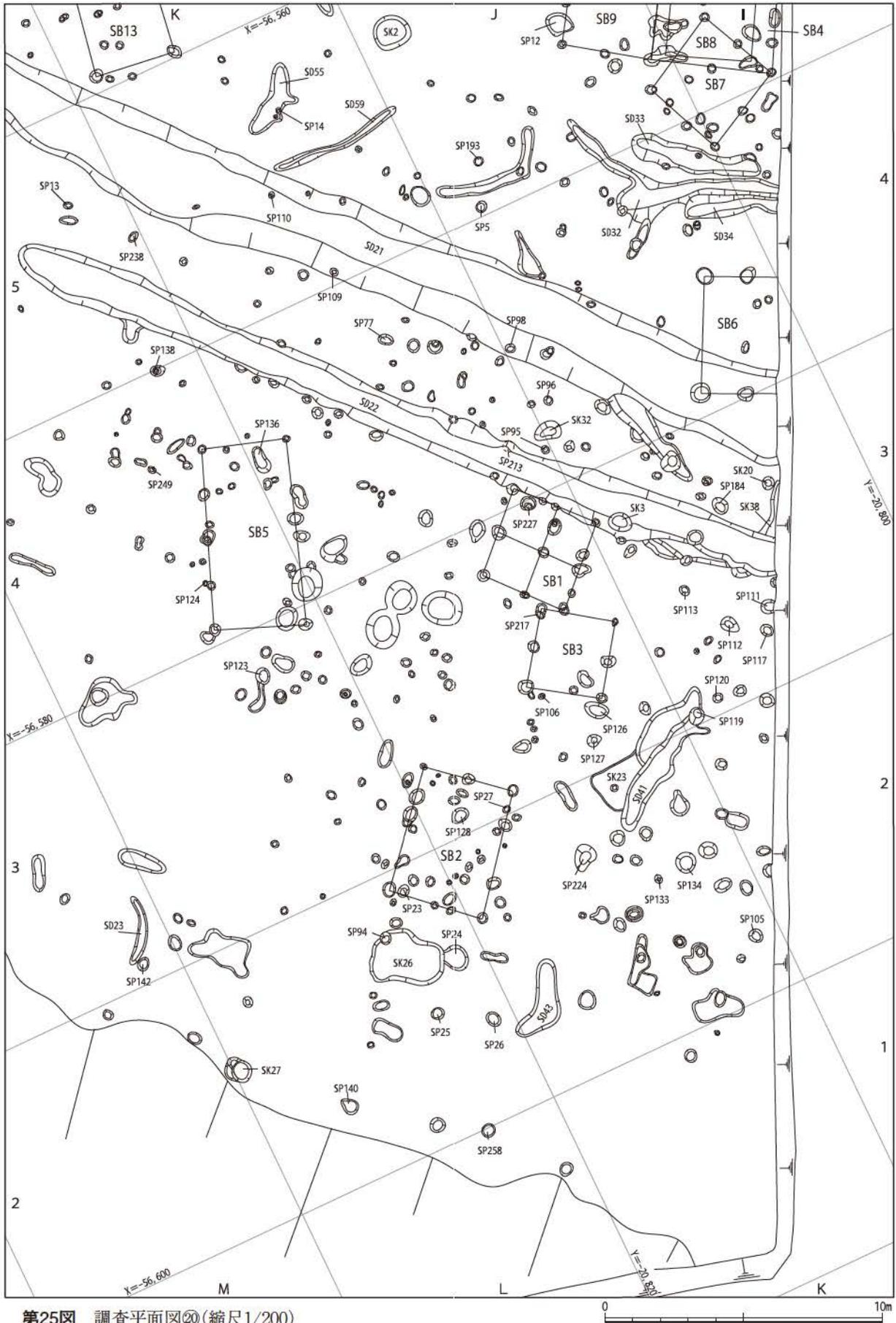
第22図 調査平面図⑱(縮尺1/200)



第23図 調査平面図⑱(縮尺1/200)



第24図 調査平面図⑱(縮尺1/200)



第25図 調査平面図②(縮尺1/200)

第4章 遺構と遺物

第1節 遺構

今回の調査で検出した主な遺構には方形周溝墓59基、土坑墓・木棺墓22基、土器棺墓4基、掘立柱建物69棟、柱列4基、周溝建物12棟、井戸3基があり、そのほか多数の土坑・ピット・溝を確認した。また、旧河道もしくは湿地とみられる落ち込みを3箇所で見出している。出土土器などから時期が推定できる遺構の大半は弥生時代の所産であり、さらに、古墳時代に属する遺構が少数存在する。ここでは時期を問わず遺構種別ごとに報告を行う。なお、土器の帰属時期は、本章第2節の記載にもとづいている。

1 方形周溝墓

方形周溝墓として報告するのはST1～9、11～50、52～55、57～62の計59基である。ST10・51・56は現地調査・整理作業における検討の過程で方形周溝墓から除外し、欠番とした。

方形周溝墓を検出した調査区は、南から順にⅡ・Ⅶ・Ⅳ・Ⅵ区で、墓域はおおよそ南北方向に帯状をなす。北部が後世に河川の影響によって破壊されているほか、南東部に位置する方形周溝墓が調査区外に延びており、墓域の範囲がさらに広がることは確実といえる。

今回確認できた方形周溝墓は、方形ないし長方形を基調としながらも、不整形な平面形を呈するものが多くみられる。軟弱な砂質基盤に構築されていることから崩壊が著しく、原形をとどめていない可能性もあろう。平面規模は墳丘長軸にして5m程度のものから14mを超えるものまでである。墳丘盛土を検出できたものは皆無で、垂直方向の規模を明らかにすることはできなかった。周溝の形状については、墳丘の全周を途切れることなく巡るもの、一隅で途切れ陸橋状になるもの、対角線上の二隅が途切れるもの、一辺両端の二隅が途切れるもの、三隅が途切れるもの、四隅が途切れるものに分類できる。また、遺構の切り合いにより、本来途切れていたか否かを判断しかねる事例、あるいは、もともと掘形の浅い箇所が後世の削平により陸橋化したと考えられる事例も認められる。

多くの方形周溝墓の墳丘では様々な形状・規模をもつ土坑・ピットを検出した。これらのうち、遺構プラン検出の段階で長方形の平面形を認めた土坑については埋葬施設と考え、規模に応じ最大8分割して埋土の掘削と遺物の取り上げを行った。また、掘り上げた土砂は分割単位ごとに水洗し、微細遺物の回収に努めた。

以下、個別に説明する。計測値の詳細などについては第2・3表を参照されたい。

ST1（第26～32図）Ⅱ区G・H15・16グリッド、墓域南端近くの西辺に位置する。墳丘は長軸で約13mを測る。正方形に近い平面形を呈し、各辺はほぼ東西南北を向いている。周溝は各隅でやや狭まるものの、途切れることなく墳丘を巡っている。周溝からは土器・石器・木製品が出土した。東溝では弥生時代後期中葉の高杯や壺の大破片（第214・216図1～7）が多数認められ、なかでも形を留めた高杯の脚裾部がまとまって出土した。出土位置は、平面的には墳丘沿いから中央部にかけて集中している。垂直位置では周溝底面に接するものもあるが、検出面直下から埋土中位で出土したものが多い。そのほか、腐朽が進み詳細は不明だが、建築部材と考えられる長大な木材を底面直上で検出した。一方、南溝では、弥生時代終末期～古墳時代前期前葉に属す壺や甕などの小破片（第215図1～9）が、外寄りに集中して多数出土した。垂直位置は検出面直下から埋土中位にかけてであり、埋土の堆積に沿うように傾斜して出土している。また、南溝でも底面直上からやや浮いた位置で長大な木材を検出している。さらに、それらに混じって梯子（第301図7）が認められた。そのほかの遺物としては、北溝で磨石（第

283図16)、西溝で砥石(第287図2)が出土している。

埋葬施設は墳丘で計8基を検出した(第4埋葬施設は欠番)。いずれからも棺材の出土はなかったが、第6埋葬施設北西端に位置する楕円形の落ち込みは、木棺の小口板を差し込む施設(小口穴)の可能性も考えられよう。また、第8埋葬施設の土層断面も木棺の痕跡を示しているようにみえる。各埋葬施設の配置をみると、大きく3つのグループに分かれる。まず、規模の類似する第5・6・8埋葬施設が、墳丘南北中軸線上にほぼ等間隔に並列する。また、やや規模の小さい第1・3埋葬施設も長軸方向を同じくしている。次に第7・9埋葬施設が北西—南東方向に並列する。最後に第2埋葬施設が単独で南北方向に長軸をもつ。なお、第1・2埋葬施設および第6・7埋葬施設は切り合い関係にあり、第1・6埋葬施設がそれぞれ時間的に先行する。遺物は、第5埋葬施設の東側で管玉7点(第290図85~96)・勾玉3点(同図97~99)を、第9埋葬施設の南西側で弥生時代中期後葉の壺(第215図25)が出土した。また、第8埋葬施設で紅簾片岩の石片(第290図103)が出土している。

本周溝墓の造営時期については東溝から出土した土器をもって弥生時代後期中葉と考えているが、時間的に大きく下る南溝出土の土器も埋土中での垂直位置は東溝出土の土器とほとんど変わりがなく、その解釈に問題が残る。二重口縁壺など供献土器とも考えられる器種を含んでいることから、追葬や二次利用により溝が再掘削された可能性を考慮する必要があるだろう。一方、第9埋葬施設出土の土器は時間的に先行することになる。配列を重視して本周溝墓に伴う埋葬施設と考えれば、土器は混入品とみなされ、そうでなければ、先行する埋葬施設の上に偶然本周溝墓の墳丘が構築されたことになる。土器の出土状況からは後者の可能性が高いと考えられるが、確証はない。

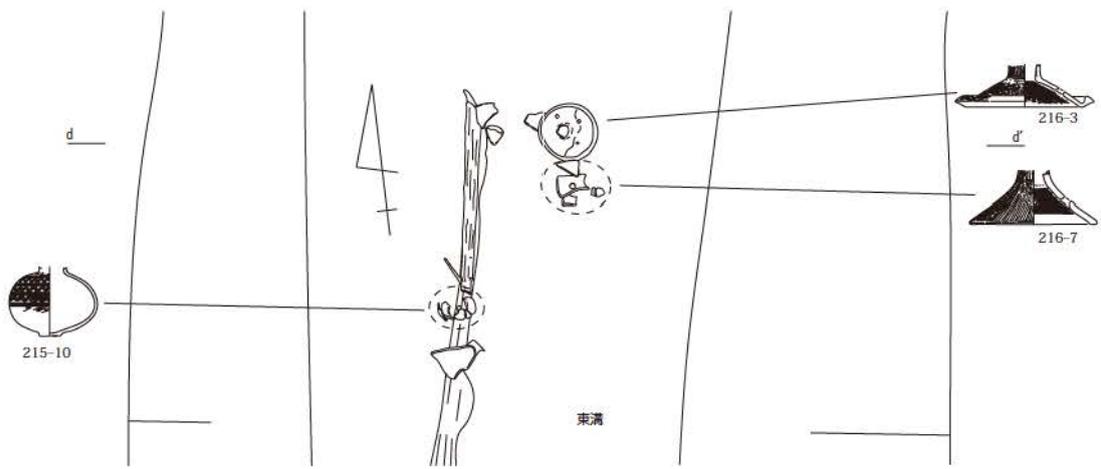
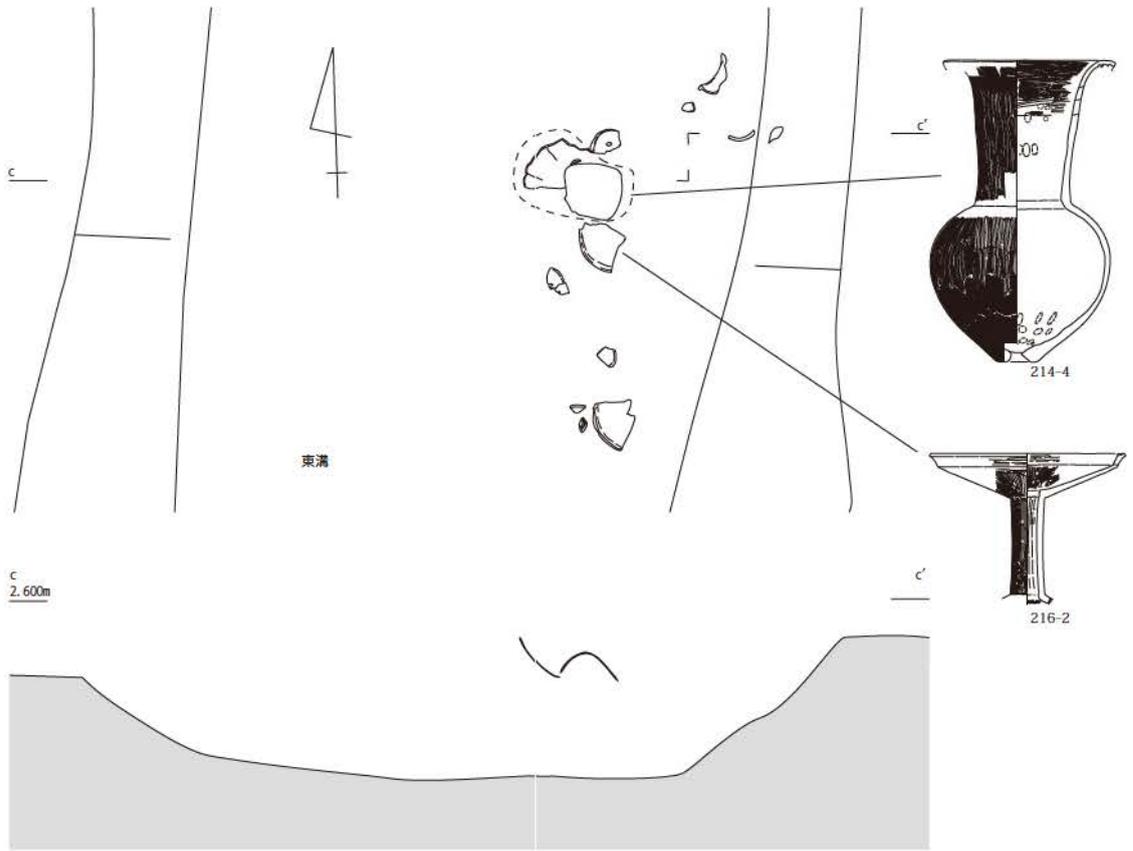
ST2(第33~35図) II区F14、G・H13・14グリッドに位置し、ST1の南側に隣接、ST3に西接する。平面形は長方形を呈し、墳丘長軸12.6m、短軸9.2mを測る。長軸方向はおおよそN28°Eである。周溝は北・西溝間、西・南溝間、南・東溝間の3箇所ですて切れており、また、溝同士の切り合いにより平面形状が不明瞭な北・東溝間についても、現地調査時の所見で連続しないものと判断している。東溝はST3西溝を切って掘削されている。周溝から弥生時代中期後葉の土器(第216図14~17)が出土した。なお、現地調査では認識していなかったが、北溝の北方をほぼ並行して延びる溝SD137について、墳丘を拡張した際の区画溝である可能性を指摘しうる。SD137では弥生時代中期後葉の水差など(第256図1~3)が完形に近い状態で出土した。

埋葬施設は2基確認した。第1埋葬施設は墳丘の南西寄りに位置し、墳丘の長軸に斜交する。木棺の痕跡は認められなかった。第2埋葬施設は北溝内に構築されている。北溝埋土のトレンチ掘削中に木棺(第309図)を検出し、その存在を認識するに至った。掘形は北溝両辺の肩部を削り込んで掘削され、底面は溝底より10~15cm深く、墳丘側には段が形成される。木棺はこの段に側面を密着させるように据えられていた。木棺は組合式の箱形木棺で、底板・側板・小口板が良好な状態で遺存していた。また、蓋板の一部も棺内にやや落ち込んだ状態で出土した。棺材の組み合わせ方は、底板上で側板が小口板を挟み込むもので、底板と側板には小口板をはめ込む溝が作出されている。内法幅は西側が若干広い。樹種はいずれもスギと同定され、底板については¹⁴C年代測定で前1~2世紀の年代値が得られている(第5章第3節)。この第2埋葬施設については、前述したようにSD137を本周溝墓の区画溝と考えた場合、その造営が墳丘拡張の契機になったと想定され、いわゆる溝内埋葬とは性格を異にする可能性がある。

造営時期については周溝出土土器から弥生時代中期後葉と考えている。SD137から出土した土器も大きな時間差はないとみられ、木棺の年代測定値とも整合的である。



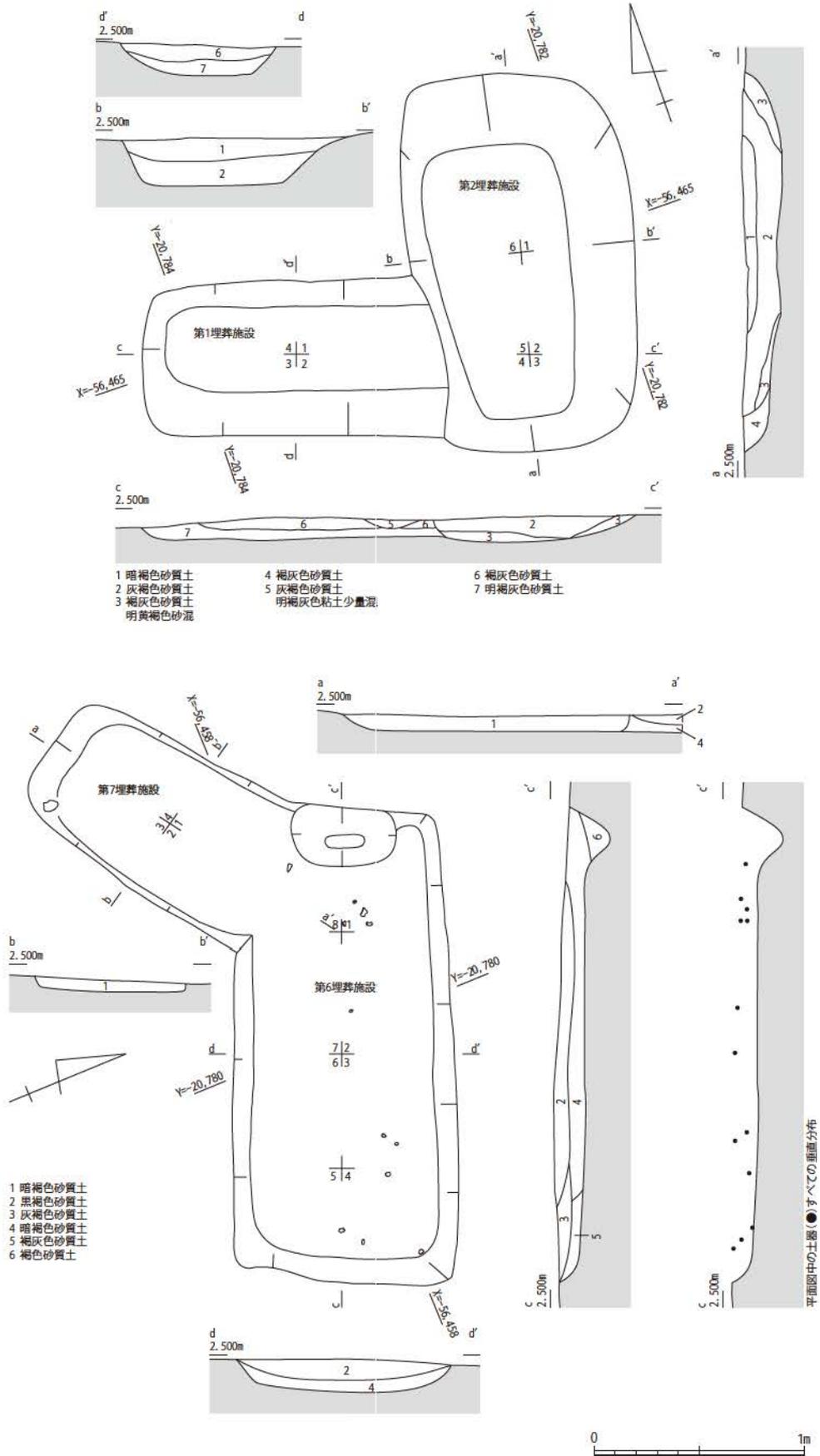
第27図 ST 1 遺物出土状況図(縮尺1/20)



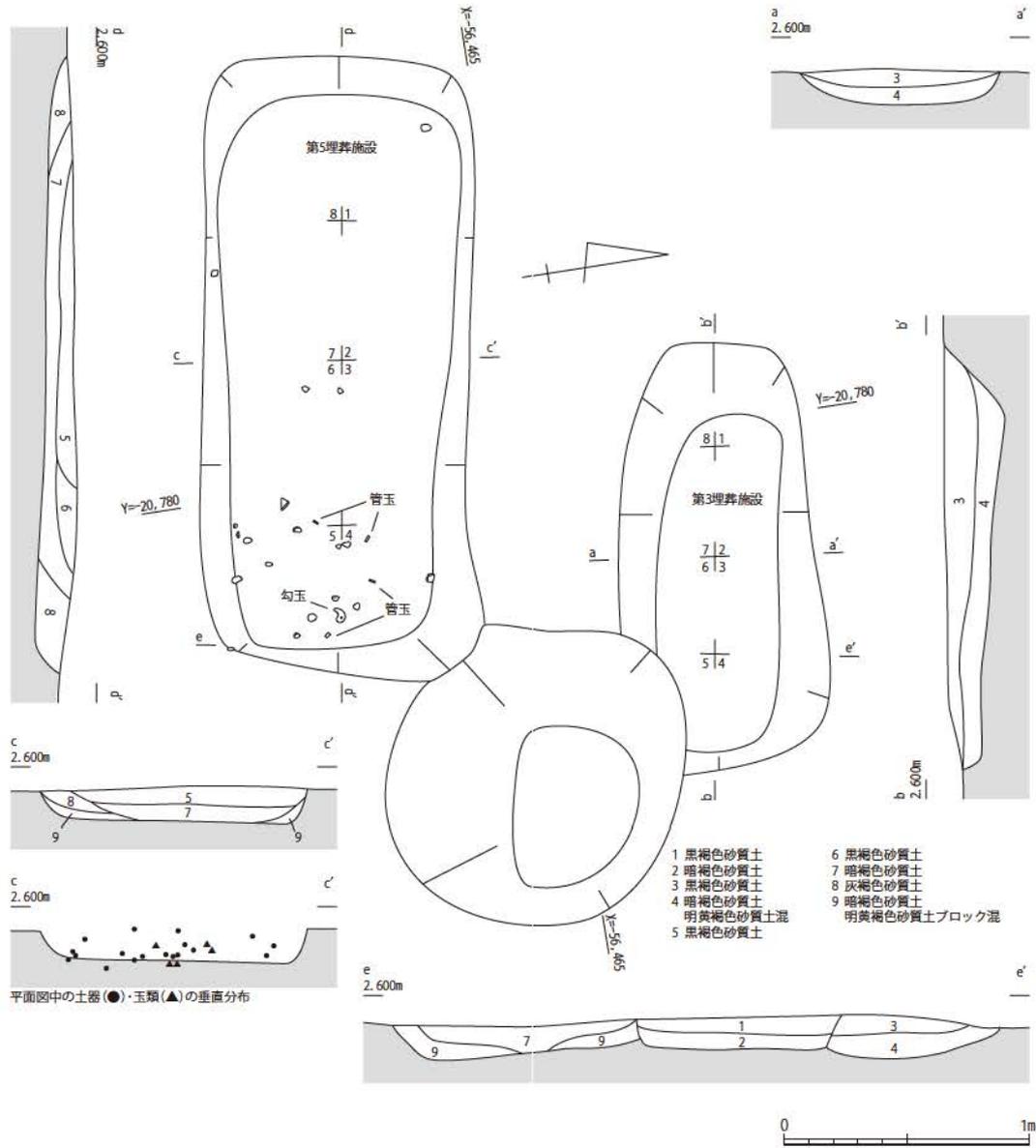
0 1m

第28図 ST 1 遺物出土状況図(縮尺1/20)

第1節 遺構

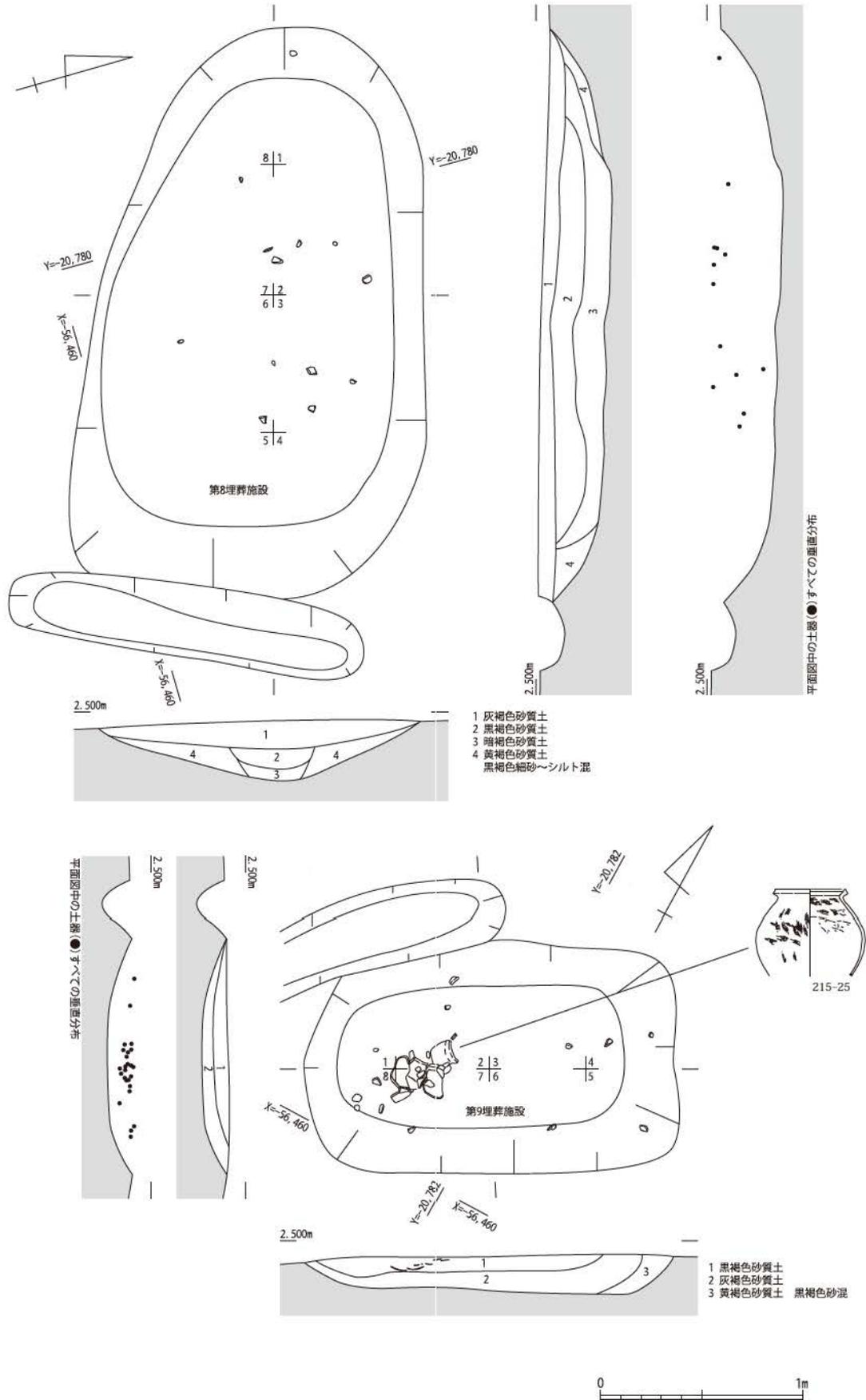


第30図 ST 1 埋葬施設実測図(縮尺1/30)

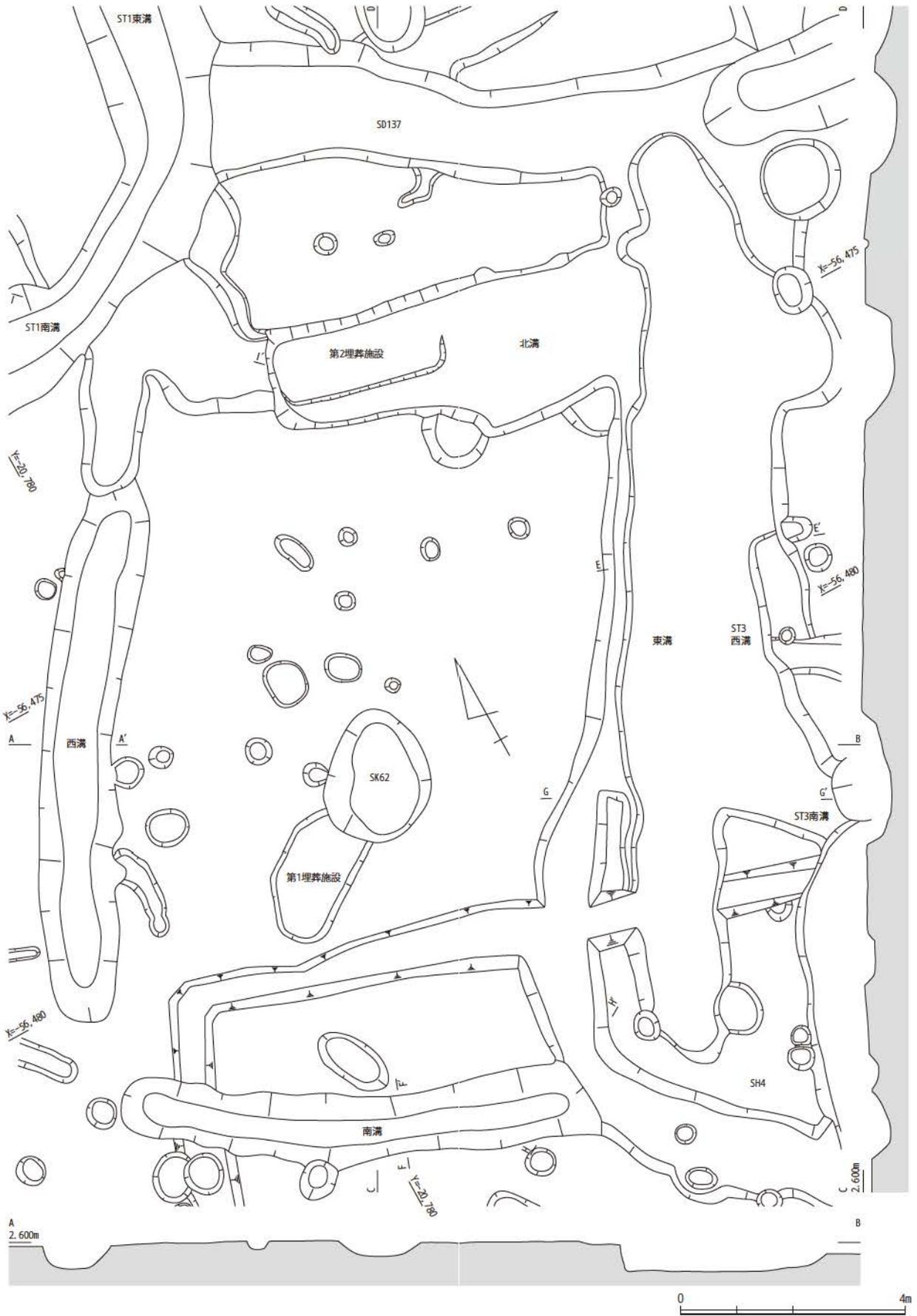


第31図 ST 1 埋葬施設実測図(縮尺1/30)

第1節 遺構

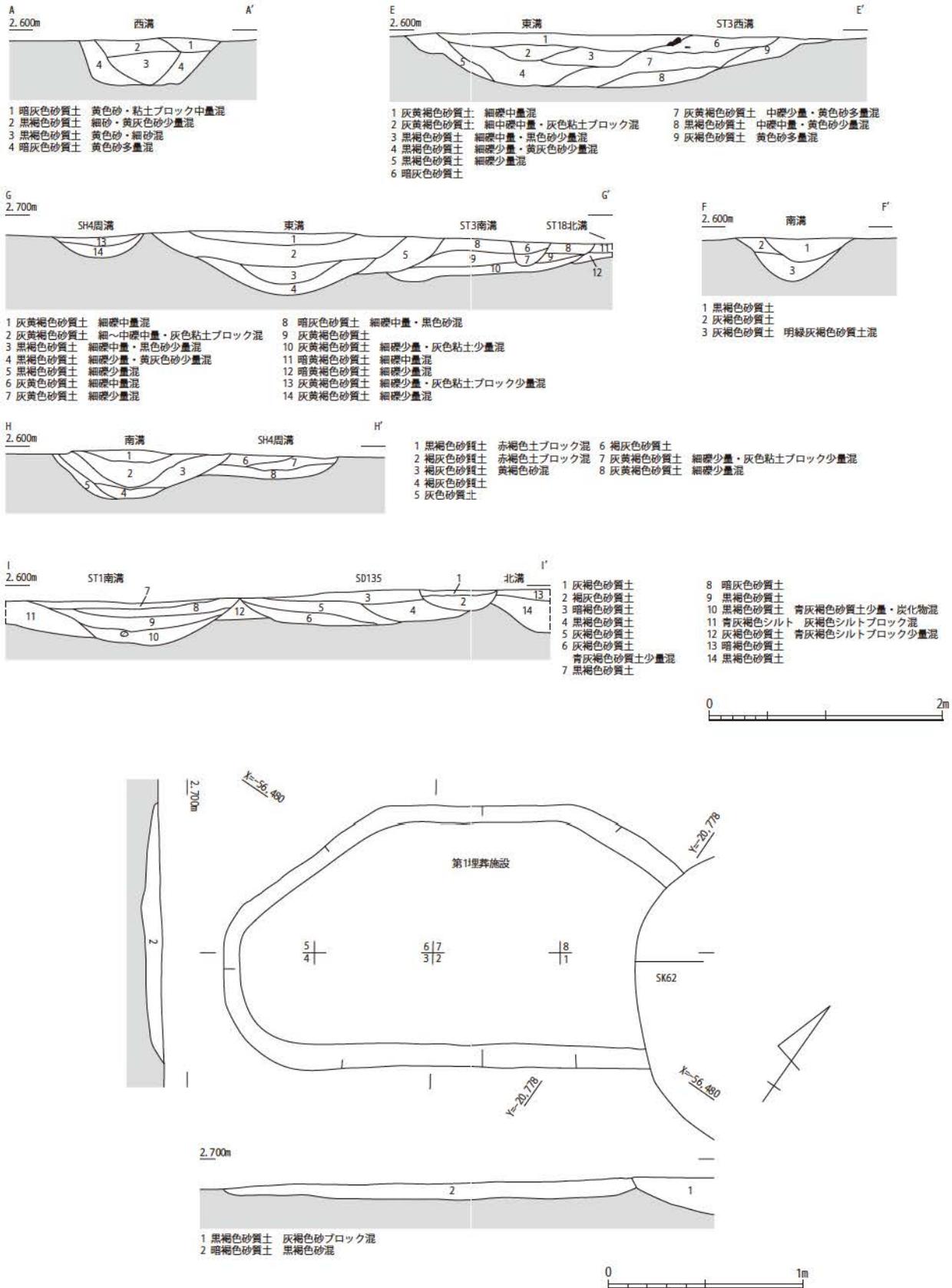


第32図 ST 1 埋葬施設実測図(縮尺1/30)

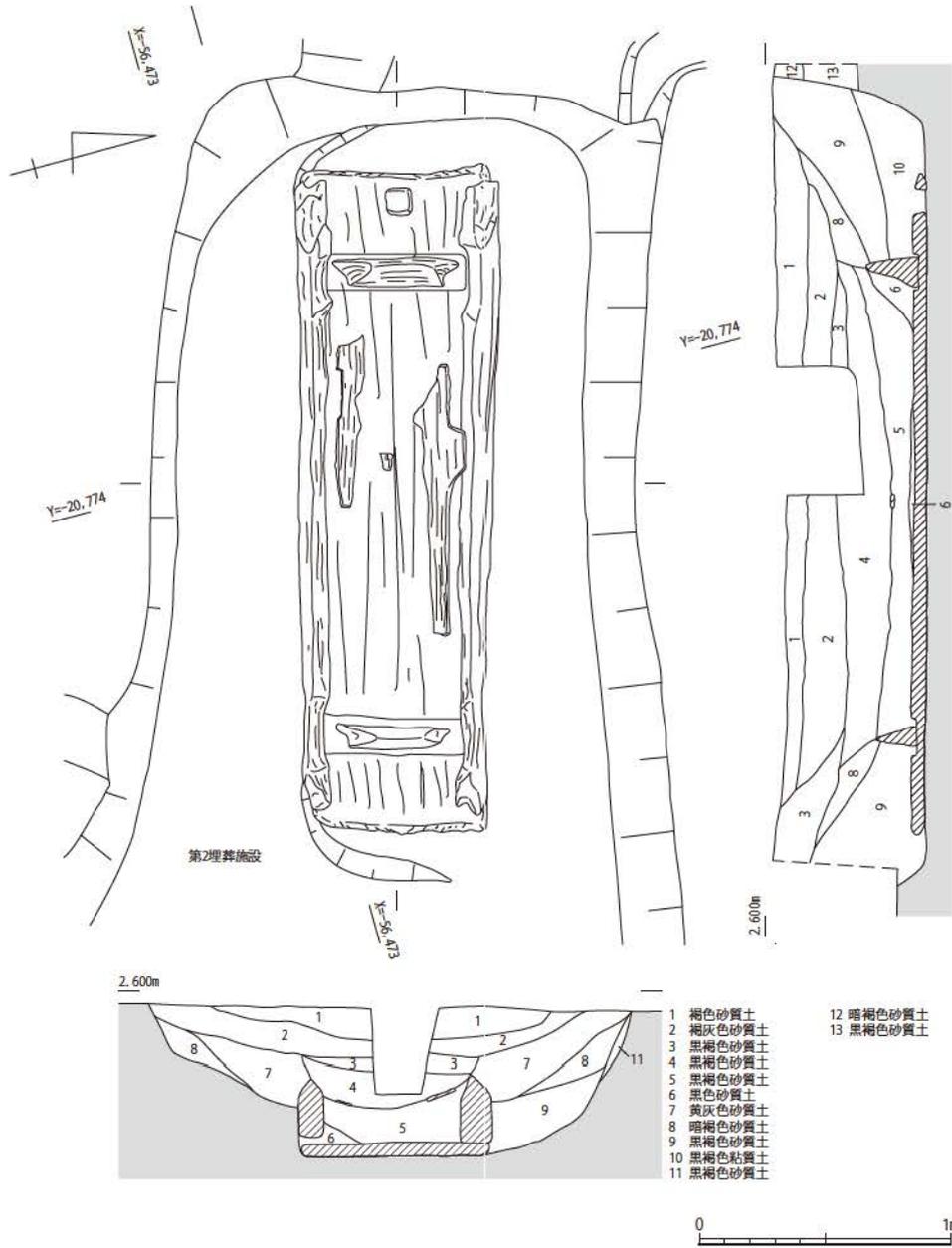


第33図 ST 2全体図(縮尺1/100)

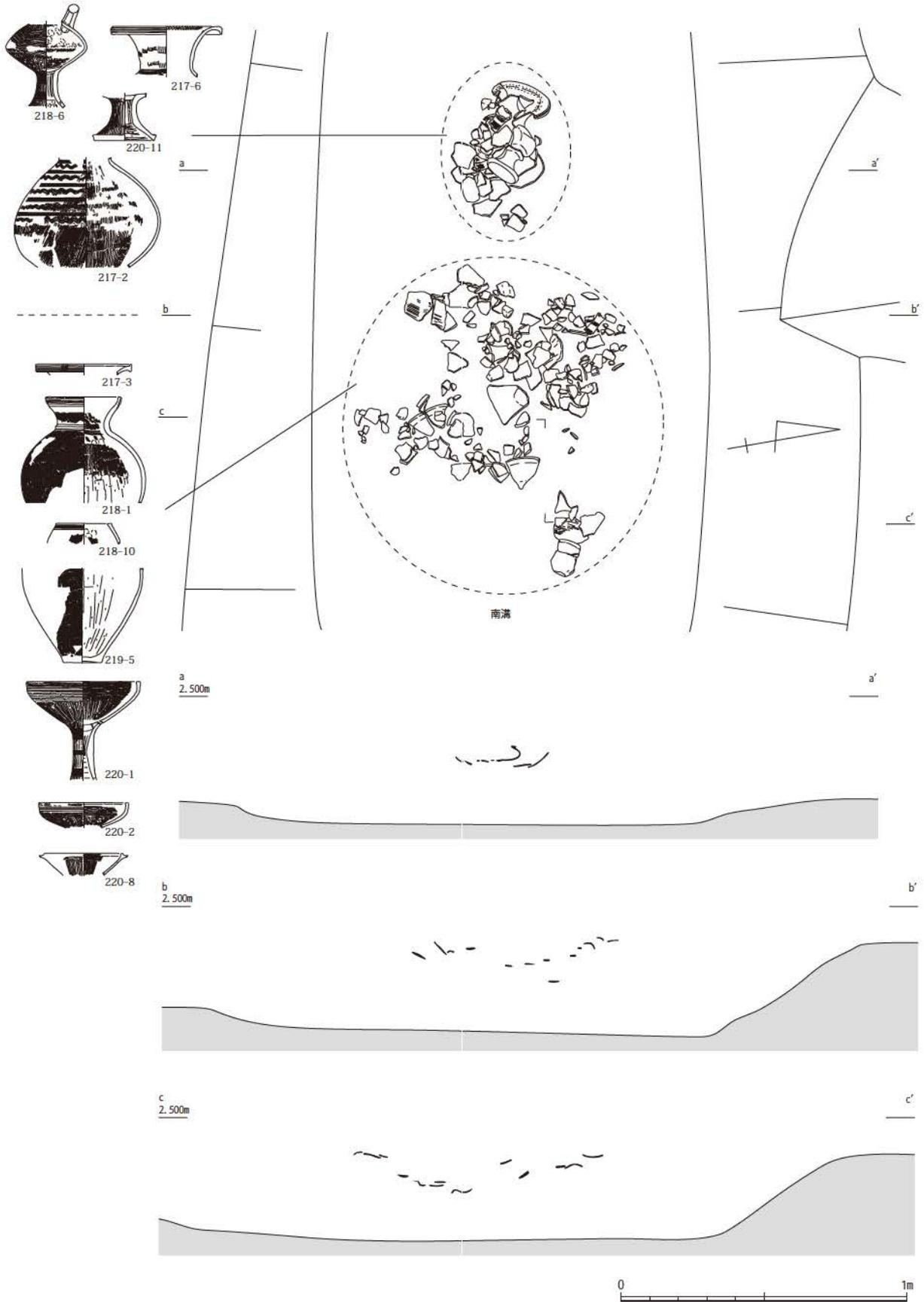
第1節 遺構



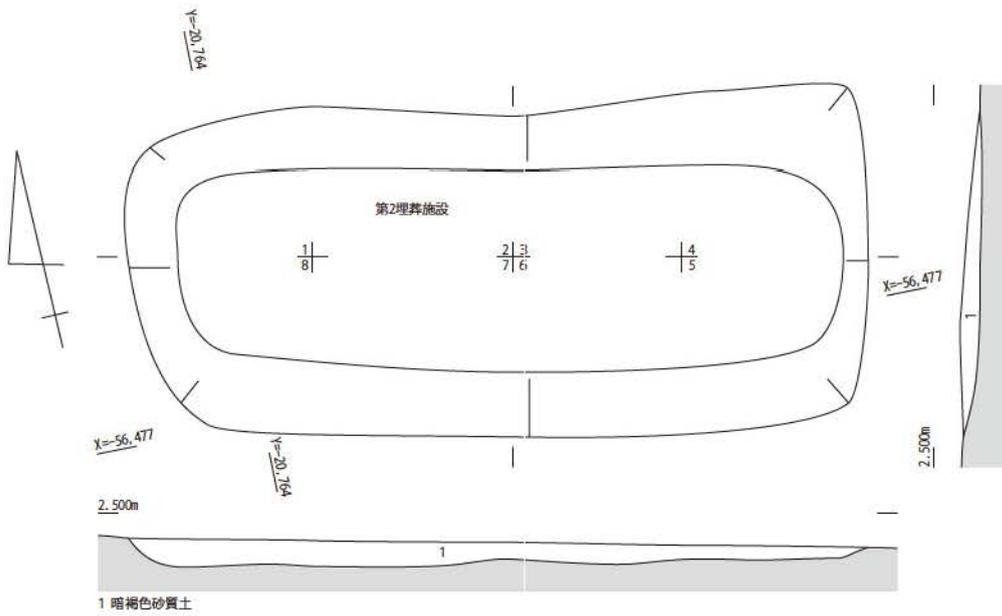
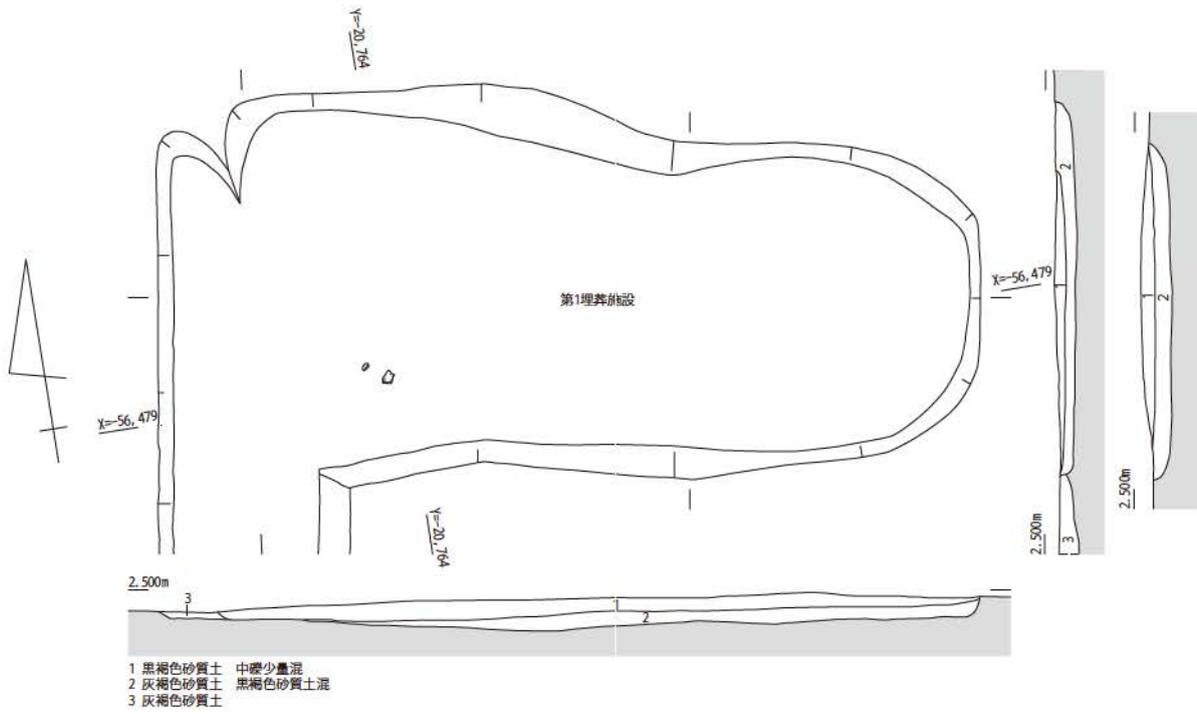
第34図 ST 2土層断面・埋葬施設実測図(縮尺1/50・1/30)



第35図 ST 2埋葬施設実測図(縮尺1/30)



第37図 ST 3 遺物出土状況図(縮尺1/20)



第38図 ST 3 埋葬施設実測図(縮尺1/30)

ST3 (第36~38図) II区E~G13・14グリッドに位置し、ST2に東接、ST4に南接、ST18に北接する。平面形は長方形を呈し、墳丘長軸12.4m、短軸9.9mを測る。長軸方向はN18° Eである。周溝は四隅で途切れており、北溝がST4東~南溝を、南溝がST18北溝を切っている。一方、西溝はST2東溝に切られている。周溝では弥生時代中期後葉に位置付けられる多数の土器(第217~219図、220図1~12)を検出した。なかでも西溝では、ほぼ完形となる壺(第217図1)と水差(第218図7)が墳丘裾の底面付近で出土している(図版第11)。壺の底部には穿孔がみられる。また、南溝の中央部では、多数の個体を含む破片が集中的に出土した。そのほかの遺物としては、北溝で紅簾片岩の石片(第290図104)、南溝で敲石や台石(第286図1)が出土している。

埋葬施設は2基確認した。第1埋葬施設が墳丘中央にあり、第2埋葬施設がその北側に並んで位置する。両者の長軸は墳丘の短軸に並行している。いずれにも木棺の痕跡は認められなかった。

造営時期については周溝出土土器から弥生時代中期後葉と考えている。

ST4 (第39図) II区E15、F14・15、G15グリッドに位置し、ST3に北接、ST7に南接する。平面形は長方形を呈し、墳丘長軸10.6m、短軸8.9mを測る。長軸方向はN72° Wである。周溝は三辺で検出した。南溝にあたる位置はST3北溝およびSD137によって切られており、存否も含めその形状は不明である。また、東溝は、南端がST3北溝に切られているが、縦断面をみると南に向かって徐々に底面が高くなっており、独立した掘形をもつことがうかがえる。したがって、南溝が存在したとすれば四隅で途切れる形状の周溝を復元しうる。周溝の出土遺物としては、東溝で弥生時代中期後葉の土器(第220図13~17)を検出した。埋葬施設は確認できなかった。

造営時期については周溝出土土器および切り合い関係からみて弥生時代中期後葉の可能性が高い。

ST5 (第40~43図) II区D16、E15~17グリッドに位置する。平面形は長方形を呈し、墳丘長軸12.6m、短軸9.8mを測る。長軸方向はN30° Eである。周溝は四隅で途切れ、ほかの方形周溝墓との切り合い関係はない。周溝からは弥生時代中期後葉に属す多数の土器(第221図、222図1~5)が出土した。器種では壺や水差が多くみられ、なかでも西溝中央部の底面から埋土中位にかけて完形に近い個体がまとまっている。これらの土器には底部に焼成後穿孔をもつものも認められる。そのほかの遺物としては、西溝から数条の深い溝をもつ特徴的な砥石(第287図1)が出土している。

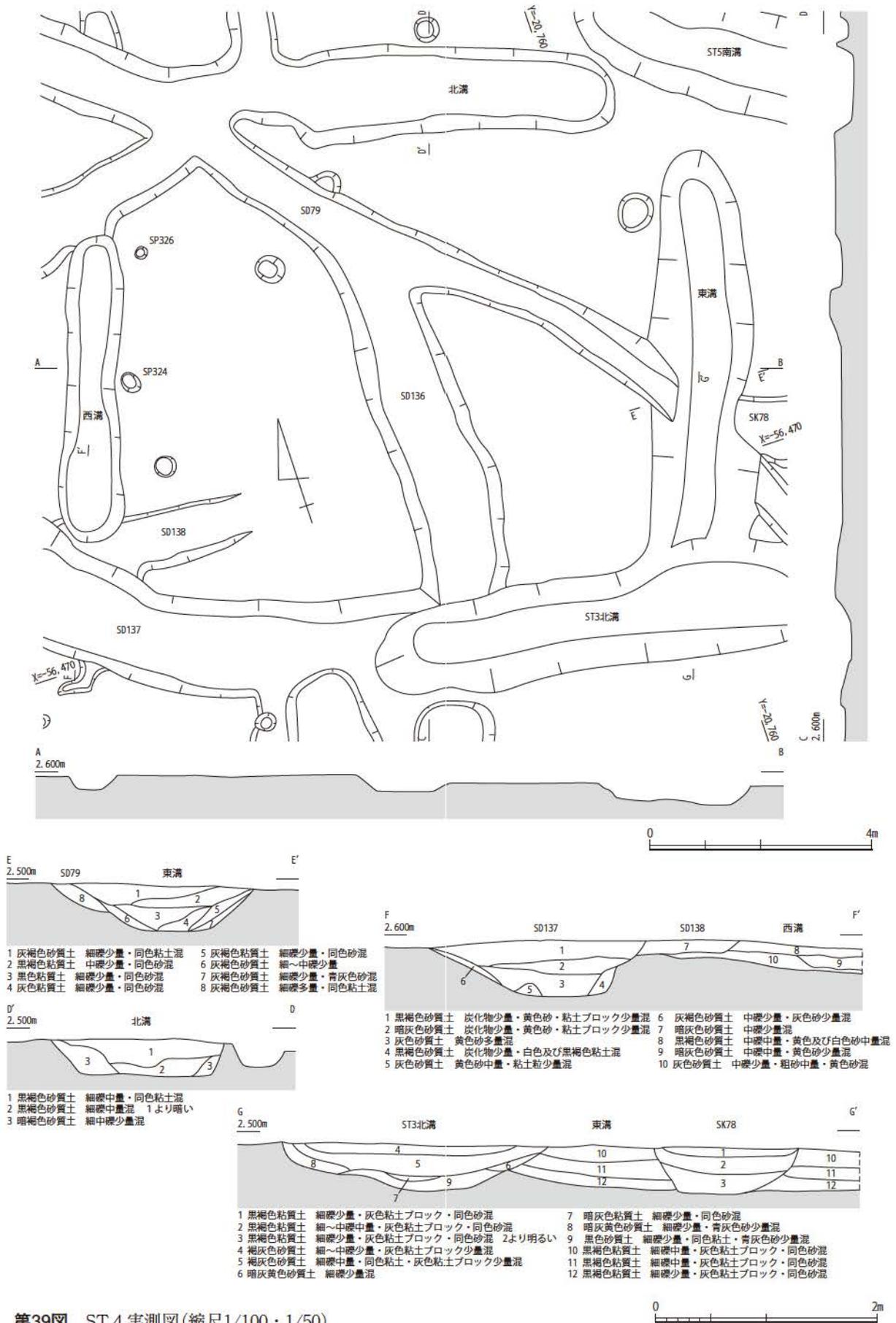
埋葬施設は2基確認した。第1埋葬施設は墳丘南半に位置し、墳丘の短軸にほぼ平行する。掘形内には組合式の箱形木棺が遺存していた。腐朽がかなり進んでいたものの、底板には小口板をはめ込む溝が認められ、ST2第2埋葬施設の木棺と同様の組み合わせ方であると推測される。第2埋葬施設は墳丘北半に位置し、墳丘の長軸にやや斜交する。木棺の痕跡は認められなかった。

造営時期については周溝出土土器から弥生時代中期後葉と考えている。

ST6 (第44・45図) II区G・H19・20グリッド、墓域中央付近の西辺に位置し、ST20に北接、ST59に南接する。平面形は長方形を呈し、墳丘長軸9.6m、短軸8.7mを測る。長軸方向はN12° Eである。周溝は四隅で途切れている。北溝はST59南溝の墳丘側を切っており、墳丘北側裾はST59南溝の埋土からなる。また、南溝の東端はST20東溝に切られている。遺物は東溝および南溝で弥生時代中期後葉に位置付けられる土器(第222図6~8)が出土している。

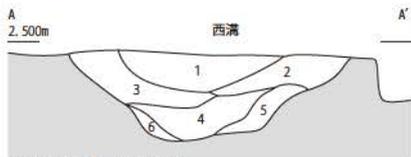
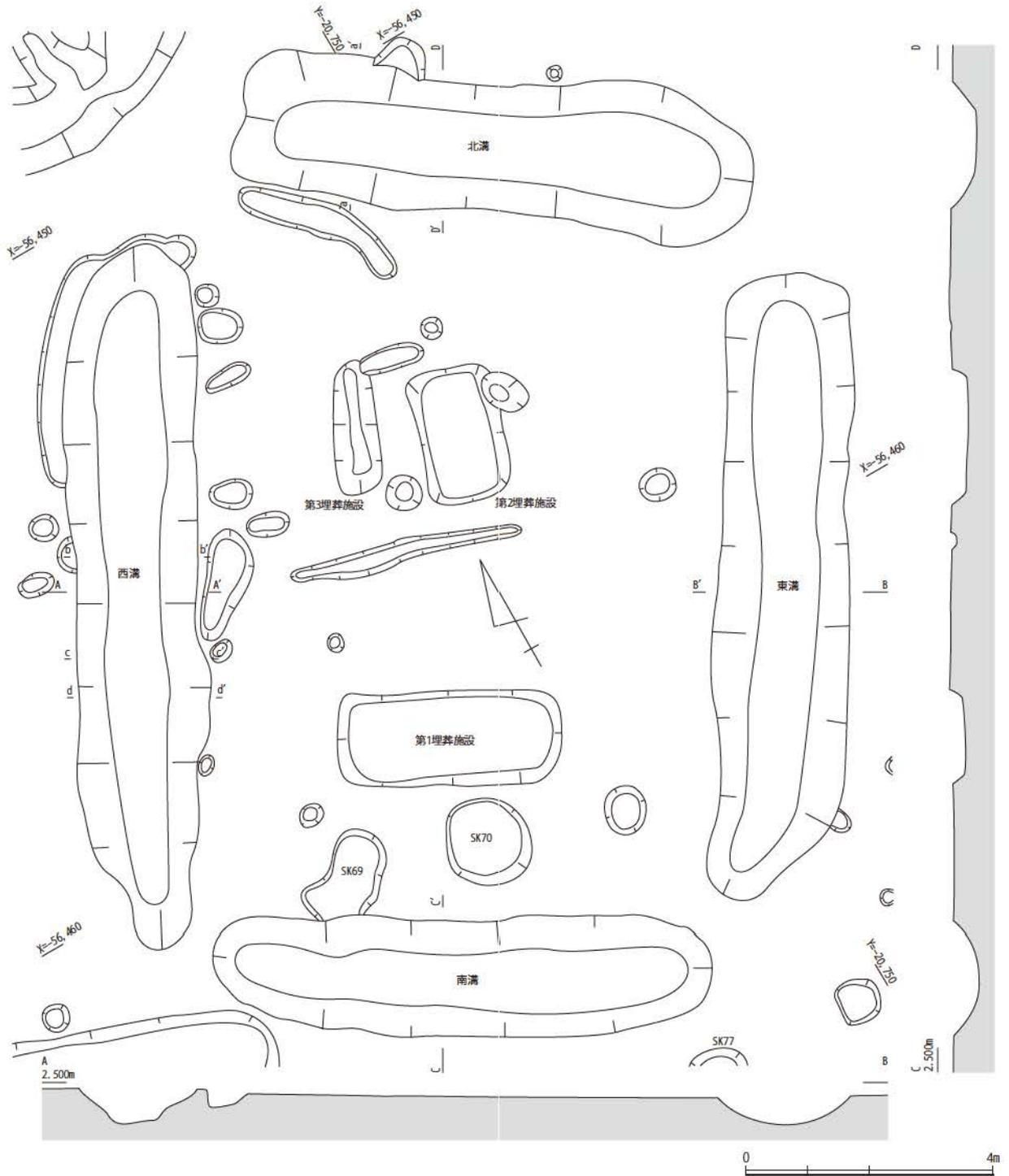
埋葬施設は墳丘中央付近で1基確認した。墳丘に斜交するように配置される。規模は小さく、木棺の痕跡は認められない。

造営時期については周溝出土土器から弥生時代中期後葉の可能性が高いと考えている。



第39図 ST 4 実測図 (縮尺1/100・1/50)

第1節 遺構



- 1 灰黄色砂質土 中礫少量混
- 2 黒褐色砂質土 細礫少量・黒褐色砂多量混
- 3 黒褐色砂質土 細礫少量・黒褐色砂混
- 4 黒褐色砂質土 細礫少量・黒褐色粘土多量混
- 5 暗褐色砂質土 細礫少量混
- 6 暗灰黄色砂質土 細礫少量混

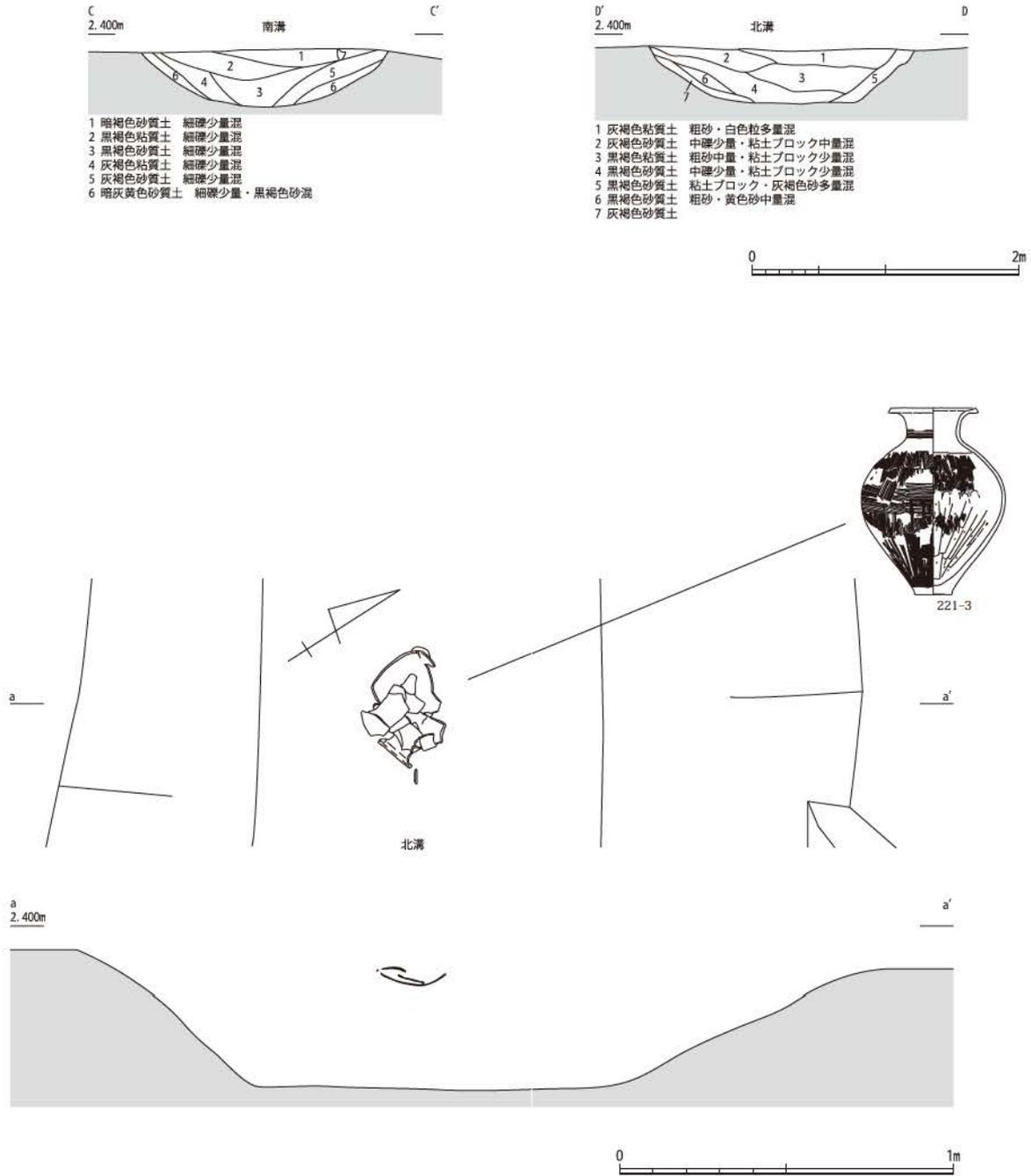


- 1 灰褐色砂質土 細礫少量混
- 2 灰褐色粘質土 細礫少量混
- 3 黒褐色砂質土 細礫少量混
- 4 黒褐色粘質土 細礫少量混
- 5 黒褐色砂質土 細礫少量混
- 6 黒褐色粘質土 細礫少量混
- 7 暗褐色砂質土 細礫少量混
- 8 灰褐色砂質土 細礫少量混



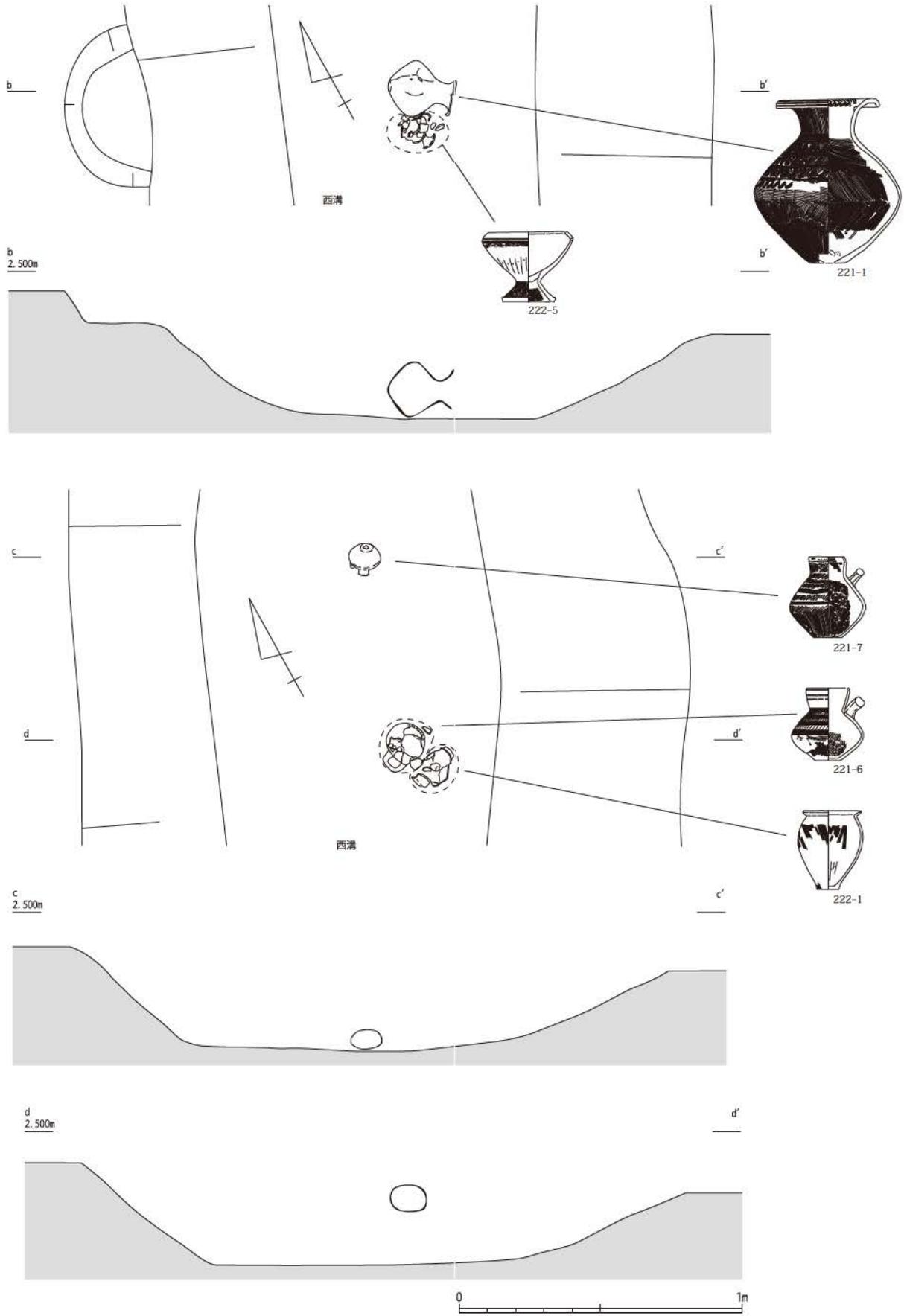
第40図 ST5全体・土層断面図(縮尺1/100・1/50)

第4章 遺構と遺物

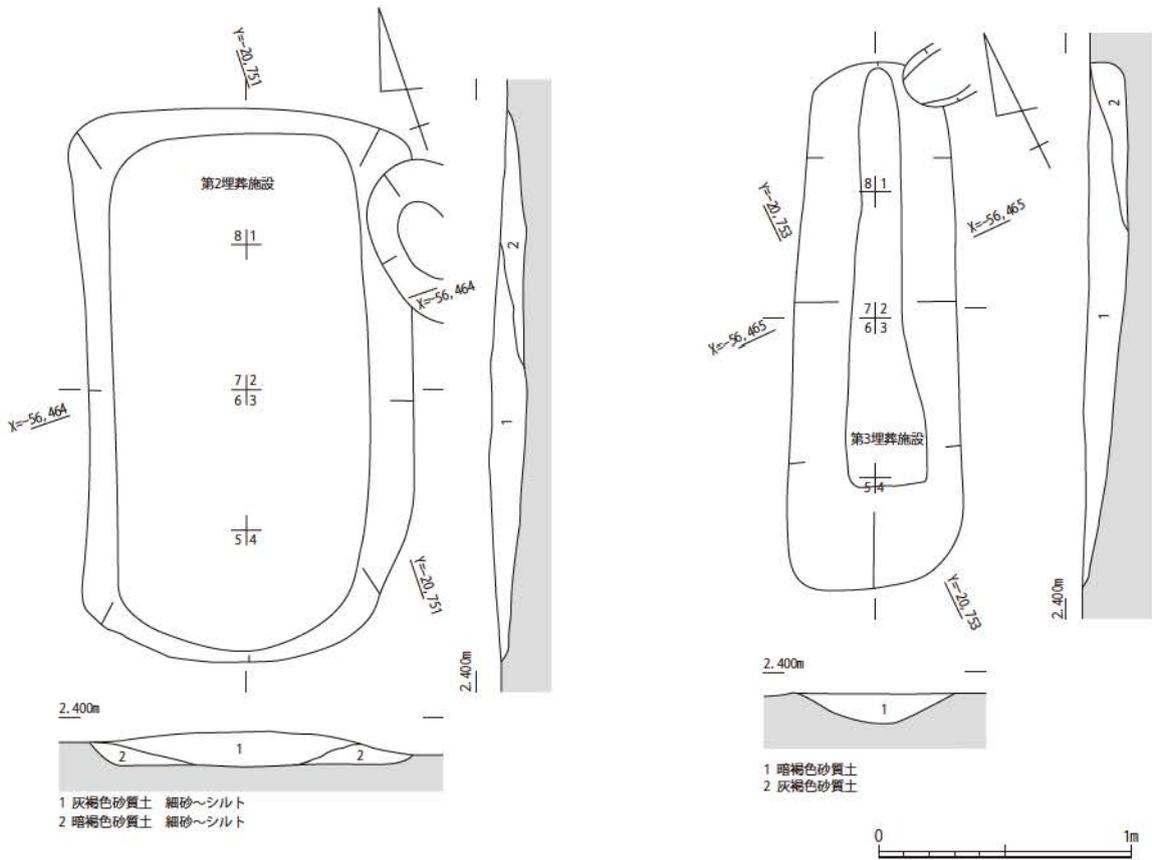
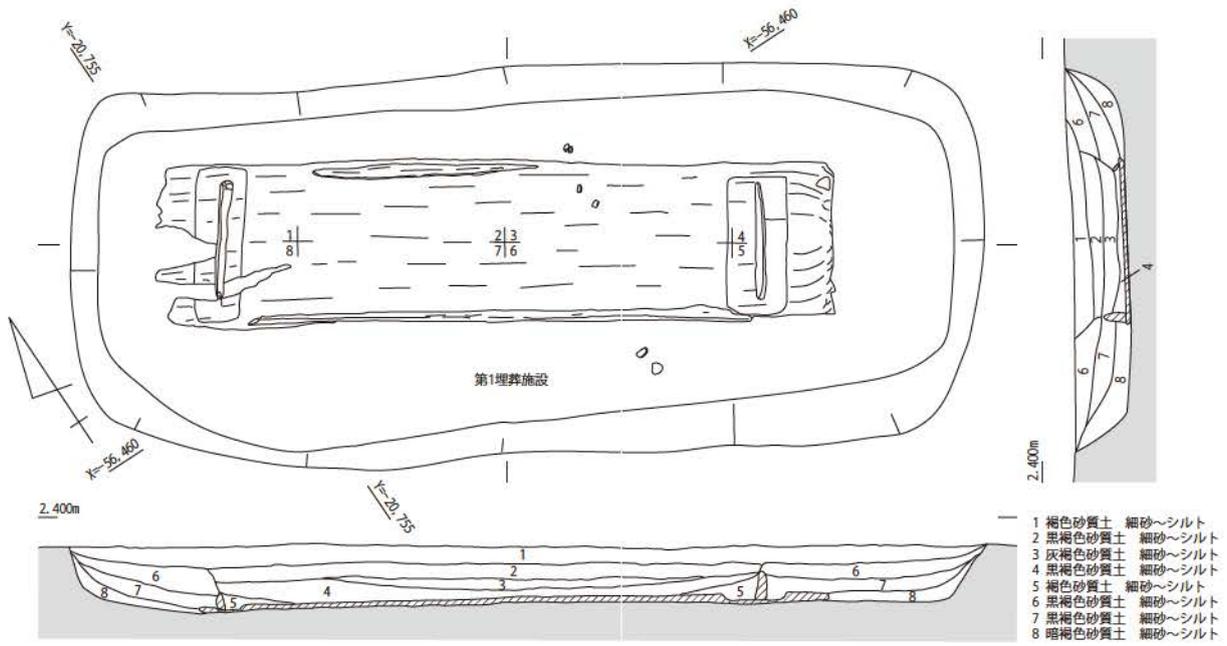


第41図 ST 5 土層断面・遺物出土状況図(縮尺1/50・1/20)

第1節 遺構

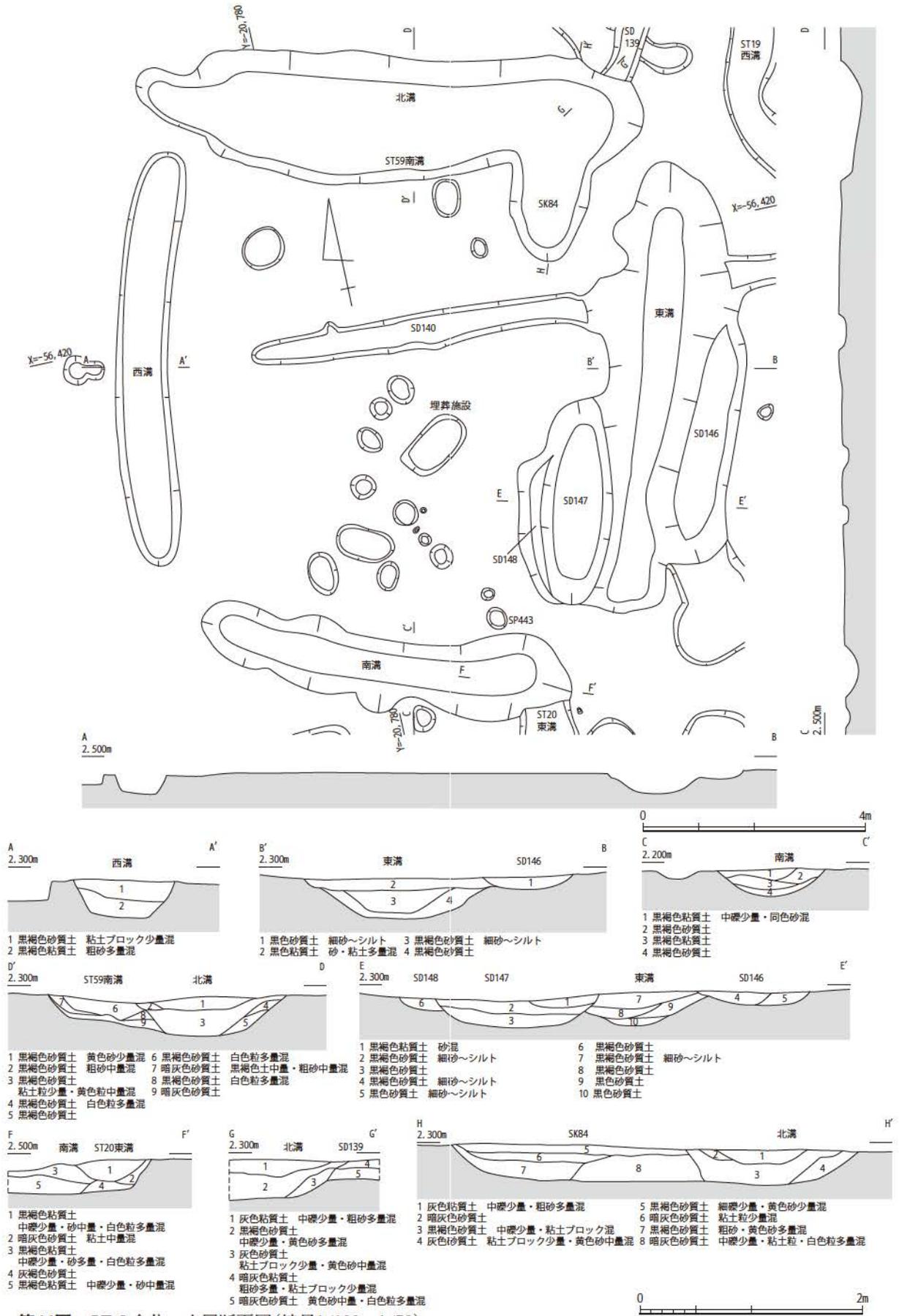


第42図 ST 5 遺物出土状況図(縮尺1/20)

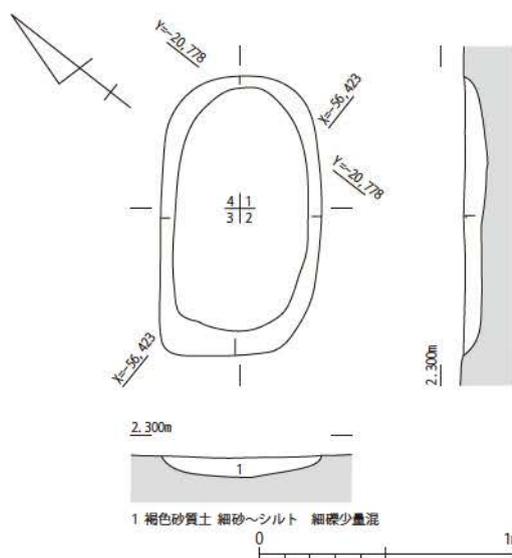


第43図 ST 5 埋葬施設実測図(縮尺1/30)

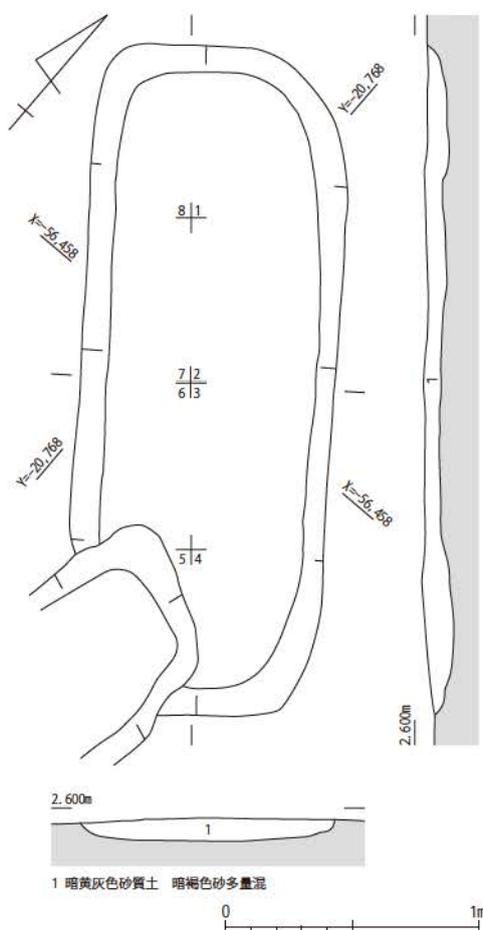
第1節 遺構



第44図 ST 6 全体・土層断面図(縮尺1/100・1/50)



第45図 ST 6 埋葬施設実測図(縮尺1/30)



第46図 ST 7 埋葬施設実測図(縮尺1/30)

ST7 (第46・47図) II区F・G15・16グリッドに位置し、ST1に東接、ST4に北接する。西溝を除く三辺で周溝を検出した。南溝はST4西溝の端部を切っている。西溝についてはST1の周溝によって破壊されたとみているが、配置的にやや不自然であり、当初より存在しなかった可能性もある。遺物は北溝で弥生時代後期中葉の甕(第222図9)の破片が出土している。

埋葬施設は墳丘中央付近で1基確認した。長軸は墳丘の各辺に斜交している。木棺の痕跡は認められない。

造営時期について、出土した少量の土器片からは積極的に言及できない。ただ、その帰属時期をもって弥生時代後期中葉とすれば、切り合い関係とは矛盾しない。

ST8 (第48~50図) II区F・G18・19グリッド、ST6の南西、ST20の東に近接して位置する。平面形は長方形を呈し、墳丘長軸9.8m、短軸7.4mを測る。長軸方向はN19°Eである。周溝は四隅で途切れる。遺物は東溝から弥生時代中期後葉の土器(第222図10・11)が出土した。なお、10と同一個体と考えられる破片が、ST6北溝で出土している。

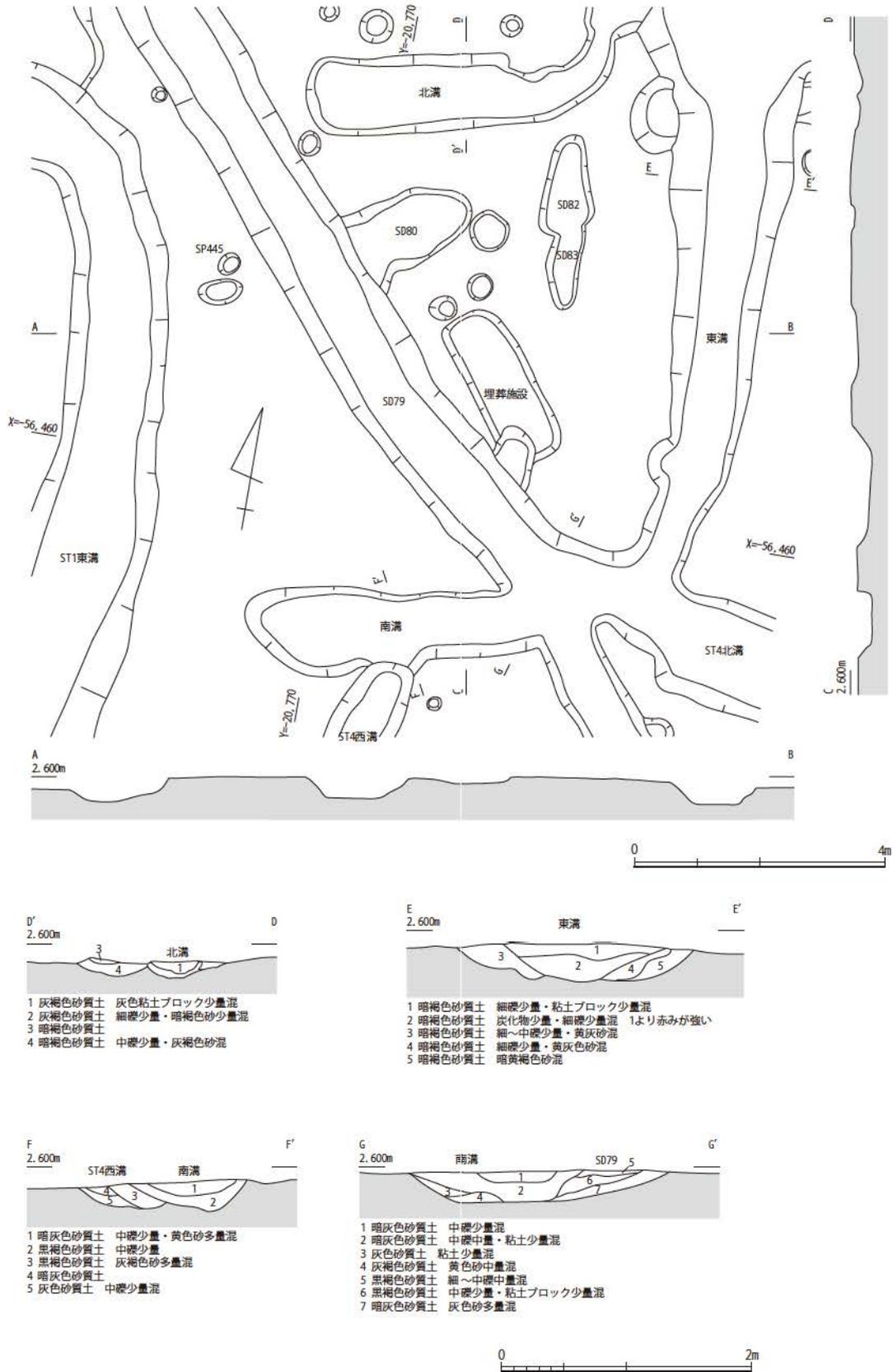
埋葬施設は4基確認した。いずれも木棺の痕跡は認められない。第1・3・4埋葬施設は規模に差はあるものの、いずれも墳丘の短軸にほぼ平行する。第2埋葬施設は墳丘の軸と揃わず、一部が西溝にほぼ接するような位置にある。

造営時期については周溝出土土器から弥生時代中期後葉と考えている。

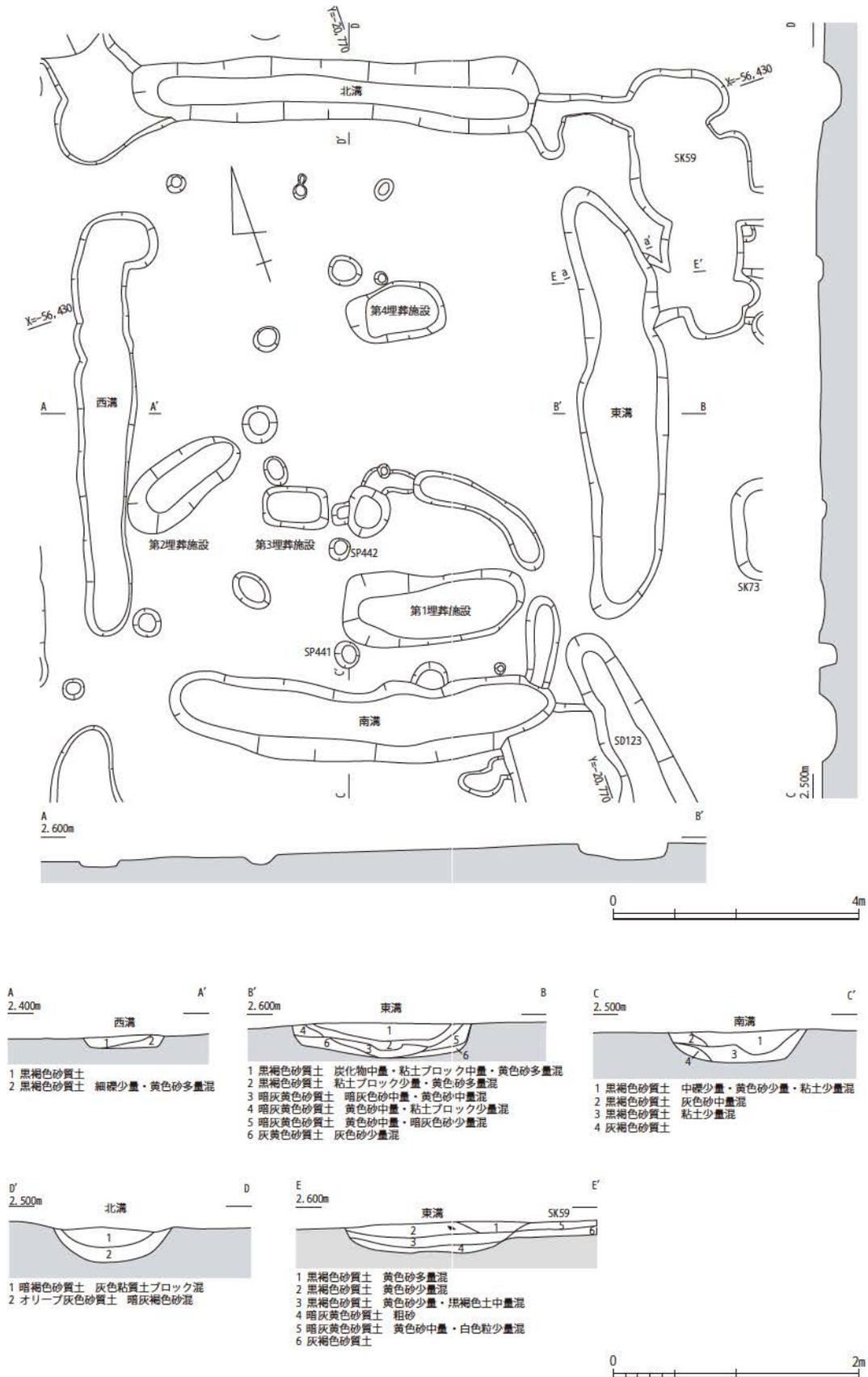
ST9 (第51~53図) II区D~F17・18グリッドに位置し、ST12に南接する。正方形に近い平面形を呈し、墳丘長軸11.5m、短軸10.6mを測る。長軸方向はN55°Wである。周溝は北・東溝間の一隅で途切れ、北溝から西溝にかけてST12南・西溝に切られている。周溝からは弥生時代中期後葉の土器(第223図1~7)が出土した。完形を保っていたもの、あるいは完形近くまで復元できた個体が比較的多く、なかでも東溝と南溝に集中している。また、北溝では、台部を欠失した水差(2)が、底面付近から横倒しの状態で出土した(図版第16)。

埋葬施設は1基確認した。墳丘中央からやや南西隅寄りに位置し、墳丘の長軸に対してわずかに斜交する。木片が出土しており、明確でないが土層断面からも木棺墓である

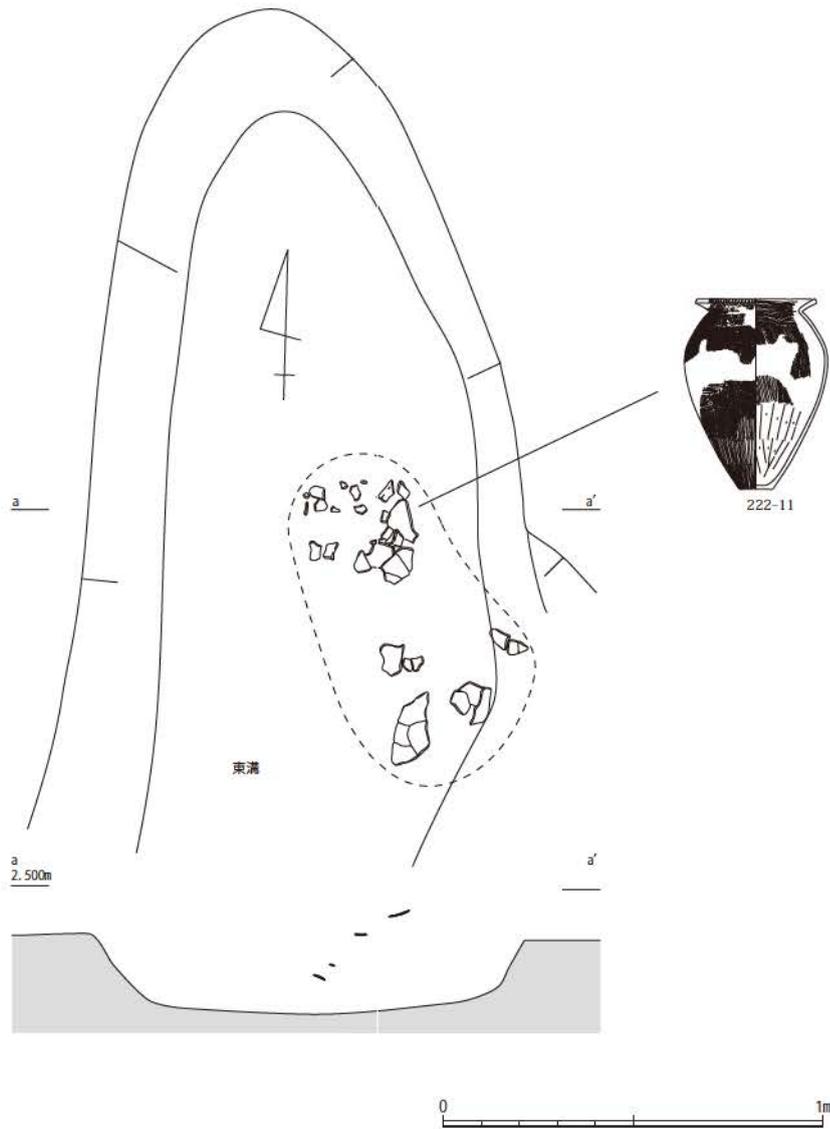
第1節 遺構



第47図 ST 7 全体・土層断面図(縮尺1/100・1/50)



第48図 ST 8 全体・土層断面図(縮尺1/100・1/50)



第49図 ST 8 遺物出土状況図(縮尺1/20)

可能性が高い。

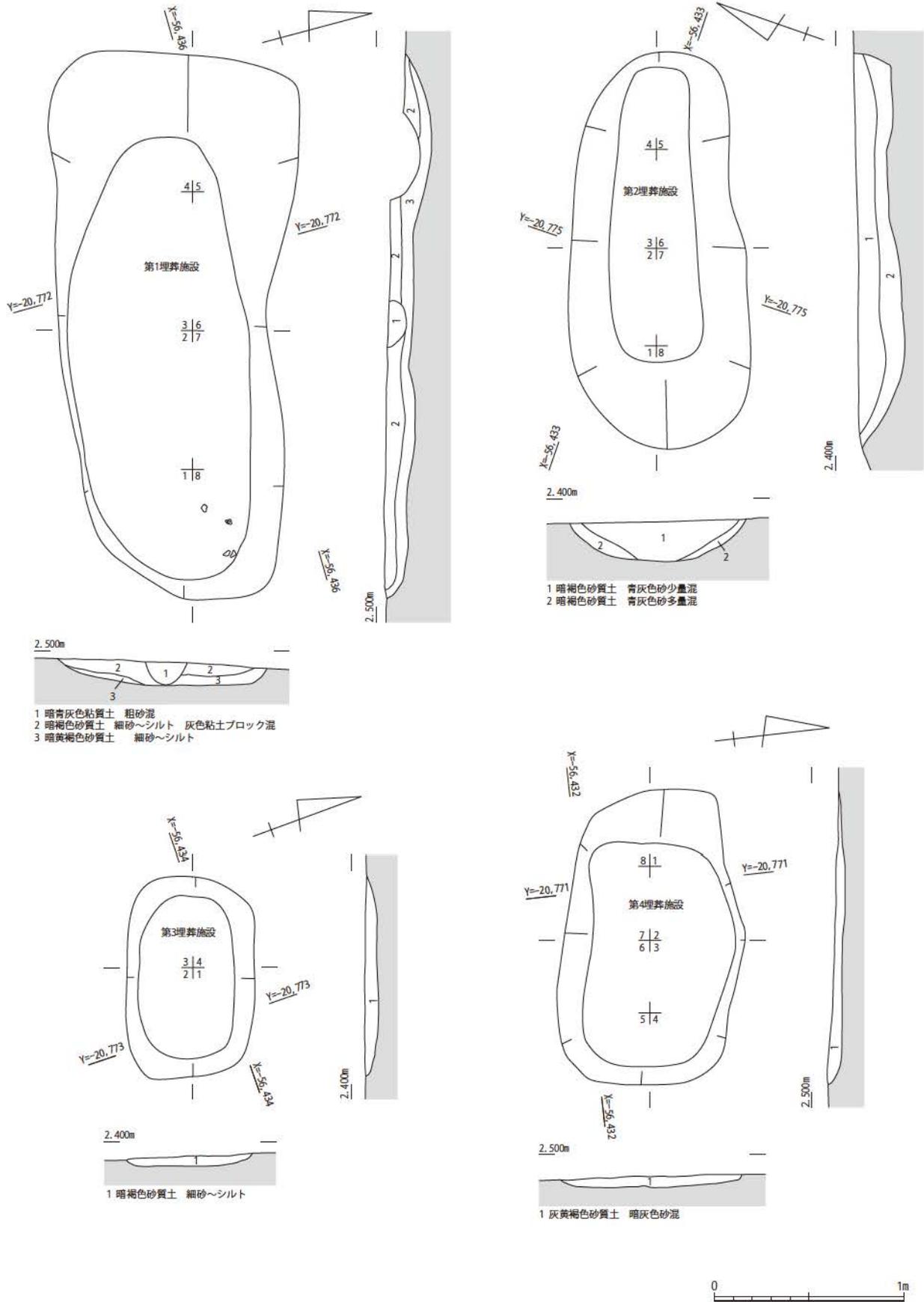
造営時期については周溝出土土器から弥生時代中期後葉と考えている。

ST11 (第54・55図) II・VII区D・E19・20グリッド、墓域の中央部に位置し、ST12北溝に北接、ST13に西接する。平面形は長方形を呈し、墳丘長軸11.5m、短軸8.6mを測る。長軸方向はN71° Wである。周溝は四隅で途切れ、東溝はST13西溝に、南溝はST12北溝にそれぞれ切られている。周溝からは弥生時代中期の土器片が少量出土している(第223図8)。埋葬施設は確認できなかった。

造営時期については、ST13が弥生時代中期後葉の造営とみられることから、それより下ることはないと考えている。

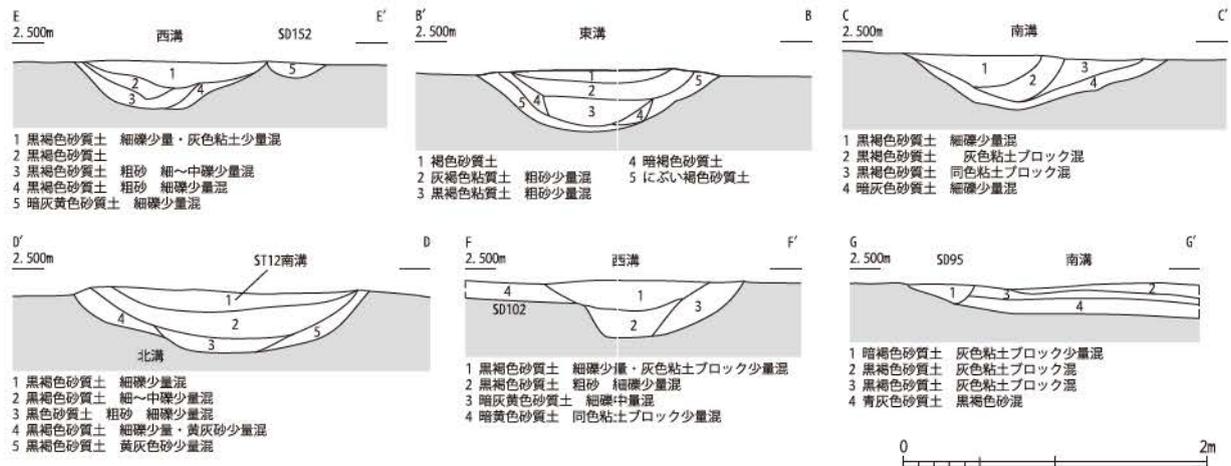
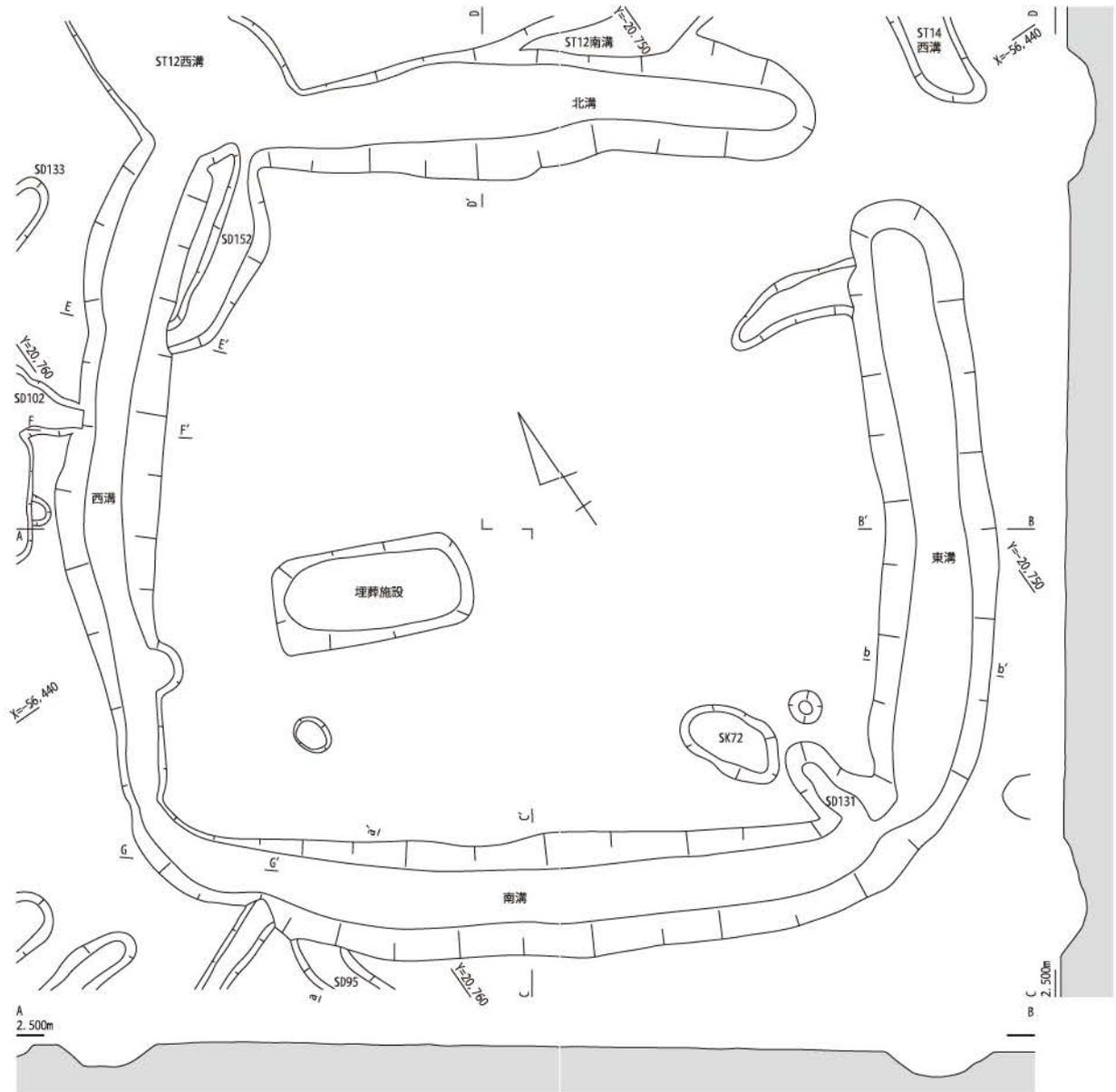
ST12 (第56図) II区D・E18・19グリッド、墓域の中央部に位置し、ST9に北接、ST11に南接する。平面形は長方形を呈し、墳丘長軸9m、短軸7.3mを測る。長軸方向はN75° Wである。周溝は北・東溝間の一隅で途切れる。北溝はST11南溝を、南溝はST9北溝を切る。埋葬施設は確認できなかった。

造営時期については切り合い関係から弥生時代中期後葉以降と考えている。

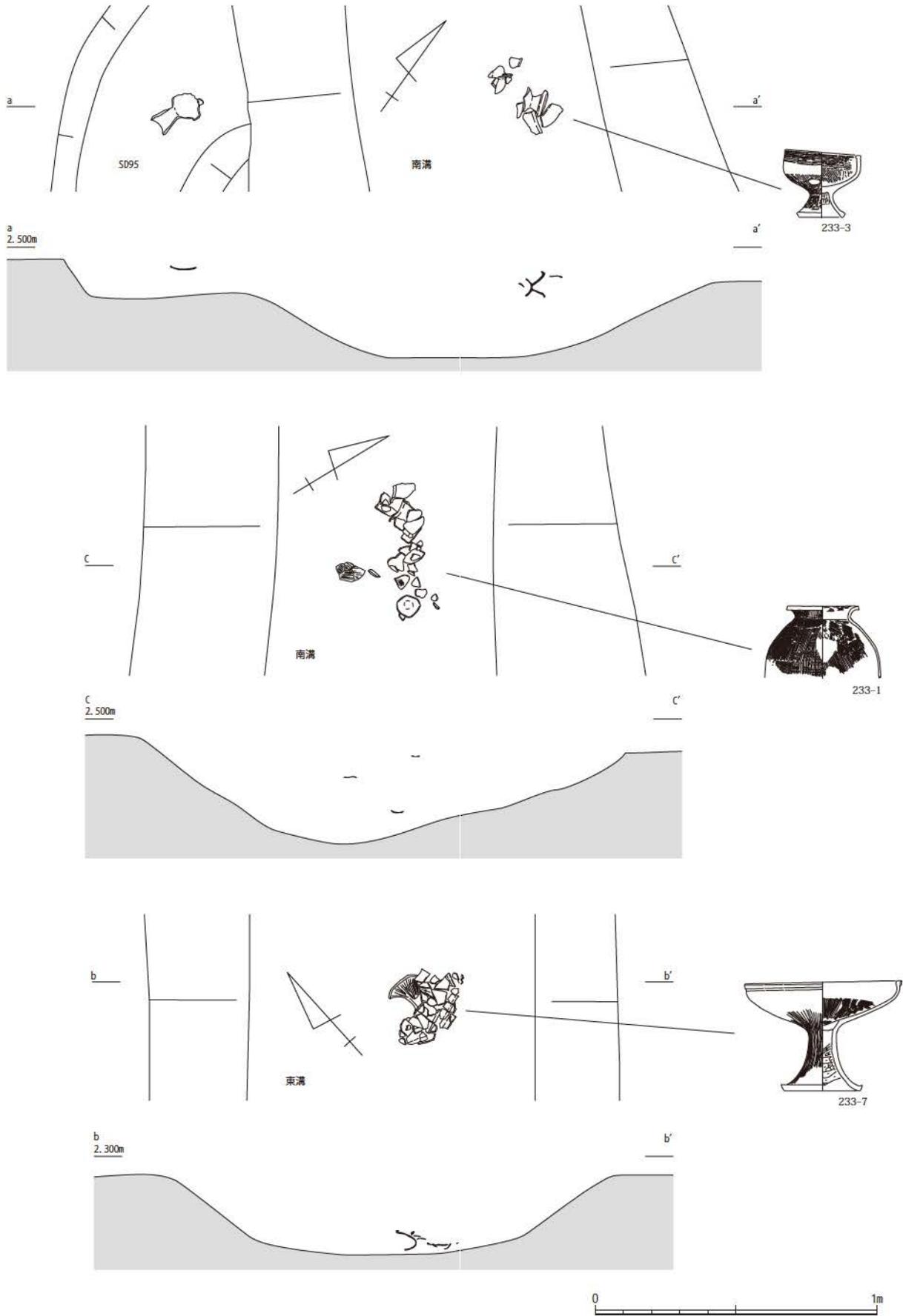


第50図 ST 8 埋葬施設実測図(縮尺1/30)

第1節 遺構



第51図 ST9全体・土層断面図(縮尺1/100・1/50)



第52図 ST 9 遺物出土状況図(縮尺1/20)

ST13 (第57～59図) II・VII区C・D18・19グリッド、墓域中央部東寄りに位置し、ST11に東接、ST17に西接する。北辺を除く三辺の周溝を検出した。北溝は現代水路による攪乱で破壊されている。平面形は長方形を呈すとみられ、墳丘長軸10.1m、方位N71° Wを測る。周溝は北溝と西溝の間で途切れる。西溝はST11東溝を切っており、東～南溝の角はST17南溝に切られている。また、東・西溝の堆積状況から、周溝の再掘削が行われた可能性を指摘しうる。周溝からは弥生時代中期後葉の土器(第223図9～11)が北東隅の墳丘寄り出土した。

埋葬施設は1基確認した。II・VII区の境界にあたり、VII区では掘形を検出できなかった。墳丘中央の長軸線上に位置し、木棺の痕跡は認められない。

造営時期については周溝出土土器から弥生時代中期後葉と考えている。

ST14 (第60図) II区C・D17・18グリッドに位置し、ST15に西接する。平面形は西辺がやや広がる台形を呈し、墳丘長軸7.6m、短軸6.7mを測る。

長軸方向はN62° Wである。周溝は南西隅と西溝中央付近で途切れるが、後者は、西溝が全体的に浅くしか遺存していないことから、部分的に削平されたものである可能性が高い。東溝はST15西溝を切っている。周溝からは弥生時代中期後葉の土器が出土した(第224図1・2)。埋葬施設は確認できなかった。

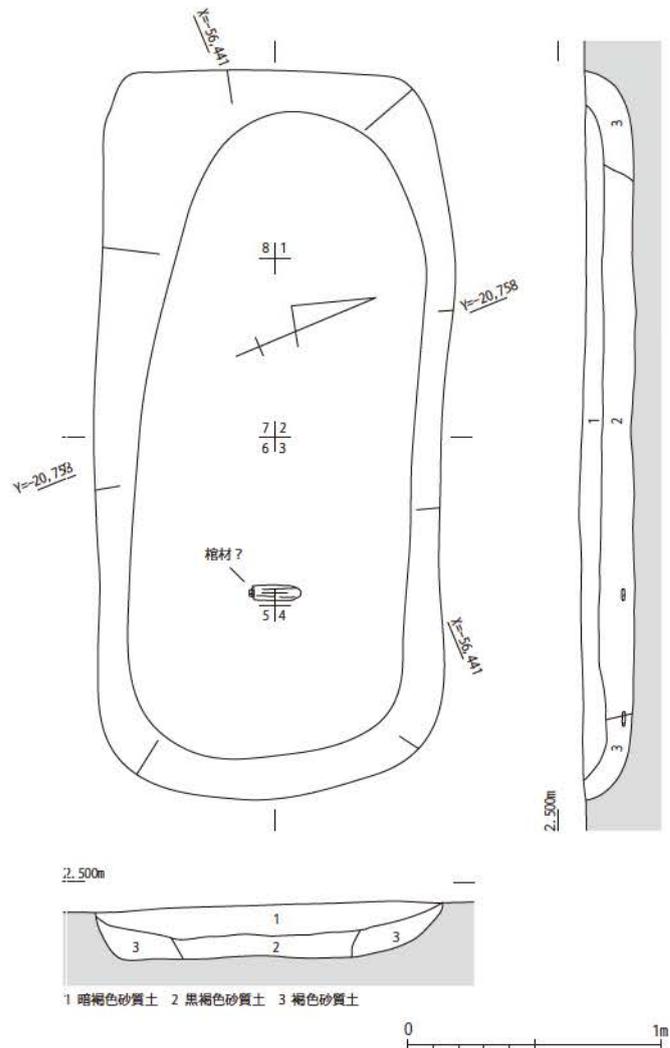
造営時期については周溝出土土器から弥生時代中期後葉と考えている。

ST15 (第61図) II区B17、C16～18グリッド、墓域中央付近の東辺に位置し、ST14に東接する。平面形は長方形を呈し、墳丘長軸10.4m、短軸7.1mを測る。長軸方向はN22° Eである。周溝は北・西溝間を除く3箇所途切れる。西溝はST14東溝に切られている。周溝からは弥生時代中期後葉の土器(第224図3～5)が出土した。埋葬施設は確認できなかった。

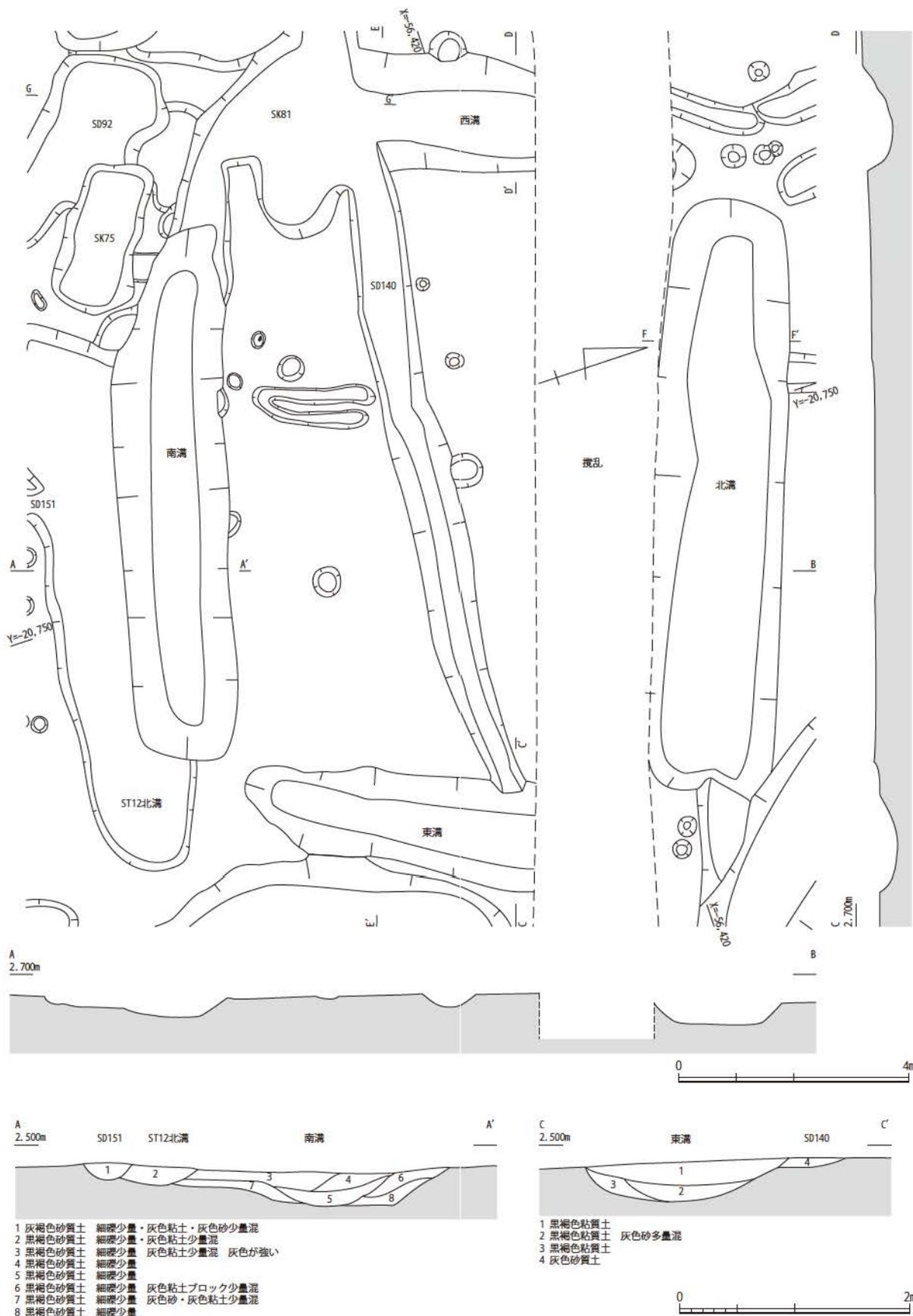
造営時期については周溝出土土器から弥生時代中期後葉と考えている。

ST16 (第62図) II区C・D15・16グリッドに位置し、調査区外へ広がる。周溝は西溝と北溝の一部を検出した。両溝からは弥生時代中期後葉の土器(第224図6～8)が少量出土している。埋葬施設は確認できなかった。

造営時期については周溝出土土器から弥生時代中期後葉と考えている。

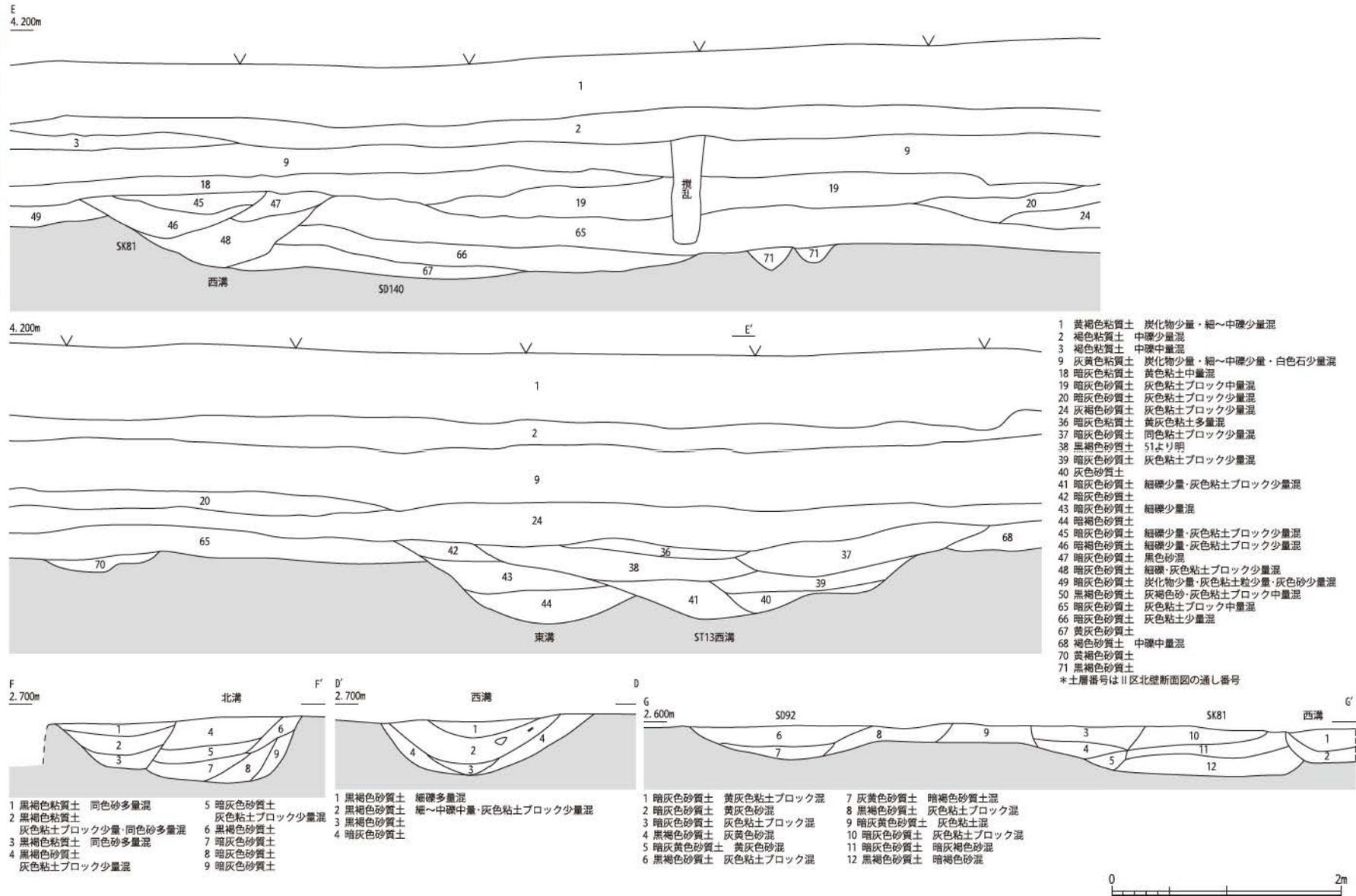


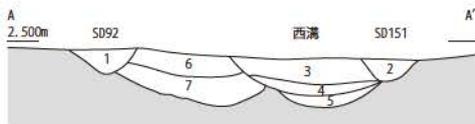
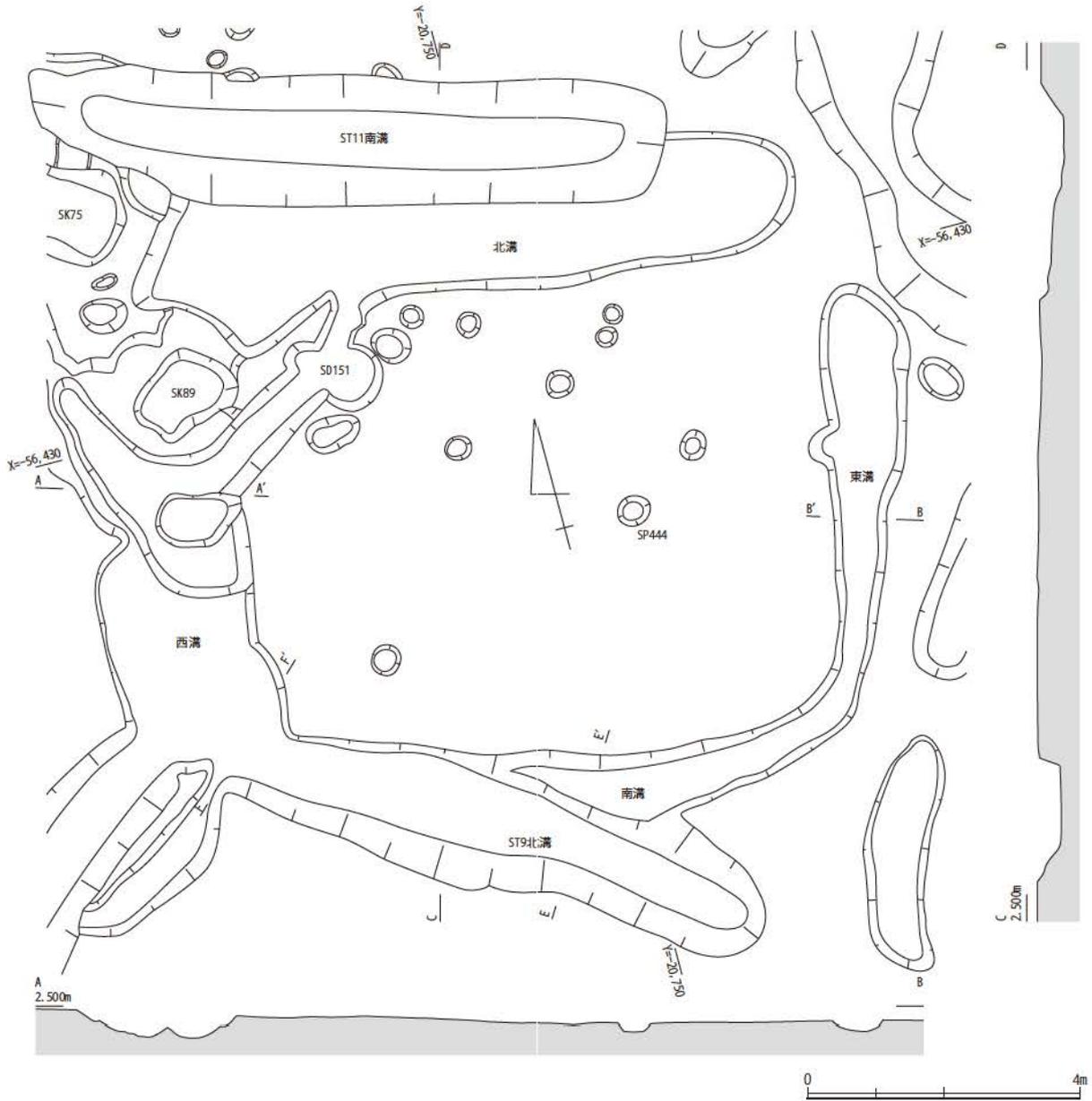
第53図 ST9埋葬施設実測図(縮尺1/30)



第54図 ST11全体・土層断面図(縮尺1/100・1/50)

第55図 ST11土層断面図(縮尺1/50)

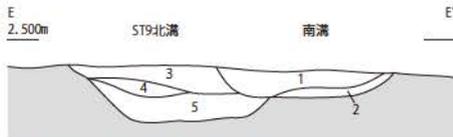




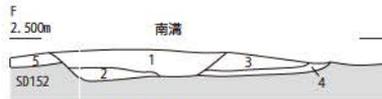
- 1 褐色砂質土 灰色粘土・砂混
- 2 黒褐色砂質土 灰色粘土ブロック混
- 3 黒褐色砂質土 中礫少量・灰色粘土ブロック少量混
- 4 黒褐色砂質土 細礫少量混
- 5 黒褐色砂質土 細礫少量混
- 6 黒褐色砂質土 細礫少量・灰色粘土ブロック混
- 7 暗灰色砂質土 細礫少量・灰色粘土ブロック混



- 1 暗褐色砂質土 同色粘土混
- 2 褐色砂質土 細礫少量混



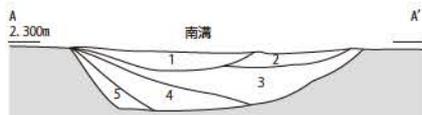
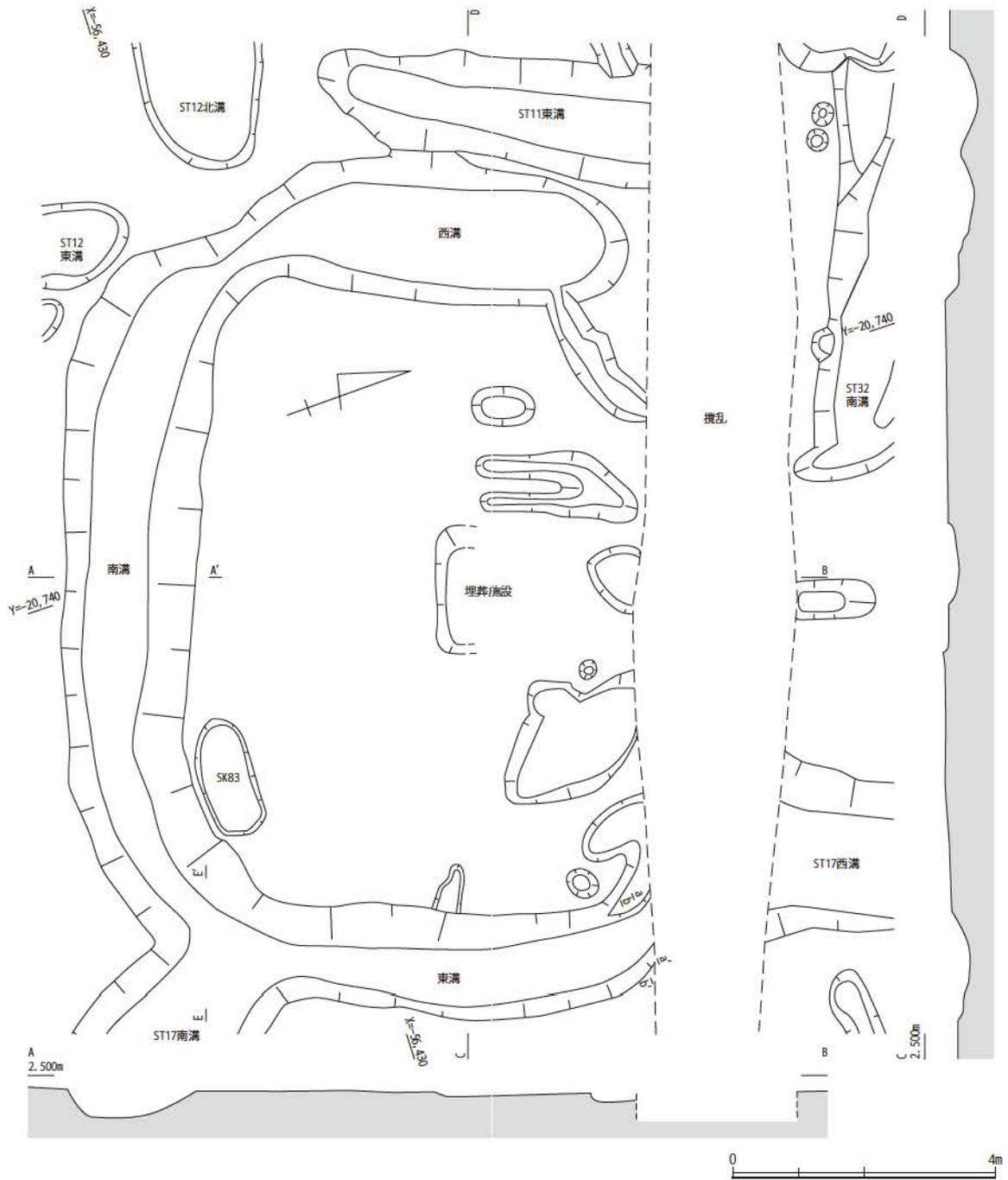
- 1 黒褐色砂質土 細～中礫少量・同色粘土混
- 2 黒褐色砂質土 細～中礫少量混
- 3 黒褐色砂質土 細礫少量・灰色粘土ブロック少量混
- 4 黒褐色砂質土 細礫少量・同色粘土多量混
- 5 黒褐色砂質土 細～中礫少量・同色粘土混



- 1 暗褐色砂質土 細礫少量混
- 2 灰褐色砂質土 細礫少量混
- 3 灰褐色砂質土 細礫少量混
- 4 褐灰色砂質土 細礫少量混

第56図 ST12実測図(縮尺1/100・1/50)

第1節 遺構



- 1 黒褐色砂質土 中礫少量・同色粘土混
- 2 黒褐色砂質土
- 3 黒褐色砂質土 同色粘土混
- 4 黒褐色砂質土 同色粘土混
- 5 黒褐色砂質土 細礫少量混

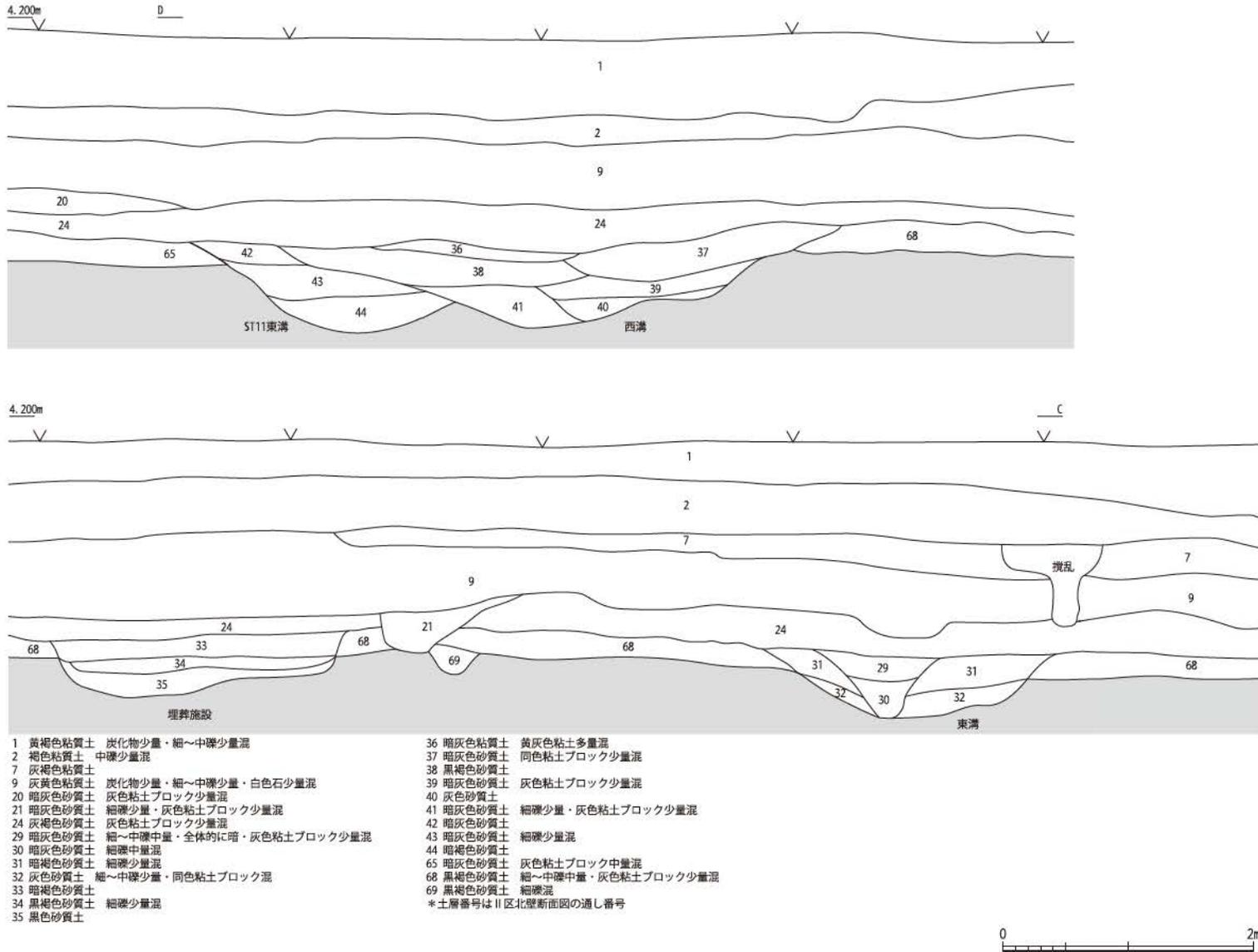


- 1 黒褐色砂質土 中礫少量・同色粘土・灰色粘土ブロック少量混
- 2 黒褐色砂質土 中礫少量・同色粘土混
- 3 黒褐色砂質土 中礫少量・同色粘土・灰色粘土ブロック混
- 4 黒褐色砂質土 細礫中量・同色粘土ブロック混
- 5 黒褐色砂質土 中礫少量・同色粘土ブロック混

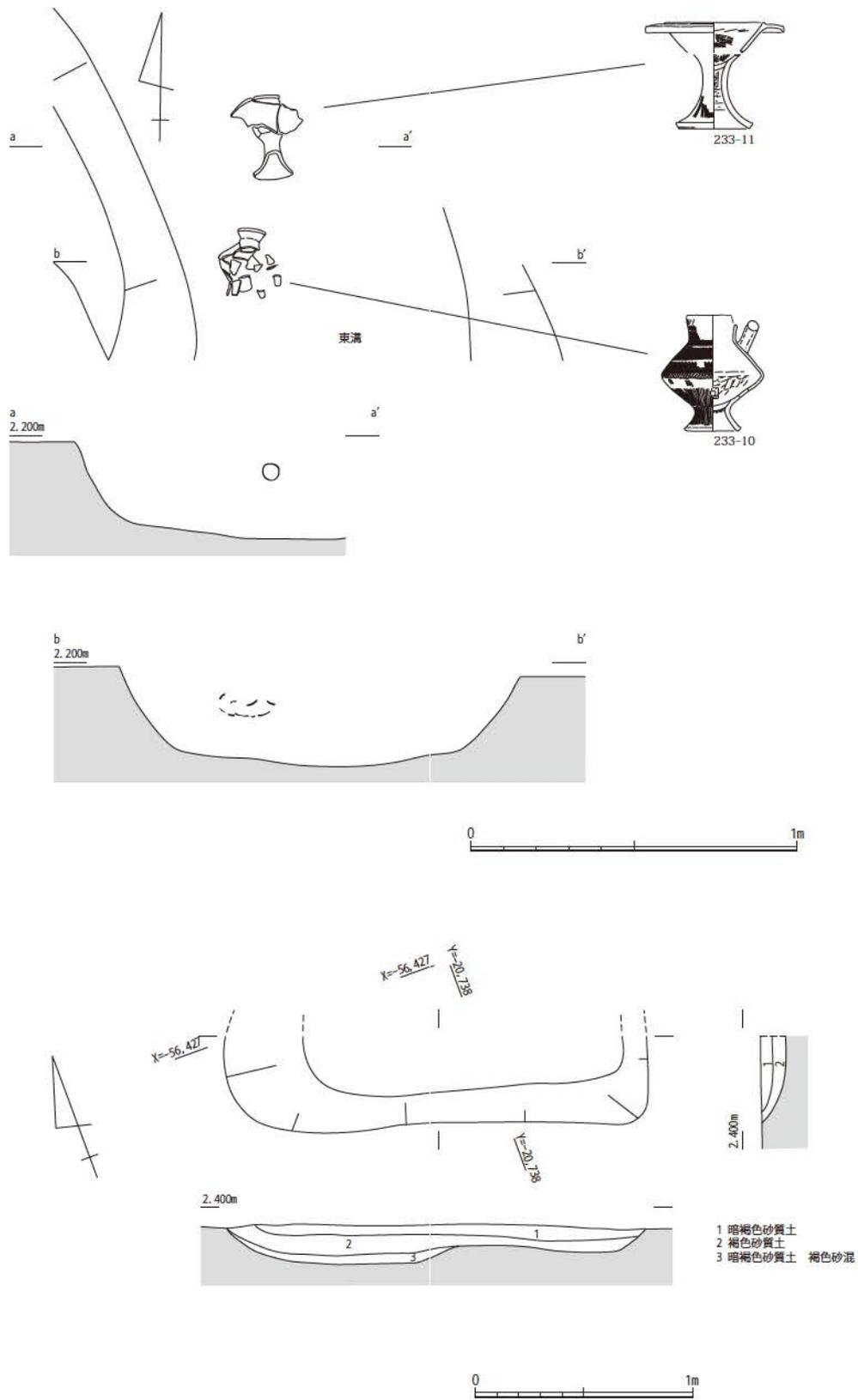


第57図 ST13全体・土層断面図(縮尺1/100・1/50)

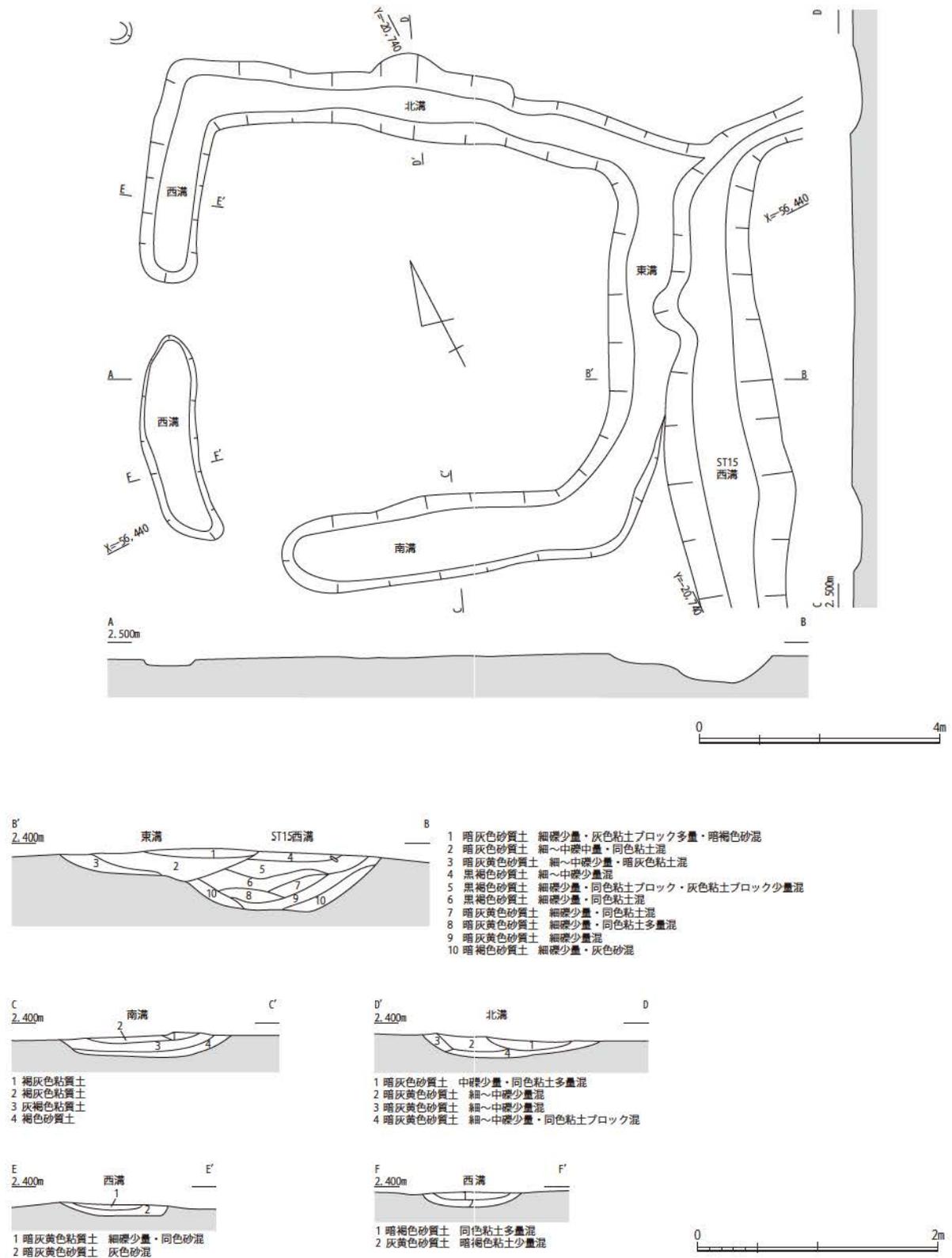
第58図 ST13土層断面図(縮尺1/50)



第1節 遺構

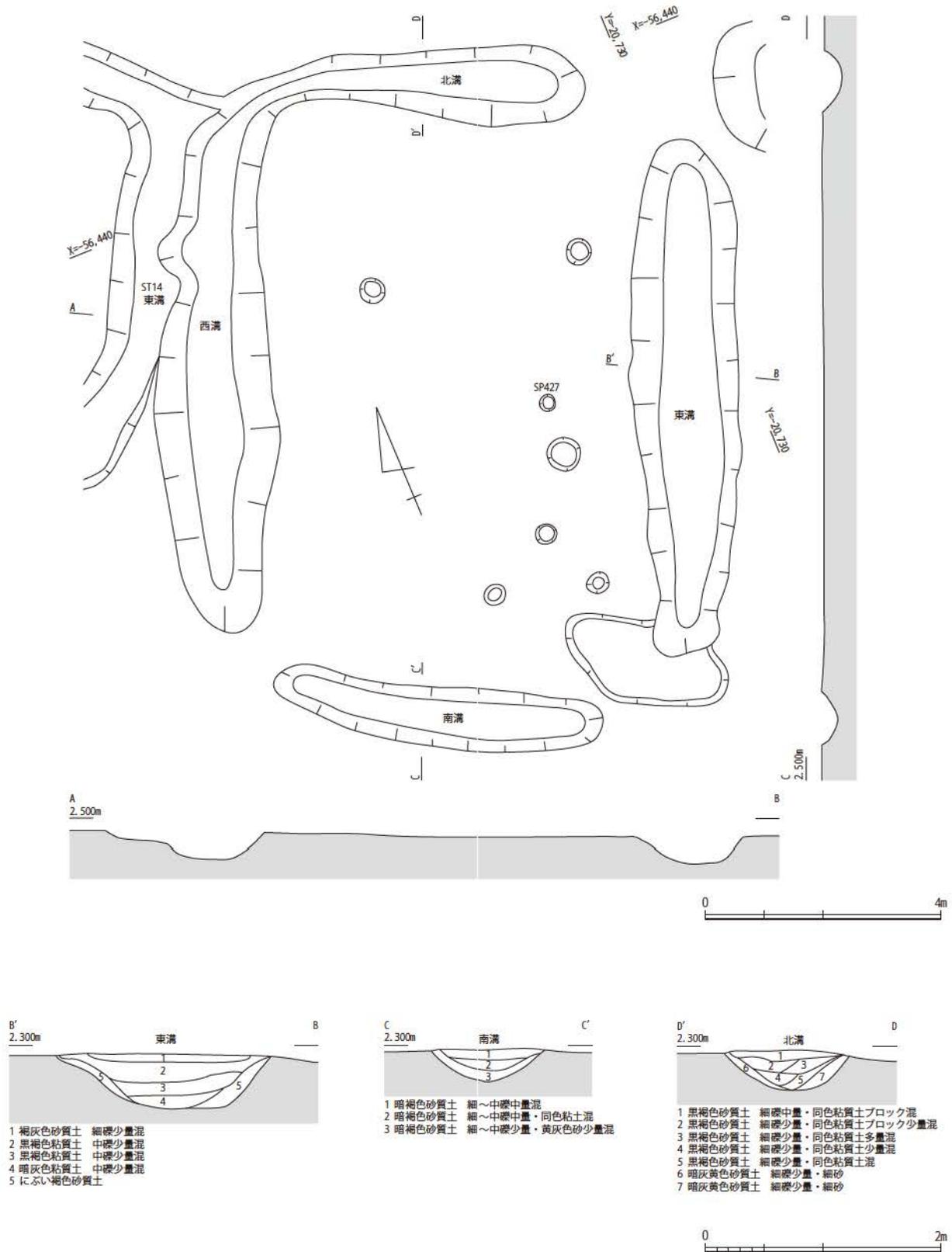


第59図 ST13遺物出土状況・埋葬施設実測図(縮尺1/20・1/30)

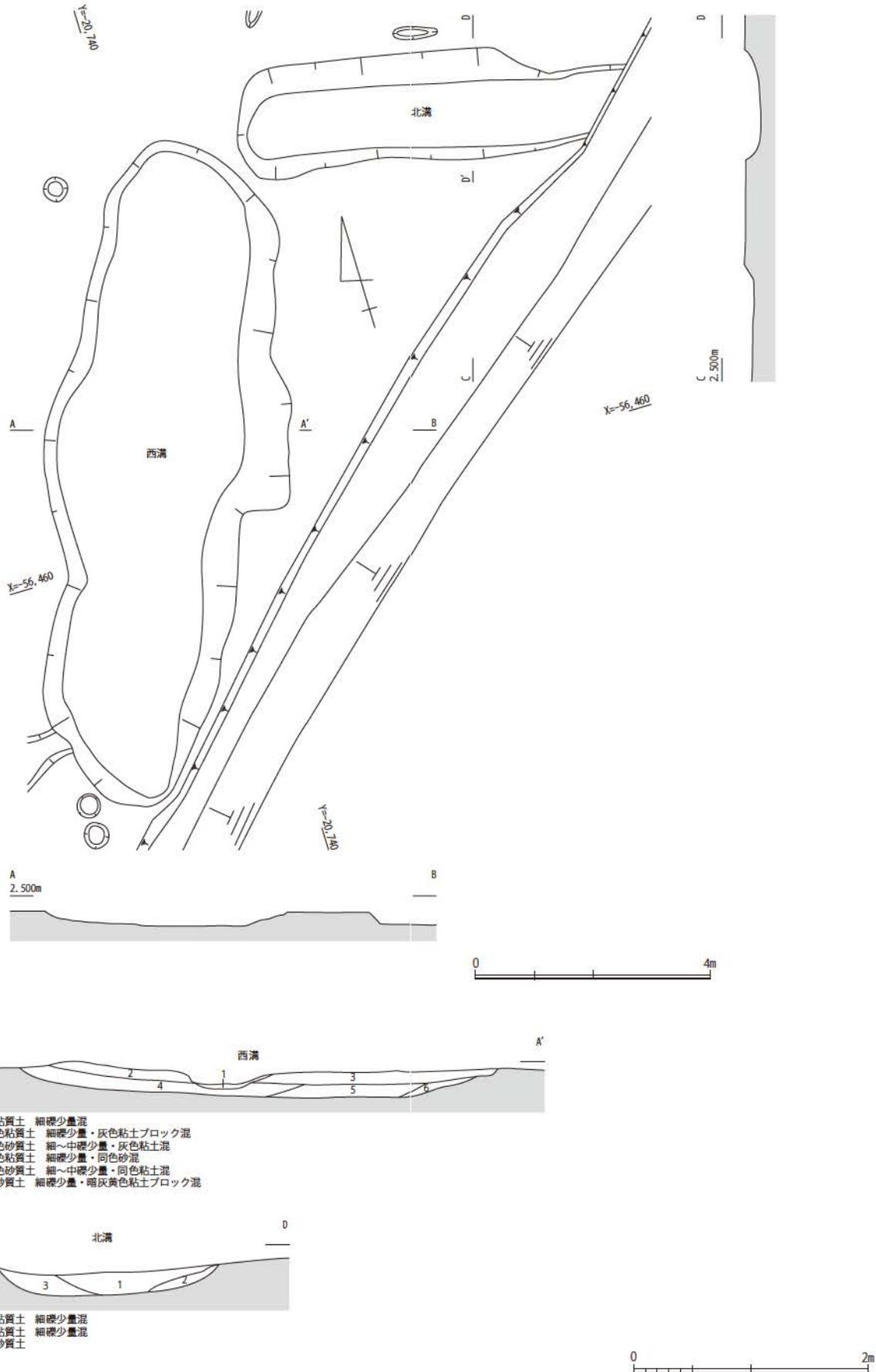


第60図 ST14実測図(縮尺1/100・1/50)

第1節 遺構

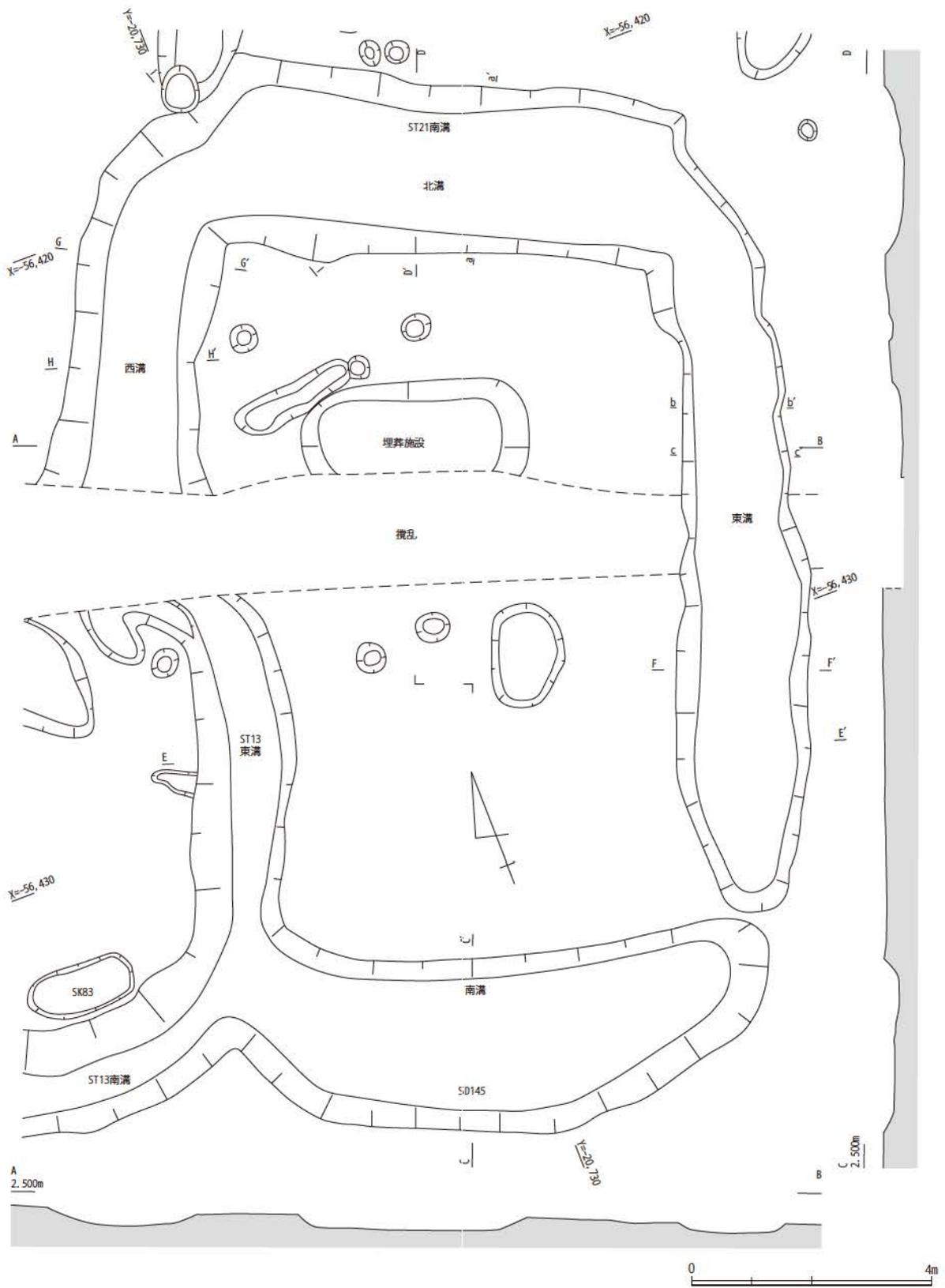


第61図 ST15実測図(縮尺1/100・1/50)



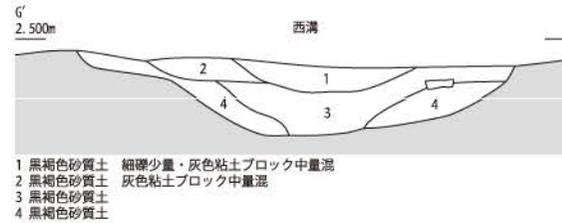
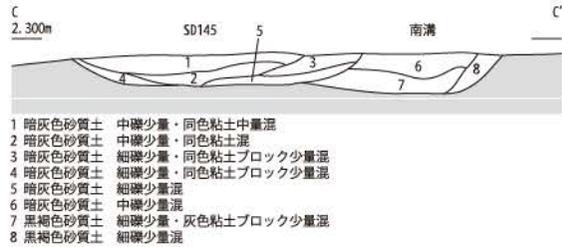
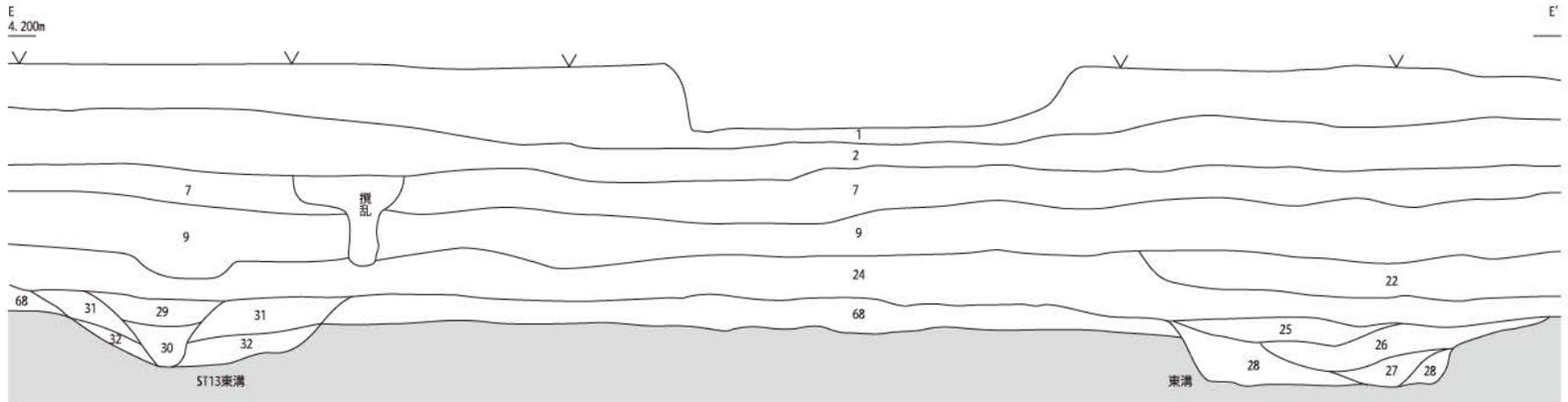
第62図 ST16実測図(縮尺1/100・1/50)

第1節 遺構

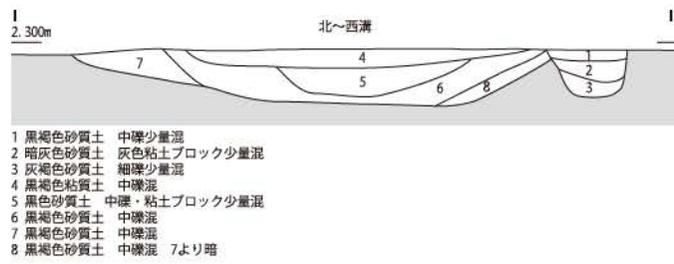
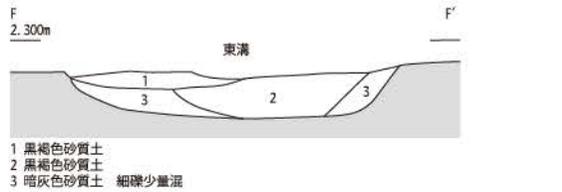
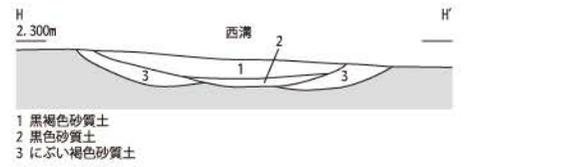
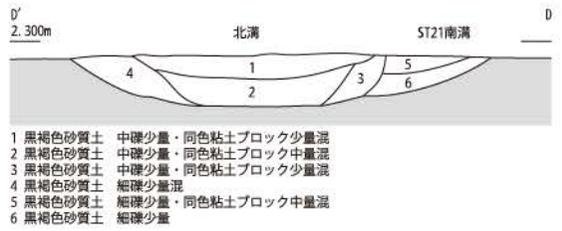


第63図 ST17全体図(縮尺1/100)

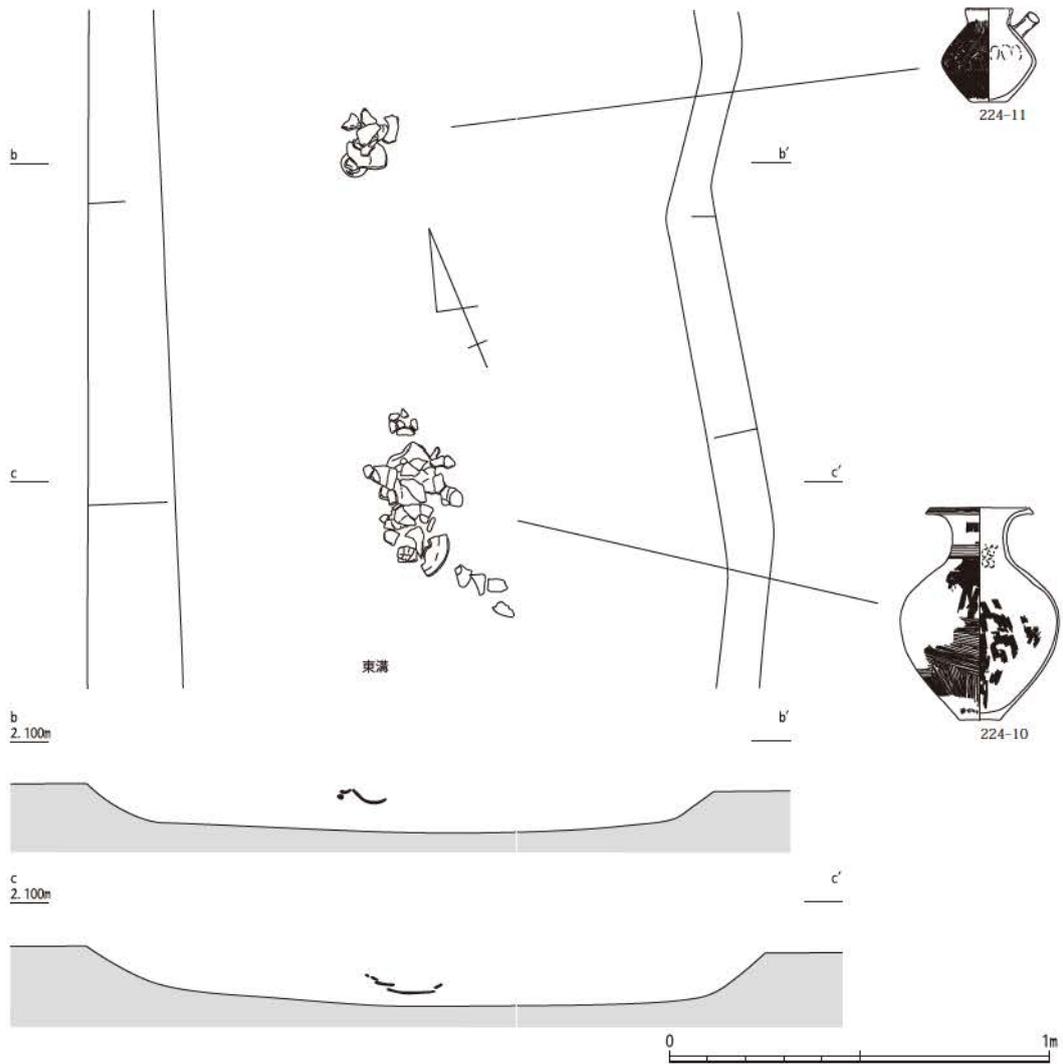
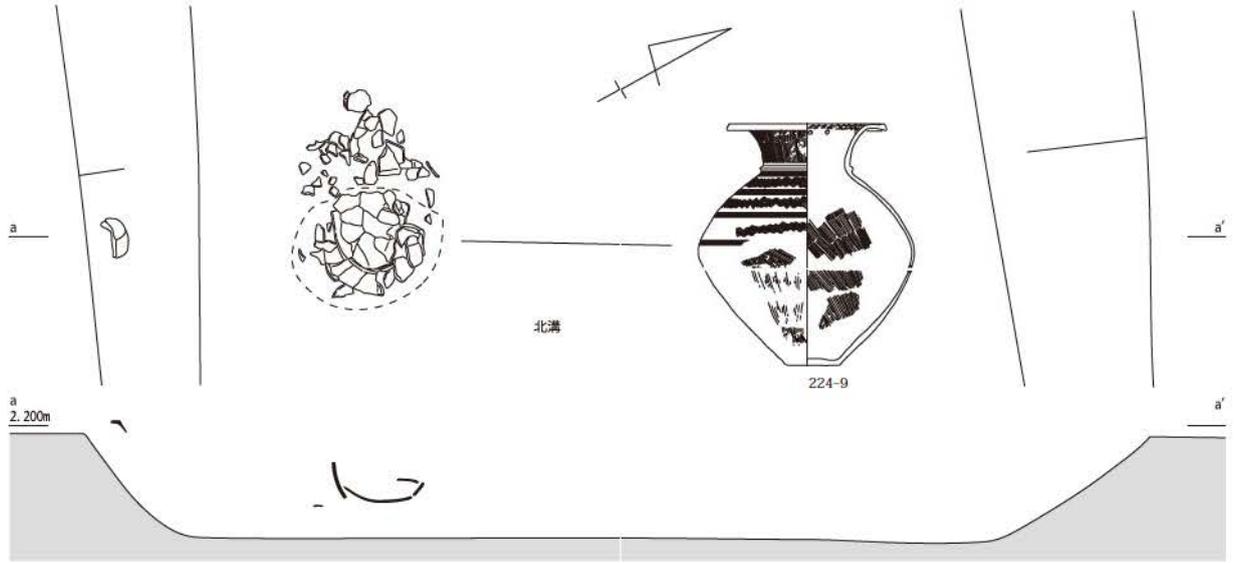
第64図 ST17土層断面図(縮尺1/50)



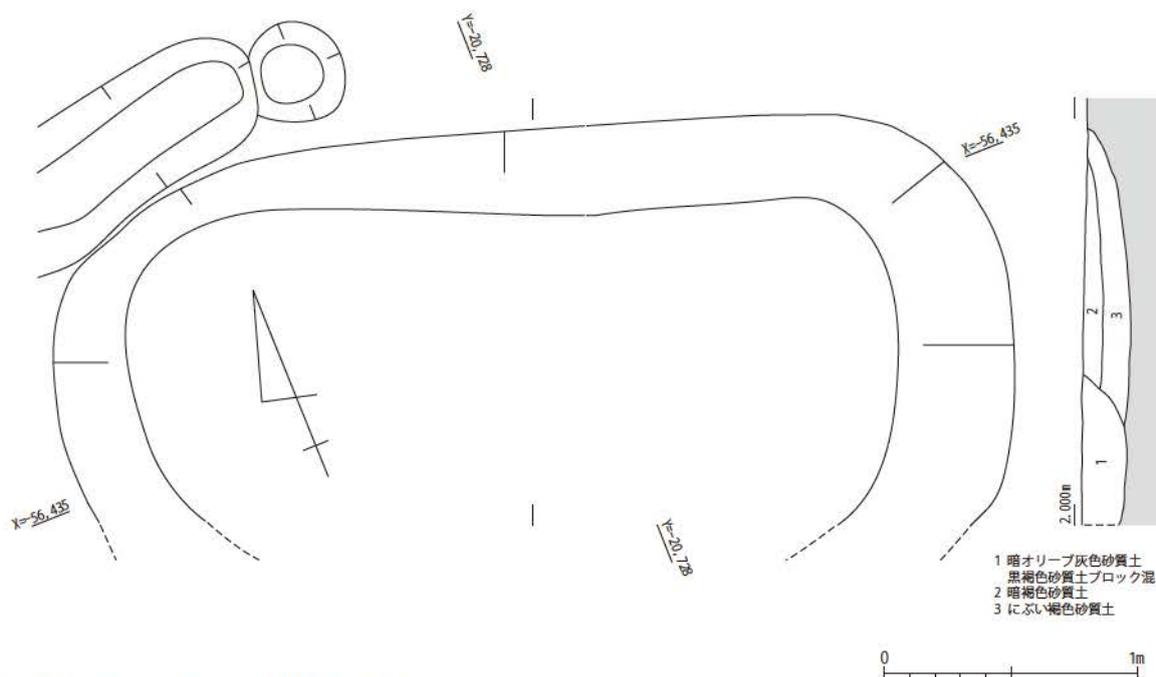
- 1 黄褐色粘質土 炭化物少量・細～中礫少量混
 - 2 褐色粘質土 中礫少量混
 - 7 灰褐色粘質土
 - 9 灰黄色粘質土 炭化物少量・細～中礫少量・白色石少量混
 - 22 暗灰色粘質土 細～中礫少量混
 - 24 灰褐色砂質土 灰色粘土ブロック少量混
 - 25 暗褐色砂質土
 - 26 暗灰色粘質土 細礫少量混
 - 27 黒褐色粘質土 粗砂少量混
 - 28 暗灰色粘質土 細礫少量混
 - 29 暗灰色砂質土 細～中礫中量・灰色粘土ブロック少量混
 - 30 暗灰色砂質土 細礫中量混
 - 31 暗褐色砂質土 細礫少量・粗砂混
 - 32 灰色砂質土 細～中礫少量・同色粘土ブロック混
 - 68 黒褐色砂質土 細～中礫中量・灰色粘土ブロック少量混
- *土層番号はII区北壁断面図の通り番号



第1節 遺構



第65図 ST17遺物出土状況図(縮尺1/20)



第66図 ST17埋葬施設実測図(縮尺1/30)

ST17 (第63～66図) II・IV・VII区B・C18～20グリッド、墓域中央部の東辺に位置し、ST13に東接、ST21に南接する。平面形は長方形を呈し、墳丘長軸12.5m、短軸8.6mを測る。長軸方向はN21° Eである。周溝は北・東・南溝は明瞭な形で検出できたが、西溝は現代水路による攪乱を境に途切れてしまっている。南溝はST13東～南溝を、北溝がST21南溝をそれぞれ切っている。また、南溝を切っているSD145は再掘削された周溝の可能性もある。周溝からは弥生時代中期後葉の土器(第224図9～16)が多数出土しており、北溝および東溝ではほぼ完形の壺(9・10)や水差(11)がみられる。

埋葬施設は1基確認した。墳丘北半の中央付近に位置し、長軸は墳丘短軸に平行する。南辺が攪乱で破壊されているほか、後世の土坑に切られている。木棺の痕跡は認められなかった。

造営時期については周溝出土土器から弥生時代中期後葉と考えている。

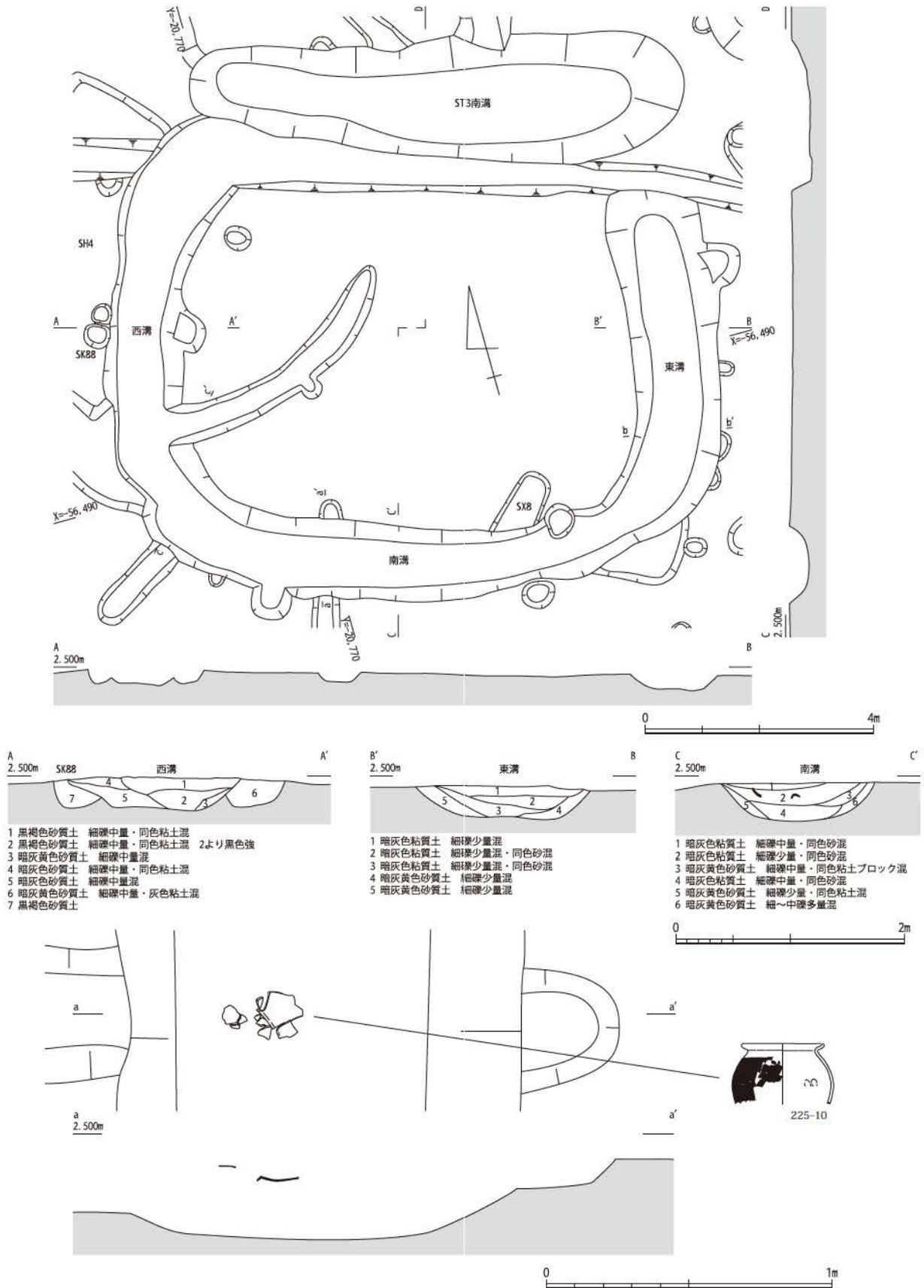
ST18 (第67・68図) II区F・G12・13グリッド、墓域の南端に位置し、ST3に南接する。平面形は長方形を呈し、墳丘長軸8.5m、短軸7.1mを測る。長軸方向はN74° Wである。周溝は、北溝がST3南溝および調査に伴う排水路によって破壊されているが、北東隅の1箇所途切れるものとする。また、西辺で時期の先行する周溝建物SH4と切り合い、さらに、南溝を切って木棺墓SX8が構築されている。周溝からは弥生時代中期後葉の土器(第225図1～16)が多く出土し、特に東溝と南溝に集中する。器種は壺・水差・高杯が目立ち、東溝で出土した台付水差(5)は原形をほぼ保っていた。埋葬施設は確認できなかった。

造営時期については周溝出土土器から弥生時代中期後葉と考えている。

ST19 (第69・70図) II・VII区F・G19・20グリッド、墓域中央部西寄りに位置し、ST58に西接する。四辺で周溝を検出したが、北辺付近は現代水路による攪乱のため、大きく破壊されている。また、複数の遺構と複雑に切り合う部分もあって明確ではないが、周溝は全周せず、南西隅を除く数箇所途切れる可能性がある。北溝はST58西溝を切っている。埋葬施設は確認できなかった。

造営時期については切り合い関係から弥生時代中期後葉以降と考えている。

第1節 遺構



第67図 ST18全体・土層断面・遺物出土状況図(縮尺1/100・1/50・1/20)